

2025 年度入学者用

看護学部履修要項



静岡県立大学

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

学籍番号	氏 名

令和7年度 静岡県立大学年間授業予定表

2025年4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			2026年1月			2月			3月			
日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	
1	火	学年・前期開始	1	木	木4	1	日		1	火	火11	1	金	金18	1	月		1	水	水1	1	土	土5	1	月	前期・中期生徒入校	1	木	木元日	1	日		1	日		
2	水		2	金	金3	2	月	月7	2	水	水11	2	土	土18	2	火		2	木	木1	2	日		2	火	火8	2	金		2	月	月15	2	月		
3	木	前期休業終了	3	土	憲法記念日	3	火	火7	3	木	木13	3	日		3	水		3	金	金1	3	月	文化の日	3	水	水9	3	土		3	火	火15	補	火		
4	金	ガイダンス	4	日	みどりの日	4	水	水7	4	木	木12	4	月	月18	4	木		4	土	土1	4	火	午前月4[変則] 午後月5[変則]	4	木	木10	4	日		4	水	水16	補	水		
5	土		5	月	こどもの日	5	木	木9	5	土	土12	5	火	火18	5	金		5	日		5	水	水5	5	金	金9	5	月	月11	5	木	木16	補	木		
6	日		6	火	振替休日	6	金	金8	6	日		6	水	水18	6	土		6	月	月1	6	木	木6	6	土	土10	6	火	火12	6	金	金16	後	金		
7	月	ガイダンス	7	水	水3	7	土	土8	7	月	月12	7	木		7	日		7	火	火1	7	金	金6	7	月	月8	7	水	水12	7	土	土16	期	土		
8	火	ガイダンス	8	木	木5	8	日		8	火	火12	8	金		8	月		8	水	水2	8	土	土6	8	火	火9	8	木	木13	8	日		8	日	入試中絶※	
9	水	入学式	9	金	金4	9	月	月8	9	水	水12	9	土		9	火		9	木	木2	9	日		9	水	水10	9	金	金12	9	土	土13	期	土		
10	木	木1	10	土	土4	10	火	火8	10	木	木13[変則]	10	日		10	水		10	金	金2	10	月	午前月5 午後月6	10	木	木10	10	土	土13	10	日		10	火		
11	金	金1	11	日		11	水	水8	11	金	金13	11	月	山の日の	11	木		11	土	土2	11	火	火5	11	月	月11	11	日		11	水	水16	期	水		
12	土	土1	12	月	月4	12	木	木10	12	土	土13	12	火		12	金		12	日		12	水	水6	12	火	火10	12	木	木12	12	金	金16	後	金		
13	日		13	火	火4	13	金	金9	13	日		13	土		13	月		13	月	スポーツの日	13	木	木7	13	土	土11	13	火	火12	13	水	水16	期	水		
14	月	月1	14	水	水4	14	土	土9	14	月	月14	14	木	木大学休業日	14	火		14	火	火2	14	金	金7	14	日		14	水	水13	14	土	土16	期	土		
15	火	火1	15	木	木6	15	日		15	火	火13	15	金	金大学休業日	15	土		15	水	水3	15	月	月7	15	月	月9	15	木	木13[変則]	15	日		15	日		
16	水	水1	16	金	金5	16	月	月9	16	土	土13	16	日		16	火		16	木	木3	16	日		16	火	火10	16	金	金13[変則]	16	月	月15	期	月		
17	木	木2	17	土	土5	17	火	火9	17	木	木14	17	日		17	水		17	金	金3	17	月	午前月6 午後月7	17	木	木11	17	土	土14	17	火	火16	期	火		
18	金	開学記念行事	18	日		18	水	水9	18	金	金14	18	月		18	木		18	土	土3	18	火	火6	18	火	火12	18	水	水15	18	土	土18	期	土		
19	土	土2	19	月	月5	19	木	木11	19	土	土14	19	火		19	金		19	日		19	水	水7	19	金	金11	19	木	木16	19	月	月19	期	月		
20	日	開学記念日	20	火	火5	20	金	金10	20	日		20	水		20	土		20	月	月3	20	木	木8	20	土	土12	20	火	火13	20	金	金20	期	金		
21	月	月2	21	水	水5	21	土	土10	21	月	海の日の	21	木	木県民の日の	21	火		21	火	火3	21	金	金8	21	日		21	水	水14	21	土	土21	期	土		
22	火	火2	22	木	木7	22	日		22	火	火14	22	金		22	月		22	水	水4	22	月	月8	22	月	月10	22	木	木14	22	日		22	日		
23	水	水2	23	金	金6	23	月	月10	23	水	水14	23	土		23	火		23	木	木4	23	日	勤労感謝の日	23	火	火11	23	金	金14	23	土	土23	期	土		
24	木	木3	24	土	土6	24	火	火10	24	木	木15	24	日		24	水		24	金	金4	24	月	振替休日	24	水	水11	24	木	木14	24	火	火24	期	火		
25	金	金2	25	日		25	水	水10	25	金	金15	25	月		25	木		25	土	土4	25	火	火7	25	金	金12	25	土	土15	25	日		25	水		
26	土	土3	26	月	月6	26	木	木12	26	土	土15	26	火		26	金		26	日		26	水	水8	26	金	金13	26	木	木15	26	火	火25	期	火		
27	日		27	火	火6	27	金	金11	27	日		27	水		27	土		27	月	月4	27	月	午前月7 午後月8	27	土	土14	27	火	火14	27	金	金27	期	金		
28	月	月3	28	水	水6	28	土	土11	28	月	月15	28	火		28	火		28	水	水4	28	金	午前月7[変則] 午後月8	28	日		28	木	木15	28	土	土28	期	土		
29	火	昭和の日	29	木	木8	29	日		29	火	火15	29	金		29	月		29	水	水4	29	土	土9	29	月	月15	29	金	金15	29	土	土29	期	土		
30	水	水3[変則]	30	金	金7	30	月	月11	30	水	水15	30	土		30	火		30	木	木5	30	日		30	火	火15	30	土	土15	30	日		30	月		
31	木		31	土	土7				31	木	木16	31	日					31	金	金5						31	水	水15						31	火	
前期及び通年科目の履修登録(下旬まで)																																				

※印の日は入試のための大学構内への入構制限あり。一般学生は入構できません。

赤字は、主な行事、注意が必要な休講日、入構禁止日

青字は、変則日程

は休業日

は通常授業が行われない日

履 修 案 内

2025 年度 看護学部履修要項・目次

I 学部の理念	3
II 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	
III 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）	
IV 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）	
資料：授業科目一覧表（配当年次・単位数）	9
V 履修方法（編入学生は含まない）	14
1 単位制	
1) 単位と時間数 2) 必修・選択等による履修区分 3) 配当年次 4) 履修条件	
2 授業	
1) 学期 2) 授業時間割 3) 休講・補講・集中講義	
3 履修申告	
1) 時期 2) 方法：履修登録の流れ 3) 履修申告の注意事項	
4) 他学部の授業科目の履修 5) 入学前の既修得単位の認定	
4 試験	
1) 試験の種類 2) 受験資格 3) 受験上の注意事項	
5 学修の評価	
1) 評価の基準 2) 成績の発表	
6 修業年限と在学年限	
1) 修業年限と在学年限 2) 進級要件 3) 卒業要件 4) 留意事項	
7 資格および認定	
1) 国家試験受験資格 2) 養護教諭二種免許 3) 第一種衛生管理者免許	

VI 編入学生：履修方法	23
1 単位制	
1) 単位と時間数 2) 必修・選択等による履修区分 3) 配当年次 4) 履修条件	
2 授業	
1) 学期 2) 時間割 3) 休講・補講・集中講義	
3 履修申告	
1) 時期 2) 方法：履修登録の流れ・登録届の記入方法 3) 履修申告における注意事項	
4) 他学部の授業科目の履修 5) 編入学生のカリキュラムに指定されていない授業科目の履修方法	
4 編入学生の単位認定と履修	
資料：授業科目一覧表（配当年次・単位数）	
5 試験	
1) 試験の種類 2) 受験資格 3) 受験上の注意事項	
6 学修の評価	
1) 評価の基準 2) 成績の発表	
7 修業年限と在学年限	
1) 修業年限と在学年限 2) 卒業要件	
VII 学生相談	32
1 アドバイザー制度	
2 学生の身分異動	
1) 休学 2) 復学 3) 退学	
VIII 事故発生時の対処	33
1) 事故の定義 2) 事故発生時の対応	
IX 講義概要	35
1 基礎分野 I (全学共通科目) 2 基礎分野 II 3 専門基礎分野 4 専門分野	
X 看護学部履修細則	313
1) 令和 6 年度以降入学生用	
2) 令和 6 年度以降入学の編入学生 (3 年課程修了者用)	

I 学部理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

II 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学部（以下、本学部という）は、126単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、学則に定める少子高齢社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、確かな看護判断能力と実践能力を身につけ、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材を育成することを目的とする。

その実現のために下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に学位を授与する。

1. 幅広い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する知識を有している。
 - 1-1. 幅広い一般教養を身につけている。
 - 1-2. 「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する基礎的知識を身につけている。
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる。
4. チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。
5. 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。
6. 看護学の発展に寄与するために、探求心と主体性を身につけている。

Ⅲ 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本学部は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・能力などの目標を達成するために、基礎分野Ⅰ、基礎分野Ⅱ、専門基礎分野、専門分野の教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。カリキュラム編成は次の通りである。



1. 基礎分野Ⅰとは

基礎分野Ⅰの科目では、5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。

看護学部においては、進級・卒業要件である基礎分野Ⅰの科目(全学共通科目)を「授業科目一覧」に掲載してある科目の中から、幅広く、偏りの無いように選択しなければならない。なお、必修科目「数理・データサイエンス・AI入門」は必ず修得する。また、「しずおか学」科目群(第3部門および総合に配置)については、卒業までに2単位以上修得する。

2. 基礎分野Ⅱとは

基礎分野Ⅱの科目は、地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。

1) 主体性と判断力の育成

主体的に課題を探究する力を育成するために、情報の活用、思考の組み立て、意見交換などの学習過程を、小グループによる学習を通して習得する。

2) 英語コミュニケーション

教養としての英語能力の習得に加え、国際的視野に立って看護学分野における学習を促進し、専門分野における英語の活用能力の涵養を図る。

3) 運動

健康的で生き生きした人生を送るための身体運動に関する知識を習得するとともに、各種スポーツ種目の実技について学ぶ。

4) 研修

海外での語学研修を通して、英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに、その国の文化、経済、習慣、医療制度や看護の現状について学ぶ。

5) 教育

基本的人権を尊重しつつ、教育的関わりを求められる看護職に必要な知識を学ぶ。

3. 専門基礎分野とは

専門基礎分野の科目では、専門分野の履修に先立ち、人間の健康、生活・社会の理解および看護実践の基礎となる科学的知識を修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。

4. 専門分野とは

専門分野は、個人、家族および集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

1) 専門分野Ⅰ

看護学の理念的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。

2) 専門分野Ⅱ

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して各領域・分野の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

3) 統合分野

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、専門分野の教育内容の統合を図る。

IV 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

看護はあらゆる「ひと」を対象にし、すべての人々が健康な生活を実現できるように支援する。本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、意思を備えた人を受け入れる。

- 1) 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
- 2) ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
- 3) 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。
- 4) 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

静岡県立大学看護学部 DP達成度ルーブリック評価表（R4カリ学生用）

達成度ルーブリック評価表を用いて、自己のディプロマ・ポリシー（DP）の到達度を評価します。1年間の学修の成果を、年度末に自己評価してみましょう。

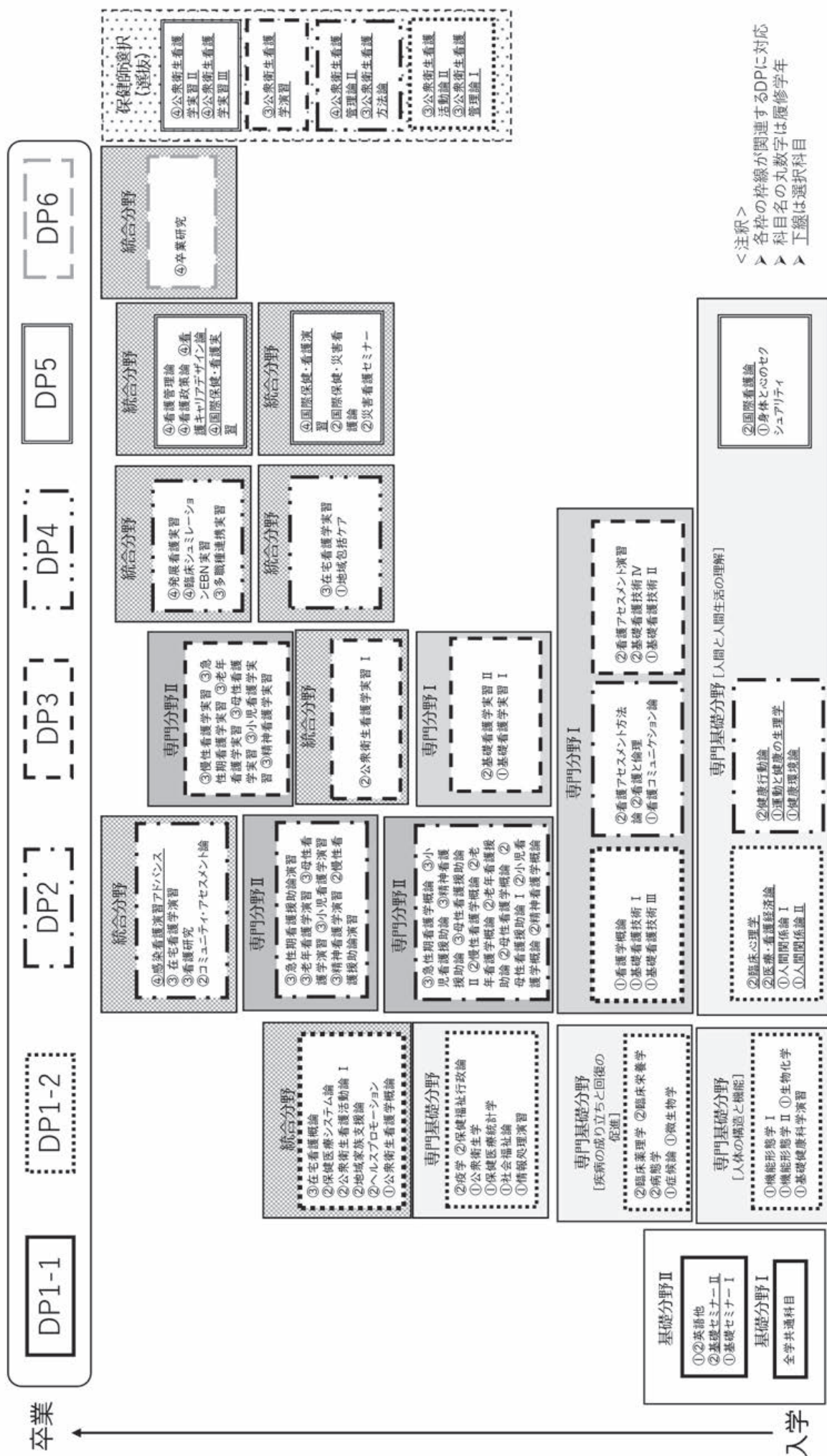
該当年次	DP		DPに対応する科目 （◎の科目のみ記載）
1年前期～4年後期 1年前期 1年後期 1年通年 2年前期	DP1： 幅広い教養を身につけ、「ひと」とおよび「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する知識を有している	DP1-1 幅広い一般教養を身につけている	1年生前期～4年生後期：（全学共通科目）基礎分野Ⅰ（第1部門、第2部門、第3部門、総合科目）、日本国憲法、教育学 1年前期：フレッシュマンイングリッシュⅠ 1年後期：フレッシュマンイングリッシュⅢ 1年通年：基礎分野Ⅱ（身体運動科学） 2年前期：英語コミュニケーションⅠ
1年前期 1年後期 2年前期 2年後期 3年前期		DP1-2 「ひと」とおよび「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する基礎的知識を身につけている	（専門基礎分野） 1年前期：人間関係論Ⅰ、人間関係論Ⅱ、機能形態学Ⅰ、生物化学、公衆衛生学 1年後期：機能形態学Ⅱ、基礎健康科学演習、症候論、微生物学、社会福祉論、保健医療統計学、情報処理演習 2年前期：臨床薬理学、臨床栄養学、病理学 2年後期：臨床心理学、医療・看護経済学、疫学 （専門教育科目） 1年前期：看護学概論、基礎看護技術Ⅰ 1年後期：基礎看護技術Ⅲ、公衆衛生看護学概論 2年前期：母性看護学概論、ヘルスプロモーション、母性看護学概論、ヘルスプロモーション 2年後期：慢性看護学概論、老年看護学概論、老年看護援助論、母性看護援助論Ⅰ、小児看護学概論、精神看護学概論、地域家族支援論、保健医療システム論、公衆衛生看護活動論Ⅰ 3年前期：母性看護援助論Ⅱ、小児看護援助論、精神看護援助論、在宅看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護管理論Ⅰ
1年前期 2年前期 2年後期 2年通年 3年前期 3年通年 4年通年	DP2: 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる	豊かな人間性と倫理観を有し、それらを反映させた思考・判断を説明できる。 科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。	1年前期：基礎セミナーⅠ、運動と健康の生理学、健康環境論、看護コミュニケーション論、公衆衛生看護基礎実習 2年前期：健康行動論、看護アセスメント方法論 2年後期：看護と倫理、慢性看護援助論演習、コミュニティ・アセスメント論、公衆衛生看護学実習Ⅰ 2年通年：基礎セミナーⅡ 3年前期：老年看護学演習、小児看護学演習、精神看護学演習、在宅看護学演習、看護研究、公衆衛生看護方法論、看護研究、公衆衛生看護管理論Ⅱ、公衆衛生看護方法論 4年通年：感染看護演習アドバンス
1年前期 1年後期 2年前期 2年後期 3年前期 3年後期	DP3: あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる		1年前期：フレッシュマンイングリッシュⅡ、基礎看護実習Ⅰ 1年後期：フレッシュマンイングリッシュⅣ、基礎看護技術Ⅱ 2年前期：看護アセスメント演習、基礎看護実習Ⅱ 2年後期：英語コミュニケーションⅡ、基礎看護技術Ⅳ 3年前期：急性期看護援助論演習、母性看護学演習 3年後期：慢性看護学実習、急性期看護学実習、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ 母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、公衆衛生看護学演習
1年後期 3年後期 3年通年 4年前期 4年通年	DP4: チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。		1年後期：地域包括ケア 3年後期：在宅看護学実習 3年通年：多職種連携実習 4年前期：臨床シミュレーションEBN実習、公衆衛生看護学実習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅲ 4年通年：発展看護実習
1年前期～4年後期 1年前期 2年前期 2年後期 4年前期 4年後期 4年通年	DP5: 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。		1年前期～4年後期：海外英語研修 1年前期：身体と心のセクシュアリティ、健康環境論 2年前期：保健福祉行政論、国際保健・災害看護論 2年後期：国際看護論、災害看護セミナー 4年前期：国際保健・看護演習 4年後期：看護管理論、看護政策論、看護キャリアデザイン論 4年通年：国際保健・看護実習
3年通年 4年通年	DP6: 看護学の発展に寄与するために、探究心と主体性を身につけている （※評価する学生は4年生のみ）		3年通年：卒業研究A 4年通年：卒業研究B

基準について：「3」は、大学卒業時までの学修の成果として身につけてほしいレベルを表します。
「1」「2」は、「3」に到達するまでの中間段階で、在学中のどこかで達成してほしいレベルです。
「4」は、「3」に到達後のより良い到達度レベルです。

項目の解説	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
主に全学共通科目及び基礎分野Ⅱ（英語等）の履修状況と単位取得状況から判断してください。 一般教養とは、看護の対象となる人や対象の生活している地域社会、環境を身体的・心理的・社会的・文化的（個人の生活様式、価値観、信念）側面から多角的に理解するために、社会を形作る文化や制度、社会経済構造、行動科学・社会科学、保健・医療福祉制度、疫学、法学等の幅広い一般教養を指します。 また、この項目は、国際社会に対応できる語学力を身につけることも含みます。	社会人としての幅広い一般教養を十分に身につけている。	社会人としての幅広い一般教養を身につけている。	1年生前期～4年生後期：（全学共通科目）基礎分野Ⅰ（第1部門、第2部門、第3部門、総合科目）、 日本国憲法、教育学 1年前期：フレッシュマンイングリッシュⅠ 1年後期：フレッシュマンイングリッシュⅢ 1年通年：基礎分野Ⅱ（身体	社会人としての一般教養が不十分である。
主に専門基礎分野や専門教育分野の概論や援助論、支援論、活動論等の履修状況と単位取得状況から判断してください。 専門知識とは、看護職が対象とする人や領域（家族及び集団）、人間の健康、生活、社会を理解し、健康ニーズに対応するためのアセスメントを行う根拠となる必要な専門知識を指します。	看護実践を展開するための素地として、看護職が対象とする人や領域をアセスメントするための根拠となる専門知識を十分に身につけている。	看護実践を展開するための素地として、看護職が対象とする人や領域をアセスメントするための根拠となる専門知識を身につけている。	（専門基礎分野） 1年前期：人間関係論Ⅰ、人間関係論Ⅱ、機能形態学Ⅰ、生物化学、公衆衛生学 1年後期：機能形態学Ⅱ、基礎健康科学演習、症候論、微生物学、社会福祉論、保健医療統計学、 情報処理演習 2年前期：臨床薬理学、臨床栄養学、病態学 2年後期：臨床心理学、医療・看護経済学、疫学（専門教育科目）	看護実践を展開するための素地として、看護職が対象とする人や領域をアセスメントするための根拠となる専門知識が不十分である。
主に、看護と倫理の履修状況、演習科目や実習科目での思考判断の場面において人間性や倫理観を意識しているかどうか、また常に人間性や倫理観を高める努力をしているかどうかを指します。 人間性を有するとは、他者への気遣い、思いやり、愛情などを持って対応できることです。また、倫理観を有するとは、人間の生命と尊厳及び権利を尊重すること、対象者の意志を尊重できることです。倫理的葛藤場面では、他者の助言を受けながら、対象者にとって最もよい方法を適切に判断ができることなどが含まれます。	常に人間性や倫理観を高める努力をしており、対象者への気遣いや思いやりを持ち、対象者の権利や意志を尊重した思考・判断が十分できている	人間性や倫理観を高めようとする努力をしており、対象者への気遣いや思いやりを持ち、対象者の権利や意志を尊重した思考・判断ができている	1年前期：基礎セミナーⅠ、運動と健康の生理学、健康環境論、看護コミュニケーション論、 公衆衛生看護基礎実習 2年前期：健康行動論、看護アセスメント方法論 2年後期：看護と倫理、慢性	人間性や倫理観を高めようと努力しておらず、対象者への気遣いや思いやりを持った思考・判断、対象者の権利や意志を尊重した思考・判断のどちらもできない
主に、専門教育科目の看護アセスメント方法論、各領域の看護過程に関する演習などの修得状況から判断してください。 科学的根拠に基づいた看護計画を立案することができ、それを説明できることを指します。ここでは、まず、ガイドラインの活用や文献検索によりエビデンスレベルの高い臨床研究結果を見つけること、次に、それらを基に、科学的根拠に基づいた看護計画を立案できること、そして、それを他者に説明することができること、が含まれます。	科学的根拠を見つける、科学的根拠に基づいた看護計画を立案する、他者に説明できるまでを含めて十分に行うことができる	科学的根拠を見つける、科学的根拠に基づいた看護計画を立案する、他者に説明できるまでを含めて行うことができる	看護計画を立案することはできているが、科学的根拠があいまいで、他者に説明できない	科学的根拠があいまいで、看護計画の立案ができなく、そのため説明もできない
主に各領域の演習、実習等の学生の実践状況から判断してください。 特に看護実践においては、対象者を全人的・統合的に捉えることが必要であるため、生活者としての側面と身体的・精神的側面を包括的に理解して看護を展開するために必要となる知識が求められます（コアカリキュラムp8）。対象者・地域の健康課題を全人的・統合的に捉えた実践可能な計画を立案し、指導者の見守りの下で主体的に実践できることを指します。	あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を踏まえた看護を指導者の見守りの下、主体的に実践できる	あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を踏まえた看護を指導者の見守りの下、実践できる	1年前期：フレッシュマンイングリッシュⅡ、基礎看護実習Ⅰ 1年後期：フレッシュマンイングリッシュⅣ、基礎看護技術Ⅱ 2年前期：看護アセスメント演習、基礎看護実習Ⅱ	あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を踏まえた看護を行うことが難しい
主に、左記に示す専門職種との連携を学ぶ実習の履修状況や単位取得状況から判断してください。 チームとは、看護職で構成されるチーム、患者・住民を中心に看護職、他職種・多職種などの専門職で構成されるチームを指します。看護職には、複雑化する健康課題や地域社会の課題に対して、多種多様なスタッフが、高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、互いに連携・補完しあい最善のケアを提供することが求められます。この項目では、チームにおける看護職としての役割を認識して、看護者の立場からの解決策を表現できることを意図しています。	チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題解決に向け、実現可能な意見を述べるができる。	チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題解決に向けた意見を述べるができる。	チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題解決に向けた意見を指導者の支援を受けながら、述べるができる。	チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題解決に向けた意見を述べるが難しい。
左記該当科目の履修状況や単位取得状況から判断してください。このDPは、看護の対象と対象を取り巻く環境に広く目を向けることを指します。 社会の動向や、対象の多様性の理解、看護の場としての災害看護や国際看護に関心をもつこと。そして、保健医療福祉の課題を解決するための政策に関心をもつことです。	社会の動向、対象者の多様性、看護の場、保健医療福祉の課題と政策に関心をもつことができています。	社会の動向、対象者の多様性、看護の場、保健医療福祉の課題と政策に関心をもつことができています。	社会の動向、対象者の多様性、看護の場、保健医療福祉の課題と政策に関心をもつことがあるが、不十分なものもある。	社会の動向、対象者の多様性、看護の場、保健医療福祉の課題と政策に関心をもつことができない。
卒業研究を通して、よりよい看護実践について主体的に課題を探究することができたかどうかを評価してください。 「他者の支援」とは教員の指導を含みます。 看護学の発展に寄与するとは、看護研究の成果が看護実践の根拠として看護の対象である人々への支援に還元されること、または、看護学の専門性の発展に役立つことをいいます。学部教育では看護学生の将来的な研究活動の基盤を作ることが目標となります。	卒業研究のリサーチエクゼンション（RQ）を自分自身で考えることができ、他者の支援をうけながら探究心をもって主体的にRQを解決できた。	他者の支援をうけながら、卒業研究のリサーチエクゼンション（RQ）を考え、RQを解決できた。	他者の支援をうけながら、卒業研究のリサーチエクゼンション（RQ）を考えたが、RQに対する解決能力は不十分であった。	他者の支援をうけても卒業研究のリサーチエクゼンション（RQ）を考えることは難しく、RQに対する解決は不十分であった。

静岡県立大学看護学部カリキュラムツリー(令和４年度カリキュラム対応)

カリキュラムツリーは、授業科目の順序性・体系性をディプロマ・ポリシーと関連付けて示した図のことである。



授業科目一覧表【令和4年度以降 入学者用】
看護学部履修細則別表1

授業科目の概要	授業科目の名称			配当 年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位
						必修	選択		
	(全学共通科目)	基礎分野Ⅰ	第1部門	1・2・3・4	前・後	1*	各 科 目 1 ～ 2	38 ～ 139	10 単 位 以 上 選 択
第2部門									
第3部門									
総合科目									
基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通		2	142		
	研修	海外英語研修	1・2・3・4			2			
	教育	日本国憲法	1	後		2	144		
		教育学	2	後		2	146		
基礎分野Ⅱ	主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1		148	必修 7 単 位	
		基礎セミナーⅡ	2	前		1	150		
	英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1		152		
		フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1		153		
		フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1		154		
		フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1		156		
		英語コミュニケーションⅠ	2	前	1		158		
		英語コミュニケーションⅡ	2	後	1		159		
専門基礎分野	人間と人間の生活	身体と心のセクシュアリティ	1	前	1		161	2単位選択必修	
		人間関係論Ⅰ	1	前	1		162		
		人間関係論Ⅱ	1	前		1	163		
		臨床心理学	2	後		1	164		
		健康行動論	2	前		1	165		
		運動と健康の生理学	1	前		1	166		
		健康環境論	1	前		1	167		
		医療・看護経済論	2	前		1	168		
		国際看護論	2	後		1	169		
	機能と人体の構造	機能形態学Ⅰ	1	前	2		170	必修 28 単 位 ＋ 選 択 4 単 位	
		機能形態学Ⅱ	1	後	2		172		
		生物化学	1	前	1		174		
		基礎健康科学演習	1	後	2		176		
	疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	1	後	2		179		
		微生物学	1	後	1		181		
		臨床薬理学	2	前	2		183		
		臨床栄養学	2	前	2		185		
		病態学	2	前	2		187		
		公衆衛生学	1	前	2		189		
	社会保健制度と健康支援	社会福祉論	1	後	1		191		
		保健福祉行政論	2	前	2		193		
		保健医療統計学	1	前	2		195		
		情報処理演習	1	後	1		197		
		疫学	2	後	2		199		
		基礎分野Ⅰ＋基礎分野Ⅱ＋専門基礎分野 単位数計							

授業の概要	授業科目の名称			配当 年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位
						必修	選択		
授業の概要	専門分野Ⅰ	看護学概論	1	前	2		201	必修 48 単位	
		基礎看護技術Ⅰ	1	前	1		203		
		看護コミュニケーション論	1	前	1		205		
		基礎看護技術Ⅱ	1	後	2		206		
		基礎看護技術Ⅲ	1	後	1		208		
		看護アセスメント演習	2	前	1		210		
		看護アセスメント方法論	2	前	1		212		
		基礎看護技術Ⅳ	2	後	1		214		
		看護と倫理	2	後	1		216		
		基礎看護学実習Ⅰ	1	前	1		217		
		基礎看護学実習Ⅱ	2	通	2		218		
	専門分野Ⅱ	慢性看護学概論	2	後	2		220		
		慢性看護援助論演習	2	後	1		222		
		慢性看護学実習	3	後	2		224		
		急性期看護学概論	3	前	2		226		
		急性期看護援助論演習	3	前	1		228		
		急性期看護学実習	3	後	2		230		
		老年看護学概論	2	後	2		232		
		老年看護援助論	2	後	1		234		
		老年看護学演習	3	前	1		235		
		老年看護学実習	3	後	2		237		
		母性看護学概論	2	前	1		238		
		母性看護援助論Ⅰ	2	後	1		240		
		母性看護援助論Ⅱ	3	前	1		241		
		母性看護学演習	3	前	1		243		
		母性看護学実習	3	後	2		245		
		小児看護学概論	2	後	2		247		
		小児看護援助論	3	前	1		249		
		小児看護学演習	3	前	1		251		
		小児看護学実習	3	後	2		253		
		精神看護学概論	2	後	2		255		
		精神看護援助論	3	前	1		257		
		精神看護学演習	3	前	1		258		
		精神看護学実習	3	後	2		260		
		統合分野	地域包括ケア	1	後	1			262
	災害看護セミナー		2	後	1		263		
地域家族支援論	2		後	2		265			
在宅看護学概論	3		前	2		267			
在宅看護学演習	3		前	1		269			
在宅看護学実習	3		後	2		271			

	授業科目の名称			配当 年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位
						必修	選択		
授業科目の概要	専門分野	統合分野	公衆衛生看護学概論	1	後	2		273	必修 27 単位 + 選択 2 単位 ※保健師国家試験受験 資格要件 指定7科目11単位 <

※卒業に必要な最低修得単位数は126単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

保健師国家試験受験資格取得を希望する場合は、3年前期に公衆衛生看護活動論Ⅱ(2単位)、公衆衛生看護管理論Ⅰ(1単位)、公衆衛生看護方法論(2単位)を修得すること。

※基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の「しずおか学」科目群については、卒業までに2単位以上修得すること。

【海外英語研修の履修・認定方法】

本学部授業期間中の履修については、原則として単位を認定しない。

(3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

※ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

【実務経験のある教員による科目】

科目名	教員氏名	単位数
日本国憲法	根本 猛	2
教育学	金 英美	2
基礎セミナーⅠ	荒井孝子、ほか9名	1
基礎セミナーⅡ	井上健一郎	1
フレッシュマンイングリッシュⅠ	田中裕実、ほか2名	1
フレッシュマンイングリッシュⅡ	Figer R.、ほか2名	1
フレッシュマンイングリッシュⅢ	田中裕実、ほか3名	1
フレッシュマンイングリッシュⅣ	Figer R.、ほか2名	1
英語コミュニケーションⅠ	Figer R.、ほか3名	1
英語コミュニケーションⅡ	Figer R.、ほか3名	1
身体と心のセクシュアリティ	太田尚子、ほか8名	1
人間関係論Ⅰ	簗宗一、ほか3名	1
人間関係論Ⅱ	近藤美保、ほか3名	1
臨床心理学	簗宗一、ほか6名	1
健康環境論	荒井孝子	1
医療・看護経済論	東野定津、ほか1名	1
国際看護論	竹熊カツマタ麻子、ほか1名	1
機能形態学Ⅰ	井上健一郎、ほか2名	2
機能形態学Ⅱ	井上健一郎、ほか1名	2
基礎健康科学演習	井上健一郎、ほか2名	2
症候論	井上健一郎	2
臨床薬理学	伊藤邦彦	2
臨床栄養学	新井英一、ほか1名	2
病態学	荒井孝子、ほか25名	2
公衆衛生学	予定教員	2
保健福祉行政論	東野定津、ほか5名	2
保健医療統計学	予定教員、ほか1名	2
情報処理演習	東野定津、ほか1名	1
疫学	予定教員、ほか1名	2
看護学概論	加藤京里、ほか2名	2
基礎看護技術Ⅰ	加藤京里	2
看護コミュニケーション論	菅原清子、ほか5名	1
基礎看護技術Ⅱ	加藤京里、ほか5名	2
基礎看護技術Ⅲ	予定教員	1
看護アセスメント演習	予定教員、ほか5名	1
看護アセスメント方法論	菅原清子、ほか5名	1
基礎看護技術Ⅳ	菅原清子、ほか5名	1
看護と倫理	山下早苗	1
基礎看護実習Ⅰ	加藤京里、ほか5名	1
基礎看護実習Ⅱ	予定教員、ほか5名	2
慢性看護学概論	山田紋子、ほか5名	2
慢性看護援助論演習	山田紋子、ほか7名	1
慢性看護学実習	山田紋子、ほか7名	2
急性期看護学概論	林みよ子、ほか4名	2
急性期看護援助論演習	林みよ子、ほか7名	1
急性期看護学実習	林みよ子、ほか7名	2
老年看護学概論	野津美香子	2
老年看護援助論	野津美香子、ほか1名	1
老年看護学演習	佐藤理乃、ほか1名	1
老年看護学実習	野津美香子、ほか1名	2
母性看護学概論	福島恭子、ほか5名	1
母性看護援助論Ⅰ	永谷実穂、ほか4名	1
母性看護援助論Ⅱ	中川有加、ほか4名	1
母性看護学演習	池田美音、ほか4名	1
母性看護学実習	中川有加、ほか4名	2
小児看護学概論	山下早苗、ほか6名	2
小児看護援助論	梁川明、ほか3名	1

小児看護学演習	丸山始美、ほか4名	1
小児看護学実習	鈴木和香子、ほか3名	2
精神看護学概論	小泉祐貴、ほか6名	2
精神看護学助論	佐藤浩一、ほか4名	1
精神看護学演習	近藤美保、ほか5名	1
精神看護学実習	小泉祐貴、ほか3名	2
地域包括ケア	富安眞理、ほか3名	1
災害看護セミナー	根岸まゆみ、ほか2名	1
地域家族支援論	富安眞理、ほか3名	2
在宅看護学概論	富安眞理、ほか3名	2
在宅看護学演習	加納江理、ほか3名	1
在宅看護学実習	加納江理、ほか3名	2
公衆衛生看護学概論	畑中純子、ほか3名	2
ヘルスプロモーション	鈴木千智、ほか3名	1
国際保健・災害看護論	根岸まゆみ、ほか1名	2
保健医療システム論	佐藤瑠美、ほか2名	1
コミュニティ・アセスメント論	伊藤純子、ほか5名	1
公衆衛生看護学動論Ⅰ	佐藤瑠美、ほか5名	2
公衆衛生看護学実習Ⅰ	藤田登志美、ほか5名	1
公衆衛生看護学動論Ⅱ	畑中純子、ほか1名	2
公衆衛生看護学管理論Ⅰ	鈴木千智、ほか2名	1
公衆衛生看護学管理論Ⅱ	鈴木千智、ほか5名	1
公衆衛生看護学方法論	畑中純子、ほか3名	2
公衆衛生看護学演習	栗田真由美、ほか5名	1
公衆衛生看護学実習Ⅱ	伊藤純子、ほか5名	2
公衆衛生看護学実習Ⅲ	佐藤瑠美、ほか5名	2
多職種連携実習	看護学系教員全員	1
看護研究	操 華子、ほか2名	1
卒業研究B	看護学部教員全員	2
臨床シミュレーション/EBN実習	山田紋子、ほか7名	2
国際保健・看護演習	根岸まゆみ、ほか1名	1
国際保健・看護実習	根岸まゆみ、ほか1名	2
発展看護実習	看護学系教員	2
感染看護演習アドバンス	操 華子、ほか3名	1
看護管理論	竹熊カツマタ麻子	1
看護キャリアデザイン論	竹熊カツマタ麻子	2
看護政策論	東野定律	1
合計		137

V 履修方法(編入学生は含まない)

1. 単位制

単位とは、一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるものである。大学で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位が修得できる。本学における学修は、すべて単位数によってその達成度が測られ、進級および卒業の可否が決定される。これが単位制である。

1) 単位と時間数

- ① 授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年とされている。
- ② 1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。したがって、1週間につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。ただし、本学では授業時間割の1時限を2時間とみなしている。
- ③ 科目の単位は次の基準によって定められている。

1単位の基準表

区 分	授業時間	自習時間	計	備 考
講 義	15	30	45	講義の教室内における授業時間は、30時間とすることがある。
外 国 語 ・ 演 習	30	15	45	
実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	30又は45	—	30又は45	

以上のように1単位と計算される勉学の時間量には、教室内における講義だけでなく、学生の自学自習時間を含めて計算することになっている。したがって、学生の自主的勉学は、大学生活の不可欠の要素として重視されている。

2) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、進級・卒業の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

・必修科目…必ず修得しなければならない科目

*先修科目として事前に関連の科目を単位修得していないと受講できない科目がある
るので注意すること(講義概要の履修条件参照)

・選択科目…指定された科目群のうちで、所定の単位を必ず修得しなければならない科目。

3) 配当年次

各授業の配当年次は「授業科目一覧表」に定められている。看護学部履修細則別表1を参照すること。

4) 履修条件

科目によっては指定の科目等の単位修得を履修条件としているものがあるので、十分注意すること。

履修条件は講義概要に記載されている。

2. 授 業

1) 学 期

1年次	前期	後期
2年次	前期	後期
3年次	前期	後期
4年次	前期	後期

本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、年間行事予定表による前期・後期の2学期制を採用している。

また、多くの科目を順序よく履修し、学修効果をあげるため、4年間の在学期間を左表の様に区分し、年次別の標準履修課程を定めている。

2) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月と9月のガイダンスの際に配布される。

時間割を変更した場合は、Web学生サービス支援システムにて連絡する。

3) 休講・補講・集中講義等

① 休講等

休講、授業時間および授業場所の変更は、Web学生サービス支援システムにて連絡する。

休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室へ連絡し、確かめること。

② 補講

補講が行われる場合にはWeb学生サービス支援システムにて連絡をするので、日時・教室等をよく確かめ授業に出席すること。

③ 集中・隔週講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細については Web学生サービス支援システムにて連絡する。

3. 履修申告

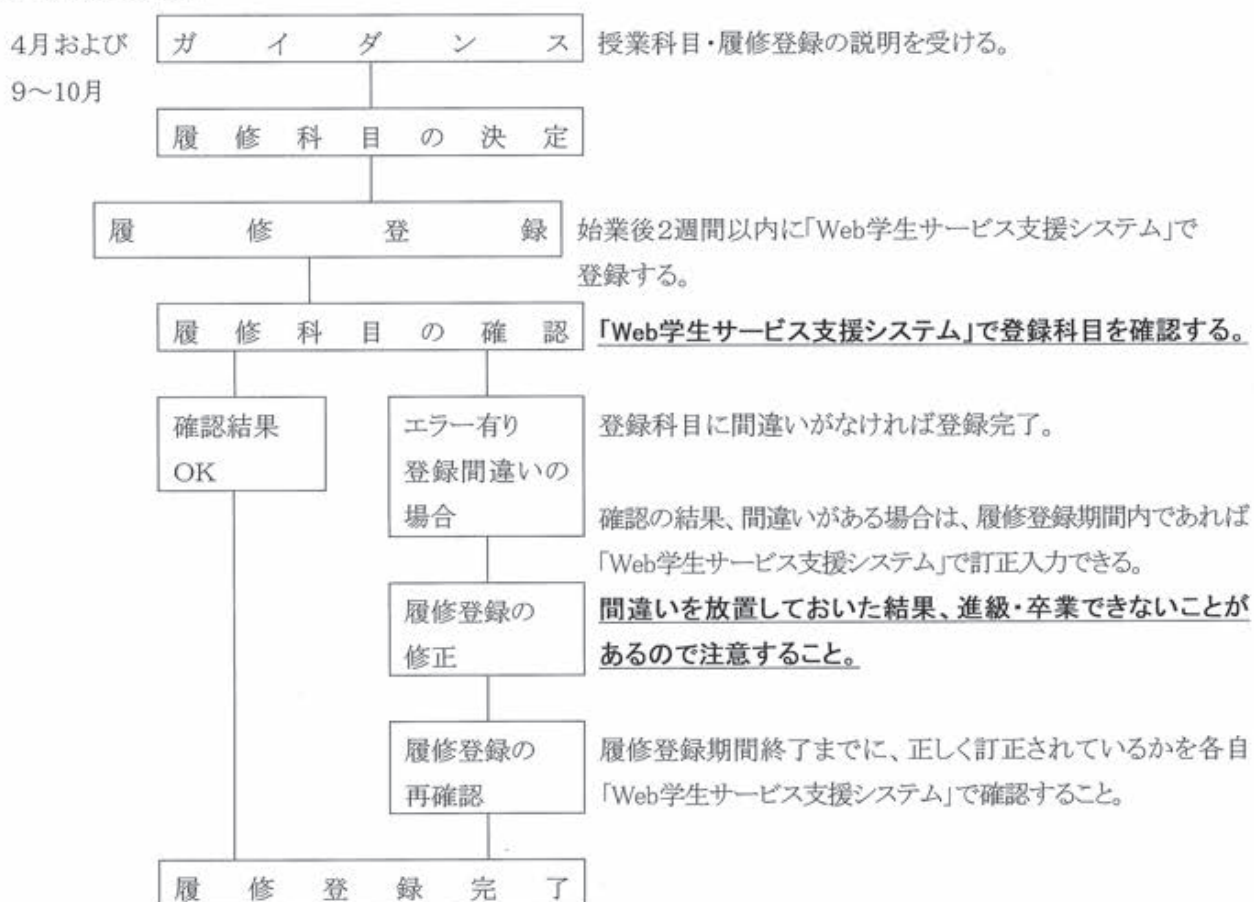
履修しようとする授業科目については、所定の手続きに従って履修申告をしなければならない。この履修申告を怠ると、たとえ授業に出席し、試験を受け、十分に学習したという実績があったとしても、単位を修得することができない。

1) 時期

履修申告は、各学期のはじまる4月と10月に、「Web学生サービス支援システム」により行う。システムへの登録期間は授業開始後2週間以内とする。

2) 方法:履修登録の流れ

履修登録の流れ図



3) 履修申告の注意事項

- ① 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して申告したときは、そのいずれの科目も無効となる。
- ② 既に単位を修得している科目の再履修はできない。
- ③ 施設上または教育上やむを得ないと認められる場合は、履修申告の事前または事後に履修者を制限する場合がある。
- ④ クラスが指定されている場合は、それにしたがって申告する。
- ⑤ 履修登録期間中に限り、一度履修登録した科目を変更することができる。変更は、Web学生サービス支援システムにて行う。

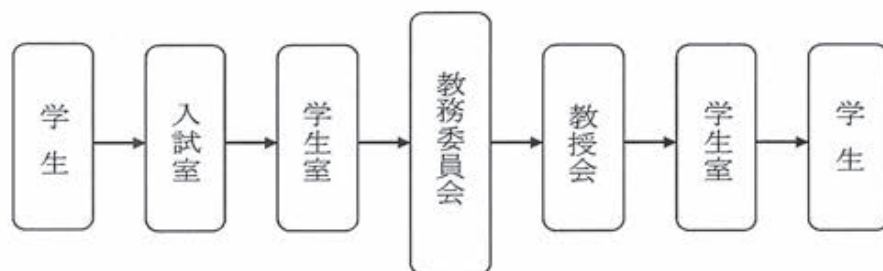
4) 他学部の授業科目の履修

他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式(用紙は学生室にある)により、授業開始後2週間以内に学生室に提出すること。他学部の授業科目を履修した者には、単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しないので注意すること。

5) 入学前の既修得単位の認定

- ① 学則第40条に規定する他大学(短期大学又は高等専門学校)の専攻科を含む)において単位を修得した授業科目(科目等履修生として修得した単位を含む)について、既修得単位の認定を受けようとする者は、前期授業開始後2週間以内に、その認定を受けようとする授業科目を所定の様式により申告しなければならない。
- ② 既修得単位として認定される単位の上限は、30単位とする。その内、基礎分野Ⅰ(全学共通科目)に該当する授業科目については、合計10単位を上限として認定する。基礎分野Ⅰ(全学共通科目)に該当する既修得単位の認定の対象となる授業科目および単位数は、学部長が審査する。
- ③ 基礎分野Ⅱおよび専門科目については、担当教員が審査する。
- ④ 上記①～③の手続きの後に、教授会の承認を経て学長決裁により既修得単位を認める。

既修得単位の認定ルート



4. 試験

本学は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験の上、単位を与える。試験は筆記による場合が最も多いが、授業担当教員の判断により、レポートあるいは口答試問、実技テストのような他の方法により評価を決定する場合もある。また、出席状況その他平素の成績も評価を判定する資料となる。

1) 試験の種類

① 定期試験

定期試験は、各学期の終了時に2週間にわたり実施される。通年科目は、授業終了時のみ1回の試験で行うことがある。定期試験時間割は、原則として試験開始の10日前に掲示により発表される。発表後も変更されることがあるので、注意すること。

② 随時試験

定期試験期間以外に授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業や掲示等で伝達されることが多いので、聞きもらしや見落としのないように注意すること。

③ 追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

ア. 病気(ただし、医師の診断書を要する)

イ. 忌引(1・2親等に関し、死亡の日より1週間以内)

ウ. 就職に関する事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

エ. その他やむを得ない事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意すること。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願(用紙は学生室にある)にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に届け出ること。

④ 再試験

成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。当該科目の単位を取得したい場合は、再履修が原則である。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことができる。再試験が許可された学生は、再試験願(用紙は学生室にある)を授業担当教員に届け出ること。

2) 受験資格

- ① 科目について、履修登録していること。
- ② 開講回数のうち2/3以上の出席により、受験資格を認める。ただし、授業担当教員の裁量により、一度の欠席で受験資格が認められない科目もあるため注意すること。

なお、授業開始後30分以内の入室は遅刻とし、授業開始後60分以降の退室は早退として扱い、授業開始後30分超の入室又は授業開始後60分未満の退室は欠席として扱う。遅刻又は早退3回をもって欠席1回とみなす。

3) 受験上の注意事項

試験場内では、すべて監督者の指示またはあらかじめ指示されている事項に従わなければならない。
定期試験の受験方法は次のとおりである。

- ① 受験時の座席については、原則として、学籍番号順に着席すること。
- ② 学生証を机の上に置くこと。学生証のない者は受験できないので注意すること。
- ③ 学生証を忘れた者は、学生室にて「定期試験仮受験票」を発行してもらうこと。
- ④ 机の上には、鉛筆(シャープペン)、消しゴム、その他使用が認められている物だけを置き、それ以外の物はかばんの中に収納すること。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、ウェアブル端末の電源は切り、かばんの中に収納すること。
- ⑥ 不正行為と誤解されないため、試験開始前に以下のことを行うこと。
 - ・机の上に落書き等がある場合は、消しゴムで消す。
 - ・机の物入れに何も無いことを確認する。
 - ・周囲の床に何も落ちていないことを確認する。
- ⑦ 試験中に、不正行為の疑義が生じた場合は、監督者の判断で受験を中止させる。
- ⑧ 不正行為が確定した場合は、「看護学部 履修細則」に則り、当該科目を含むその学期のすべて、あるいは一部の科目の履修単位を無効とする。
- ⑨ 原則として試験開始時刻より30分を過ぎた場合は、試験場への入室は認めないので注意すること。

5. 学修の評価

本学における学修評価は、履修細則および担当教員の評価方針により、試験、レポート、授業出席状況などにおける学生の学修実績に基づき、以下の評語で表現される。

1) 評価の基準

成績の評価基準は、秀・優・良・可・不可の5区分とする。

秀 … 100点～90点

優 … 89点～80点

良 … 79点～70点

可 … 69点～60点

不可… 59点以下

秀・優・良・可と評定されたものは合格とし、当該科目の単位が与えられる。なお、科目の履修を申告し履修しなかった授業科目は不可と評定される。

2) 成績の発表

成績は、「Web学生サービス支援システム」で随時確認できる。

6. 修業年限と在学年限

1) 修業年限と在学年限

看護学部は修業年限は4年と定められている。また、在学期間は8年間を超えることができない。ただし、この中に休学期間は算入されない。

2) 進級要件

- ① 3年次に進級するためには、2年以上在学し、基礎分野Ⅱ(必修科目)7単位、専門基礎分野(必修科目)28単位、専門分野40単位、計75単位以上を修得しなければならない。

基礎分野Ⅱ (必修科目)	専門基礎分野 (必修科目)	専門分野	合計
7単位	28単位	40単位	75単位以上

- ② 進級・留年の決定は教授会の議を経て行う。

3) 卒業要件

- ① 卒業するためには、4年以上在学し、基礎分野Ⅰ(全学共通科目)10単位以上、基礎分野Ⅱ7単位以上、専門基礎分野32単位(必修科目28単位を含む)以上、専門分野77単位以上の合計126単位以上を修得しなければならない。ただし、基礎分野Ⅰ(全学共通科目)は、基礎分野Ⅱの「運動」、「研修」、「教育」の科目を含めて10単位以上とする。

基礎分野Ⅰ	基礎分野Ⅱ	専門基礎分野 32単位以上 (必修科目28単位を含む)	専門分野	合計
10単位以上	7単位以上		77単位以上	126単位以上

- ② 4年次において卒業要件を満たさず留年した者が、年度途中でその要件を満たした場合は、卒業できることがある。

- ③ 卒業・留年の決定は教授会の議を経て行う。

4) 留意事項

2年次・4年次への進級要件はなく、原則的には全員が進級できる。しかし、各科目の配当年次が決められており、進級後に前学年の科目を受講することは、まれな場合を除いて不可能であるので十分留意すること。

3年次、4年次は、専門科目(必修)の演習や実習等が多いため、1年次・2年次に相当数の単位を修得するよう心がけること。

7. 資格および認定

1) 国家試験受験資格

① 「看護師」の国家試験受験資格

卒業認定に必要な単位を修得することにより、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

② 「保健師」の国家試験受験資格

卒業認定に必要な単位を修得し、「保健師国家試験受験資格要件」に指定された7科目11単位※を修得することにより、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

※ 「公衆衛生看護活動論Ⅱ(2単位)」、「公衆衛生看護管理論Ⅰ(1単位)」、
「公衆衛生看護管理論Ⅱ(1単位)」、「公衆衛生看護方法論(2単位)」、
「公衆衛生看護学演習(1単位)」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ(2単位)」、
「公衆衛生看護学実習Ⅲ(2単位)」)

2) 養護教諭二種免許

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目※の単位を修得した場合、保健師免許取得後、居住地の都道府県教育委員会で行うことにより、「養護教諭二種免許」を申請することができる。

※ 該当する本学部の科目:「身体運動科学(2単位)」、「日本国憲法(2単位)」、「情報処理演習(1単位)」、
「保健医療統計学(2単位)」、およびいずれかの英語科目2単位を修得していること。
「教育学」については、単位修得が望ましい。

3) 第一種衛生管理者免許

保健師免許取得後、居住地の労働局で行うことにより、第一種衛生管理者免許を取得できる。

VI 編入学生：履修方法

1. 単位制

単位とは、一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるものである。大学で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位が修得できる。本学における学修は、すべて単位数によってその達成度が測られ、進級及び卒業の可否が決定される。これが単位制である。

1) 単位と時間数

- ① 授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年としている。
- ② 1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。したがって、1週間につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。ただし、本学では、授業時間割の1時限を2時間とみなしている。
- ③ 科目の単位は次の基準によって定められている。

1単位の基準表

区 分	授業時間	自習時間	計	備 考
講 義	15	30	45	講義の教室内における授業時間は、30時間とすることがある。
外 国 語 ・ 演 習	30	15	45	
実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	30又は45	—	30又は45	

以上のように1単位と計算される勉学の時間量には、教室内における講義だけでなく、学生の自学自習時間を含めて計算することになっている。したがって、学生の自主的勉学は、大学生活の不可欠の要素として重視されている。

2) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、進級・卒業の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

・必修科目…必ず修得しなければならない科目

*先修科目として事前に関連の科目を単位修得していないと受講できない科目があるので注意すること(講義概要の履修条件参照)

・選択科目…基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の科目群では、所定の単位を必ず修得しなければならない科目。それ以外の科目群では、選択により、履修および単位修得をすることができるが、卒業要件にはあたらない科目。

3) 配当年次

各授業の配当年次は授業科目一覧に定められているが、編入学生には適用されない。「授業科目一覧表(編入学生)」、看護学部履修細則別表2に示す「編入学生配当年次」を参照すること。

4) 履修条件

科目によっては指定の科目等の単位修得を履修条件としているものがあるので、十分注意すること。
履修条件は講義概要に記載されている。

2. 授 業

1) 学 期

3年次	前期	後期
4年次	前期	後期

本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、年間行事予定表による前期・後期の2学期制を採用している。

また、多くの科目を順序よく履修し、学修効果をあげるため、2年間の在学期間を左表の様に区分し、年次別の標準履修課程を定めている。

2) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月と9月のガイダンスの際に配布される。

時間割を変更した場合は、Web学生サービス支援システムにて連絡する。

3) 休講・補講・集中講義等

① 休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、Web学生サービス支援システムにて連絡する。

休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室へ連絡し、確かめること。

② 補講

補講が行われる場合にはWeb学生サービス支援システムにて連絡をするので、日時・教室等をよく確かめ授業に出席すること。

③ 集中・隔週講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細についてはWeb学生サービス支援システムにて連絡する。

3. 履修申告

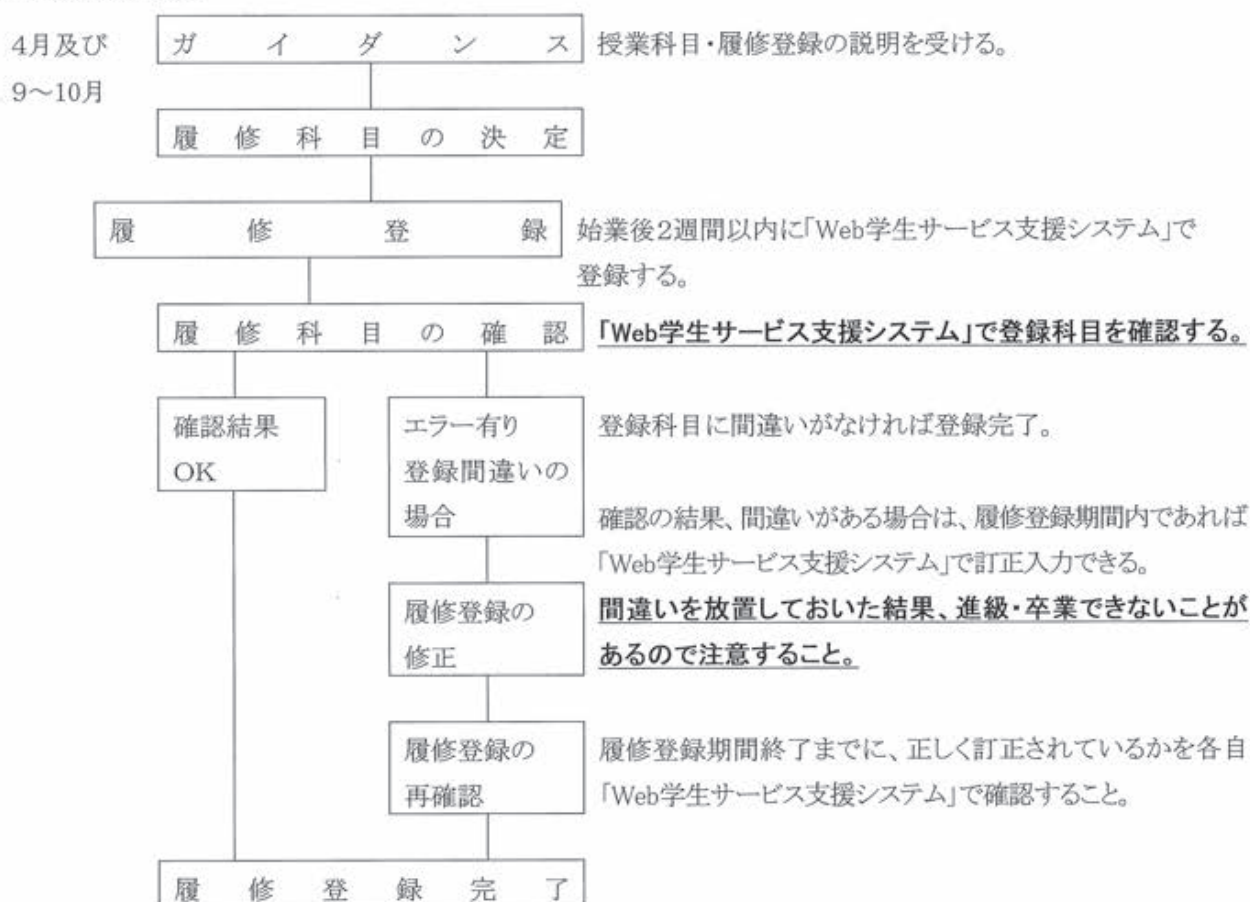
履修しようとする授業科目については、所定の手続きに従って履修申告をしなければならない。この履修申告を怠ると、たとえ授業に出席し、試験を受け、十分に学習したという実績があったとしても、単位を修得することができない。

1) 時期

履修申告は、各学期のはじまる4月と10月に、「Web学生サービス支援システム」により行う。システムへの登録期間は授業開始後2週間以内とする。

2) 方法:履修登録の流れ

履修登録の流れ図



3) 履修申告の注意事項

- ① 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して申告したときは、そのいずれの科目も無効となる。
- ② 既に単位を修得している科目の再履修はできない。
- ③ 施設上または教育上やむを得ないと認められる場合は、履修申告の事前または事後に履修者を制限する場合がある。
- ④ クラスが指定されている場合は、それにしたがって申告する。
- ⑤ 履修登録期間内に限り、一度履修申告した科目を変更することができる。変更は、Web学生サービス支援システムにて行う。

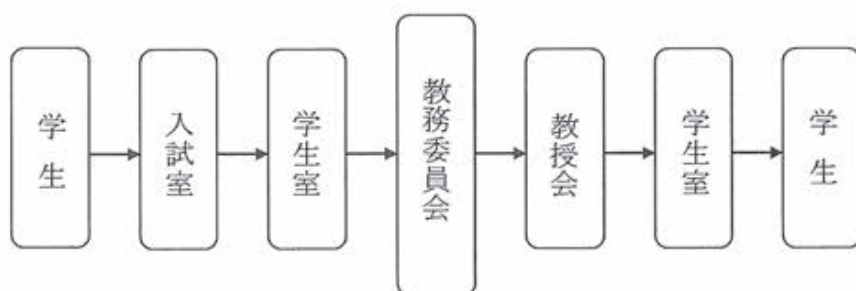
4) 他学部の授業科目の履修

他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式(用紙は学生室にある)により、授業開始後2週間以内に学生室に提出すること。他学部の授業科目を履修した者には、単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しないので注意すること。

5) 編入学生のカリキュラムに指定されていない授業科目の履修方法

編入学生のカリキュラムに指定されていない科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式(用紙は学生室にある)により、授業開始後2週間以内に学生室に提出すること。編入学生のカリキュラムに指定されていない授業科目を履修した者には、審査のうえ単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しないので注意すること。

既修得単位の認定ルート



4. 編入学生の単位認定と履修

編入学生の内、3年課程修了者の卒業に必要な履修単位は次のとおりである。なお、表1に示す「必要な修得単位」の科目は、「授業科目一覧表(編入学生)」、看護学部履修細則別表2に示す。

表1. 3年課程修了者：卒業に必要な履修単位に関する表

	基礎分野Ⅰ (全学共通科目)等	基礎分野Ⅱ	専門基礎分野	専門分野	合計
必要な修得単位	10単位	8単位	26単位	22単位	66単位

○ 上記の基準は、看護師国家試験受験資格を有していることが条件で算出されている。

授業科目一覧表【令和4年度以降 編入学生(3年課程修了生用)】

看護学部履修細則別表2

授業科目の概要	授業科目の名称			配当年次	編入 配当年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位
	(全学共通科目)			1・2・3・4		前・後	必修	選択	38 5 139	10 単位以上 選択必修
		基礎分野Ⅰ						各 科 目 1 5 2		
	基礎分野Ⅰ	第1部門		1・2・3・4		前・後	1*		38 5 139	10 単位以上 選択必修
		第2部門								
		第3部門								
		総合科目								
	基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	3	通		2	142	必修 8 単位
		研修	海外英語研修	1・2・3・4				2		
		教育	日本国憲法	1	3	後		2	144	
			教育学	2	3	後		2	146	
		主 体 性 の 成 熟 と 判 断 力	基礎セミナーⅠ	1	3	前	1		148	
			基礎セミナーⅡ	2	4	前	1		150	
		英 語 コ ミ ュ ニ ケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	3	前	1		152	
			フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	3	前	1		153	
			フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	3	後	1		154	
			フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	3	後	1		156	
			英語コミュニケーションⅠ	2	4	前	1		158	
			英語コミュニケーションⅡ	2	4	後	1		159	
	専門基礎分野	人 間 と 人 間 生 活	身体と心のセクシュアリティ	1	3	前	1		161	必修 26 単位
			人間関係論Ⅰ	1	3	前	1		162	
			臨床心理学	2	3	後	1		164	
			健康行動論	2	4	前	1		165	
			健康環境論	1	3	前	1		167	
			医療・看護経済論	2	3	前	1		168	
			国際看護論	2	3	後	1		169	
		人 体 の 機 能 と 構 造	機能形態学Ⅰ	1	3	前		2	170	
			機能形態学Ⅱ	1	3	後		2	172	
			生物化学	1	3	前		1	174	
			基礎健康科学演習	1	3	後	2		176	
		疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	症候論	1	3	後	2		179	
			微生物学	1	3	後	1		181	
			臨床薬理学	2	4	前	2		183	
			臨床栄養学	2	4	前	2		185	
			病態学	2	4	前	2		187	
		社 会 保 障 制 度 と 健 康 支 援	公衆衛生学	1	3	前	2		189	
			社会福祉論	1	3	後	1		191	
			保健福祉行政論	2	4	前	2		193	
			保健医療統計学	1	3	前	2		195	
			情報処理演習	1	3	後	1		197	
	専門分野	専門分野Ⅰ	看護と倫理	2	4	後		1	216	必修 22 単位
		統 合 分 野	地域包括ケア	1	3	後	1		262	
			災害看護セミナー	2	4	後	1		263	
			地域家族支援論	2	3	後	2		265	
			公衆衛生看護学概論	1	3	後	2		273	
			ヘルスプロモーション	2	4	前	1		275	
			国際保健・災害看護論	2	4	前	2		277	
			保健医療システム論	2	4	後	1		279	
			コミュニティ・アセスメント論	2	4	後		1	280	
			看護研究	3	3	前	1		298	
			卒業研究A	3	3	通	2		300	
			卒業研究B	4	4	通	2		301	
			発展看護実習	4	4	通	2		306	
			感染看護演習アドバンス	4	4	通	1		307	
			看護管理論	4	4	後	1		309	
			看護キャリアデザイン論	4	4	後	2		310	
			看護政策論	4	4	後	1		312	
単位数:計									66単位	

※ 基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の「しずおか学」科目群については、卒業までに2単位以上修得すること。

* 基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の必修科目「数理・データサイエンス・AI入門」は、必ず修得すること。

5. 試験

本学は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験のうえ単位を与える。試験は、筆記による場合が最も多いが、授業担当教員の判断により、レポートあるいは口答試問、実技テストのような他の方法により評価を決定する場合もある。また、出席状況その他平素の成績も評価を判定する資料となる。

1) 試験の種類

① 定期試験

定期試験は、各学期の終了時に2週間にわたり実施される。通年科目は、授業終了時のみ1回の試験で行うことがある。定期試験時間割は、原則として試験開始の10日前に掲示により発表される。発表後も変更されることがあるので、注意すること。

② 随時試験

定期試験期間以外に授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業や掲示等で伝達されることが多いので、聞きもらしや見落しのないように注意すること。

③ 追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

ア. 病気(ただし、医師の診断書を要する)

イ. 忌引(1・2親等に限り、死亡の日より1週間以内)

ウ. 就職に関する事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

エ. その他やむを得ない事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意すること。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願(用紙は学生室にある)にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に届け出ること。

④ 再試験

成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。当該科目の単位を取得したい場合は、再履修が原則である。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことができる。再試験が許可された学生は、再試験願(用紙は学生室にある)を授業担当教員に届け出ること。

2) 受験資格

- ① 科目について、履修登録していること。
- ② 開講回数のうち2/3以上の出席により、受験資格を認める。ただし、授業担当教員の裁量により、一度の欠席で受験資格が認められない科目もあるため注意すること。

なお、授業開始後30分以内の入室は遅刻とし、授業開始後60分以降の退室は早退として扱い、授業開始後30分超の入室又は授業開始後60分未満の退室は欠席として扱う。遅刻又は早退3回をもって欠席1回とみなす。

3) 受験上の注意事項

試験場内では、すべて監督者の指示またはあらかじめ指示されている事項に従わなければならない。
定期試験の受験方法は次のとおりである。

- ① 受験時の座席については、原則として、学籍番号順に着席すること。
- ② 学生証を机の上に置くこと。学生証のない者は受験できないので注意すること。
- ③ 学生証を忘れた者は、学生室にて「定期試験仮受験票」を発行してもらうこと。
- ④ 机の上には、鉛筆(シャープペン)、消しゴム、その他使用が認められている物だけを置き、それ以外の物はかばんの中に収納すること。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、ウェアブル端末の電源は切り、かばんの中に収納すること。
- ⑥ 不正行為と誤解されないため、試験開始前に以下のことを行うこと。
 - ・机上に落書き等がある場合は、消しゴムで消す。
 - ・机の物入れに何も無いことを確認する。
 - ・周囲の床に何も落ちていないことを確認する。
- ⑦ 試験中に、不正行為の疑義が生じた場合は、監督者の判断で受験を中止させる。
- ⑧ 不正行為が確定した場合は、「看護学部 履修細則」に則り、当該科目を含むその学期のすべて、あるいは一部の科目の履修単位を無効とする。
- ⑨ 原則として試験開始時刻より30分を過ぎた場合は、試験場への入室は認めないので注意すること。

6. 学修の評価

本学における学修評価は、履修細則及び担当教員の評価方針により、試験、レポート、授業出席状況などにおける学生の学修実績に基づき、秀・優・良・可・不可の評語で表現される。

1) 評価の基準

成績の評価基準は、秀・優・良・可・不可の5区分とする。

秀 … 100点～90点

優 … 89点～80点

良 … 79点～70点

可 … 69点～60点

不可… 59点以下

秀・優・良・可と評定されたものは合格とし、当該科目の単位が与えられる。なお、科目の履修を申告し履修しなかった授業科目は不可と評定される。

2) 成績の発表

成績は、「Web学生サービス支援システム」で随時確認できる。

7. 修業年限と在学年限

1) 修業年限と在学年限

編入学生の修業年限は2年とし、在学期間は4年間を超えることができない。ただし、この中に休学期間は算入されない。

2) 卒業要件

● 3年課程修了者

- ① 卒業するためには、2年以上在学し、基礎分野Ⅰ（全学共通科目）10単位以上、基礎分野Ⅱ 8単位、専門基礎分野26単位以上（表2に示す必修科目26単位を含む）、専門分野22単位以上（表2に示す必修科目22単位を含む）の合計66単位以上を修得しなければならない。ただし、基礎分野Ⅰ（全学共通科目）は、基礎分野Ⅱの「運動」、「研修」、「教育」の科目を含めて10単位以上とする。

なお、卒業に必要な単位数は、入学前の既修得単位の認定を含め、入学年度の1年次の同学部学生に規定されている126単位である。

- ② 4年次において卒業要件を満たさず留年した者が、年度途中でその要件を満たした場合は、卒業できることがある。
- ③ 卒業・留年の決定は教授会の議を経て行う。

Ⅶ 学生相談等

1. アドバイザー制度

本学部におけるアドバイザー制度とは、学部学生を縦割りにグループ構成し、専任教員2名がアドバイザーとして、卒業時まで継続してグループ学生の指導・助言を行うものである。アドバイザーの教員は、学生個人の相談に応じ、修学や進路等の学生生活全般の事柄について指導や助言を行うとともに、グループにおける教員と学生とのふれあいの場を設け、その交流を通じて、修学や学生生活に関わるさまざまな相談に応じている。また、学生の意見を十分に聞いてこれを理解し、大学の運営に資するため、関係機関の教職員に連絡・進言する職務にもあたっている。

2. 学生の身分異動

1) 休学

病気その他やむを得ない理由により2か月以上修学困難な場合は、アドバイザーの教員と相談し、了解を得た上で所定の休学願を学生室に提出し、教授会の承認および学長の許可を得て1年以内の休学が認められる。なお、病気による休学の場合は、医師の診断書を添付することが必要である。特別の理由がある場合は、さらに1年を限度として休学期間の延長が認められる。休学期間は通算して3年を超えることはできない。

休学期間中にその理由が消滅したときは、アドバイザーの教員と相談し、了解を得た上で復学願を学生室へ提出し、教授会の承認および学長の許可を得て復学することができる。病気により休学した場合は医師の診断書を添付することが必要である。

2) 復学

休学の期間が満了し復学するときは、アドバイザーの教員と相談し、了解を得た上で復学願を学生室へ提出し、教授会の承認および学長の許可を得て復学することができる。病気により休学した場合は医師の診断書を添付することが必要である。

3) 退学

病気その他の事情により学業継続が困難となり退学しようとする場合は、アドバイザーの教員と相談し、了解を得た上で退学願を学生室へ提出し、教授会の承認を得て、学長の許可を得なければならない。

Ⅷ 事故発生時の対処

1. 事故の定義

事故とは、登下校時、授業・実験・実習・演習・臨地実習中および時間外における傷害・賠償事故をいう。

①自己傷害:学生自身が外傷、針刺し事故等の傷害を負った場合、細菌、ウィルス感染をした場合

②対人賠償:学生が、転倒・転落や誤薬等により患者に傷害を負わせた場合、または学生の同伴時に患者が離院をした場合、または左記以外の状況において学生が他者に傷害を負わせた場合

③対物賠償:学生が、物品・薬品の損壊や物品の滅失等(他人の所有物)をまねいた場合

2. 事故発生時の対応

区 分	対 応	保険関係上の手続き
時間外及び 登下校時	①事故の状況に応じ消防署、警察署へ通報 ②守衛室【草薙】(054-264-5111)または警備員室【小鹿】(054-202-2623)へ連絡 ③状況、現場、対象物等のメモ又は必要時写真撮影	①自己傷害事故の場合には、傷害事故報告書(様式1)または、保険事故通知(様式2)を学生室へ提出 ②対人・対物事故の場合には、賠償事故報告書(様式3)を学生室へ提出 ③事故発生報告書(様式4)をアドバイザーの教員へ提出
臨地実習中の 登下校時	①事故の状況に応じ消防署、警察署へ通報 ②登下校時には、実習指導教員、実習場所指導者へ連絡 ③下校時には、守衛室【草薙】(054-264-5111)または警備員室【小鹿】(054-202-2623)へ連絡	同 上
授業・実験・ 実習及び 演習時間中	科目担当教員へ連絡	①～③ 同 上 ④針刺し事故等感染性傷害事故が発生した場合、針刺し事故等傷害を伴う感染事故報告書(様式5)を学生室へ提出 ⑤細菌、ウィルス感染事故が発生した場合、傷害を伴わない感染事故報告書(様式6)を学生室へ提出
臨地実習中	実習指導教員へ連絡	同 上

注:

- 1) 傷害事故報告書(様式1)、賠償事故報告書(様式3)、針刺し事故等傷害を伴う感染事故報告書(様式5)および傷害を伴わない感染事故報告書(様式6)は、日本看護学校協議会共済制度「WILL」に係る報告書である。
- 2) 保険事故報告書(様式2)は、学生教育災害傷害保険に係る報告書である。
- 3) 事故発生報告書(様式4)は、県立大学看護学部の報告書である。臨地実習中の事故(大小不問)発生後、

速やかに提出すること。また、授業・実験・実習及び演習時間中の事故に関しては、科目担当教員の指示に従うこと。

- 4) 保険金請求時において診断書、医療機関の領収書、見積書等が必要となる場合がある(学生室より個々に指示する)。
- 5) 針刺し事故等感染性傷害事故が発生した場合、針刺し事故等傷害を伴う感染事故報告書(様式5)を学生室へ提出すること。
- 6) 細菌、ウィルス感染事故が発生した場合、傷害を伴わない感染事故報告書(様式6)を学生室へ提出すること。

※ 報告書(様式1～3、5、6)が必要な場合は学生室へ、報告書(様式4:実習要項内)に関しては、担当教員に申し出ること。報告書を作成したら速やかに担当教員へ提出すること。

IX 講 義 概 要

基 礎 分 野 I
(全 学 共 通 科 目)

令和7年度全学共通科目

*表中、「相当科目」欄に記載された科目の単位を修得した場合は、同一行の「科目名」に記載された科目を履修できないので留意してください。

部 門	科 目 名	単 位 数	担当教員 (<i>創設は非常勤講師</i>)	講義概要 のページ	*相当科目
第1部門 (<i>スタディ・スキルと リテラシー</i>)	ドイツ語入門	2	小谷民菜		
	フランス語入門	2	山本ひとみ		
	スペイン語入門	2	杉田和歌子		
	中国語入門	2	王元武		
	日本語作文A	2	達坂里恵		
	日本語作文B	2	達坂里恵		
	中級日本語Ⅰ	2	松尾佳代子		
	中級日本語Ⅱ	2	松尾佳代子		
	数理・データサイエンス・AI入門	1	武藤伸明 ほか		
	【遠隔授業】【必修科目】※				
	ヒューマン・ケア	2	飯島本子		
	TOEFL留学英語Ⅰ	1	藤森敦之		TOEFL留学英語
	TOEFL留学英語Ⅱ	1	藤森敦之		
	TOEICビジネス基礎英語	1	堀内裕晃		
第2部門 (<i>概論</i>)	TOEICビジネス英語Ⅰ	1	山本好比古		
	TOEICビジネス英語Ⅱ	1	山本好比古		
	自然科学概論	2	橋本博 ほか		
	化学入門	2	眞鍋敬 ほか		
	生物学入門	2	浅井知浩 ほか		
	薬剤発達史入門	2	内田信也 ほか		くすりと医療の歩み
	物理学入門	2	本同宏成 ほか		
	環境科学入門	2	谷幸則 ほか		自然と環境・環境と健康
	哲学入門	2	飯野勝己		
	社会思想史入門	2	犬塚協太		社会思想史
	歴史学入門	2	栗田和典		
	宗教学入門	2	佐藤清子		現代の問題と宗教
	社会学入門	2	石井由香		グローバル社会学入門
	国際関係学入門	2	坂巻静佳 ほか		国際関係学への招待
	文化人類学入門	2	金明彦		エスニシティ論、多文化共生論
	公共政策入門	2	藤本 健太郎		社会福祉とソーシャルインクルージョン
	心理学入門	2	西田公昭		日常生活と心理学
	生涯発達心理入門	2	望宗一 ほか		心の発達と行動
	知的財産管理入門	1	居藤洋之		

部 門	科 目 名	単 位 数	担当教員 (担任は非常勤講師)	講義概要 のページ	*相当科目
第 3 部 門 (現 代 教 養)	国際安全保障入門Ⅰ	2	西森之		
	国際安全保障入門Ⅱ	2	西森之		
	くらしと化学A	1	近藤啓 ほか		
	くらしと化学B	1	近藤啓 ほか		
	実用科学英語基礎編	2	太田敏郎		
	実用科学英語応用編	2	太田敏郎		
	基礎生命科学Ⅰ	2	太田敏郎		
	基礎生命科学Ⅱ	2	太田敏郎		
	現代日本文化入門A	1	ファイファー・マティアス		
	現代日本文化入門B	1	ファイファー・マティアス		
	経営分析入門A	1	上野、竹下		
	経営分析入門B	1	上野、竹下		
	英語で学ぶ日本語学ⅠA	1	藤森敦之		
	英語で学ぶ日本語学ⅠB	1	藤森敦之		
	英語で学ぶ日本語学ⅡA	1	吉村紀子		
	英語で学ぶ日本語学ⅡB	1	吉村紀子		
	言語の学習・習得ⅠA	1	吉村紀子		言語の学習・習得 A
	言語の学習・習得ⅠB	1	吉村紀子		言語の学習・習得 B
	言語の学習・習得ⅡA	1	藤森敦之		
	言語の学習・習得ⅡB	1	藤森敦之		
	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	2	森本達也 ほか		
	静岡の防災と医療	2	森本達也 ほか		
	静岡地域食材学A	1	三好規之 ほか		
	静岡地域食材学B	1	江口智美 ほか		
	茶学入門	2	中村順行		
	ムセイオン静岡 ― MUSEUMと文化A	1	立田洋司		・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化A
	ムセイオン静岡 ― MUSEUMと文化B	1	立田洋司		・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化B
	ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産A	1	立田洋司		・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ 世界の文化遺産A
	ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産B	1	立田洋司		・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ 世界の文化遺産B
	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術A	1	立田洋司		・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ 舞台芸術A
	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術B	1	立田洋司		・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ 舞台芸術B
	静岡の市民活動	1	木村綾		
	歴史からみるしずおか学	2	上野雄史、村橋勲		
	新聞でもっと静岡を知ろう	2	上原克仁 ほか		
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	2	上原克仁 ほか		
	SDGs概論	2	近藤啓 ほか		
	ふじのくに「ストロベリー」A: 観る・食べる・学ぶ	2	大久保あかね ほか		
	静岡ゲームチャリティ実践	2	ディハーン・ジョナサン		
	静岡「知」各論-食品環境科学と地域企業の視点から-	2	伊藤創平 ほか		
総 合 科 目	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	2	横井 香織 ほか		
	ふじのくに学 (富士山学概論)	2	鴨川仁 ほか		
	ふじのくに学 (お茶)	2	中村順行 ほか		
	ふじのくに学 (観光学)	1	大久保あかね ほか		
	ふじのくに学 (演劇論)	2	宮城聡(静岡高等学校大学) ほか		
	ふじのくに学 (南アルプスの自然)	1	静岡大学教員 ほか		
	ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーション)	2	静岡産業大学教員 ほか		
	ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーションⅡ)	2	静岡産業大学教員 ほか		
	ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーションⅢ)	2	静岡産業大学教員 ほか		
	ふじのくに学 (農林業)	1	静岡大学教員 ほか		
	ふじのくに学 (森林生態系からの恵み)	1	静岡大学教員 ほか		
	ふじのくに学 (伊豆の温泉と産業おこし)	2	楠城一嘉、鴨川仁 ほか		
	ふじのくに学 (魅力ある食と地域づくり)	2	大久保あかね ほか		
	ふじのくに学 (静岡県西部地域の特性と産業)	2	静岡文化芸術大学教員 ほか		
	健康イノベーション教育プログラム	2	新井英一 ほか		
	キャリアデザイン概論	2	東野 定律		
	男女共同参画社会とジェンダー	2	犬塚協太 ほか		
	人権を支える社会	2	坪田光平		人権問題を考える
	ジャーナリズム論	2	西森之 ほか		
	キャリアと社会①	2	羽衣国際大学教員 ほか		
	高野山で学ぶキャリアとわたし①	2	高野山大学教員 ほか		

※しずおか学科目群から2単位以上を卒業までに修得すること。

※【必修科目】は令和6年度以降入学生を対象とし、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる。

*1南大阪地域大学コンソーシアムの科目。

【実務経験のある教員による科目】

令和7年度

＜全学共通科目＞

科目名	教員氏名	単位数
ヒューマン・ケア	飯島本子	2
TOEFL留学英語I	藤森敦之	1
TOEFL留学英語II	藤森敦之	1
生物学入門	浅井知浩、ほか	2
薬剤発達史入門	内田信也ほか4名	2
公共政策入門	藤本健太郎	2
生涯発達心理入門	篁宗一、保坂利男ほか3名、特別講師2名	2
知的財産管理入門	居藤洋之	1
環境科学入門	原清敏	2
くらしと化学A	近藤啓	1
くらしと化学B	近藤啓	1
言語の学習・習得IIA	藤森敦之	1
言語の学習・習得IIB	藤森敦之	1
英語で学ぶ日本語学IA	藤森敦之	1
英語で学ぶ日本語学IB	藤森敦之	1
静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	森本達也、富安真理ほか3名、特別講師6名	2
静岡の防災と医療	森本達也ほか特別講師10名	2
静岡地域食材学A	特別講師5名	1
静岡地域食材学B	江口智美ほか3名、特別講師3名	1
茶学入門	中村順行ほか特別講師9名	2
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化A	特別講師2名	1
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化B		1
ムセイオン静岡－世界の文化遺産A	特別講師2名	1
ムセイオン静岡－世界の文化遺産B		1
ムセイオン静岡－舞台芸術A	特別講師1名	1
ムセイオン静岡－舞台芸術B		1
新聞でもっと静岡を知ろう	上原克仁・静岡新聞記者	2
企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	上原克仁・静岡県内企業経営者	2
静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	特別講師4名	2
SDGs概論	孫曉剛ほか7名	2
ふじのくに学(お茶)	中村順行、ステファン・ダントン	2
ふじのくに学(観光学)	北上真一、飯倉清太	1
ふじのくに学(演劇論)	宮城聰(静岡英和学院大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅡ)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅢ)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	3
ジャーナリズム論	西恭之、小川和久	2
合計		57

【科目名】	ドイツ語入門		Basic German		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	小谷 民菜				
【担当教員】	小谷 民菜				
【授業目標】	ドイツ語の基本的な発音、綴り、日常的な場面での表現法と最低限度の文法の習得。ドイツ文化への興味の喚起。				
【授業概要】	外国語の学習においては、根底にその言語を話す国の文化への積極的関心があることが何より望ましいが、その言語を習得すると直接役に立つとか利益がある(勿論すばらしいことである!)場合にもまして、その言語の学習プロセス自体が楽しい場合に、より持続的で可能性の大きい学習効果が見込まれることがわかっている。この授業では、会話や発表、聞き取りの練習に加え、面倒がられることが多い発音や文法の規則を覚えることが、決して辛いものではなく楽しさを伴うことを実感してもらえらる指導を目指す。				
【授業方法】	各課において、テキストに沿って、キーセンテンス、文法、対話、練習問題の順に進んでいく。				
【授業展開】	① ガイダンス、アルファベットと発音 ② 動詞の現在人称変化(1)、語順 ③ 名詞の性と格、動詞 sein と haben ④ 動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、es の用法 ⑤ 人称代名詞(3、4格)、冠詞類 ⑥ 前置詞、zu 不定詞(句) ⑦ 分離動詞、非分離動詞、従属接続詞 ⑧ 助動詞、möchte の用法、man の用法 ⑨ 動詞の3基本形、現在完了形、過去形 ⑩ 受動文、再帰代名詞、再帰動詞 ⑪ 関係代名詞、関係副詞、指示代名詞 ⑫ 形容詞の格変化、比較・最上級 ⑬ 接続法 ⑭ 復習 ⑮ まとめ				
【履修条件】					
【評価方法】	期末試験 100%。欠席回数が 5 回を超えると試験が受けられない(第 1 回目は数に入れない)。				
【テキスト】	須藤勲、鶴田涼子、高松佑介『新・フィール・エアフォルク! —はじめてのドイツ語—』同学社				
【参考書】	辞書は次の 3 種類の中から選ぶことを強くお勧めする。 ・同学社『アポロン独和辞典』第 4 版 4200 円＋税 ・三省堂『クラウン独和辞典』第 5 版 4200 円＋税 ・三修社『アクセス独和辞典』第 4 版 4200 円＋税				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フランス語入門	Basic French			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	金曜 4 限		
【科目責任者】	山本ひとみ				
【担当教員】	山本ひとみ				
【授業目標】	教科書に沿って、日常の場面での会話を通じてフランス語の基礎を学び、自分の言葉で会話を応用・発展させていくことを目的とします。				
【授業概要】	フランス語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。 教科書の内容に沿って、フランス語の表現や文法事項を学習していきます。同時に、フランスの文化や地理などの紹介も行います。				
【授業方法】	各課の文法事項について説明した後、ペアワークやグループワークを取り入れながら発音練習や練習問題に取り組み、自分でも文を組み立てられるよう練習します。自宅学習として、復習や次課の単語調べなど。				
【授業展開】	第 1 回 : イントロダクション(授業の進め方の説明・フランスとフランス語についての基礎知識) 第 2 回 : アルファベ、つづりと発音のルール、あいさつ、数字 第 3 回 : コーヒーとサンドイッチを注文する(名詞と冠詞) 第 4 回 :好きなものを言う(動詞、否定文) 第 5 回 : これはとても～です(動詞 être と avoir、指示形容詞) 第 6 回 : 形容詞の使い方(形容詞、職業)、時間の表現 第 7 回 : プレゼントを買いに行く(動詞 aller と venir、近接未来、近接過去) 第 8 回 : 荷物を預ける(疑問文、所有形容詞) 第 9 回 : 依頼する(-ir 形動詞、命令形) 第 10 回 : 質問する(様々な動詞、疑問詞) 第 11 回 : 過去にしたことを言う(複合過去) 第 12 回 : 列車で旅をする(様々な動詞、疑問形容詞) 第 13 回 : レストランで注文する(複合過去) 第 14 回 : 人や物の特徴を言う(比較級、最上級) 第 15 回 : 文法のまとめ				
【履修条件】	受講希望者が適正人数を越えた場合、第 1 回目の授業で選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に参加してください。				
【評価方法】	授業への参加度(出席、口頭練習・宿題への取り組み)25%、小テスト 25%、期末テスト 50%				
【テキスト】	松村博史、エディ・バンドロム『クロワッサン』朝日出版社				
【参考書】	仏和辞典の購入をお勧めします。電子辞書でも構いません。 例:『ベーシッククラウン仏和・和仏辞典』(三省堂)、『ポケットプログレッシブ仏和・和仏辞典』(小学館)、『プチロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『ディコ和仏辞典』(白水社)				
【備考】	対面授業				
【社会人聴講生】	×	【科目等履修生】	×	【交換留学生】	×

【科目名】	スペイン語入門		Basic Spanish		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	杉田和歌子				
【担当教員】	杉田和歌子				
【授業目標】	スペイン語の基本的な文法と語彙を学び、日常生活に関する表現を身に付ける。				
【授業概要】	スペイン語は世界で最も使用されている言語のひとつであり、その言語人口は約3億5千人にものぼります。日本でも重要な位置を占め、その需要は観光、商取引、教育、司法、医療など、幅広い分野に渡ります。現在日本には多くの中南米出身者が居住しており、その一方で企業の中南米進出も増加しています。今後もスペイン語の重要性は増していくことでしょう。 スペイン語は発音が日本語に比較的似ており、日本人には大変学習しやすい言語です。その上、文法体系はかなり明解で、文法事項を整理しながら学習すれば、早い段階で辞書を片手に長文を理解することも可能です。始めてスペイン語を学ぶ人を対象とした授業です。基本的な文法事項と語彙を学んだあと、それらを用いた表現練習をします。				
【授業方法】	基本的な文法事項と語彙を学び、練習問題で確認します。そのうえで、それらを用いた身近な表現を練習します。語学の学習には積み重ねが不可欠です。予習・復習は必ず行って下さい。				
【授業展開】	1. 1課 アルファベット／発音 2. 2課 名詞の性／名詞の数／冠詞 3. 3課 主格人称代名詞／動詞 ser／形容詞／疑問文・否定文 4. 4課 直接法現在・規則動詞Ⅰ（－AR 動詞）／直接法現在の用法／頻度の表現／曜日の表現 5. 5課 直接法現在・規則動詞Ⅱ（－ER 動詞・－IR 動詞）／所有詞（前置形）／時刻の表現 6. 6課 指示詞／HAY＋不定の名詞／ESTAR 7. まとめ 発展練習1・2 8. 中間試験 9. 7課 直接目的格人称代名詞／SABER・CONOCER／1人称単数形が不規則なその他の動詞 10. 8課 間接目的格人称代名詞／語根母音変化動詞 e→ie 型／TENER 11. 9課 語根母音変化動詞 o→ue 型・e→i 型／不定語・否定語 12. 10課 IR・VENIR・DECIR・OÍ R／IR＋a＋不定詞・TENER＋que＋不定詞・HAY＋que＋不定詞／所有詞（後置形） 13. 11課 前置詞人称代名詞／GUSTAR／比較 14. まとめ 発展練習3・4 15. 期末試験				
【履修条件】	毎回授業に出席し、積極的に参加すること。予習・復習を欠かさないこと。				
【評価方法】	試験(中間・期末)+授業態度(授業参加・予習・復習・課題提出等)				
【テキスト】	四宮瑞枝/落合佐枝/Paloma Trenado Deá n『iAcción! Primeros pasos アクション《ライト版》』白水社。 辞書を購入すること。				
【参考書】	高垣 敏博ほか『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館。 原誠ほか『クラウン西和辞典』三省堂。 カルロス・ルビオほか『クラウン和西辞典』三省堂。 鼓直『プログレッシブスペイン語辞典』小学館。 ＊辞書は必ず購入すること。				
【備考】	対面授業のみ。 授業中の携帯電話の使用は固く禁じる(板書の写真撮影を含む。使用した場合は退室してもらう)。大学生にふさわしい態度で受講すること。 授業時間以外の質問はユニバーサルパスポートの Q&A 機能を使用すること。その際、「何のどんなところが分からないか」「それを解決するために自分は何をしたか」をきちんと説明すること。 公欠の扱いを希望する場合は、学生室が発行する欠席届を提出すること。その際、欠席理由を証明できる書類をつけてください。詳しくは以下を参照のこと。 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/campuslife/class/lesson-test/#53435808				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	中国語入門	Basic Chinese		
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	王元武			
【担当教員】	王元武			
【授業目標】	このコースは、初心者に設けられる中国語入門コースである。中国語の基本発音から基本的文法と日常生活・中国への留学・旅行のための会話までのものを修得するように朗読・対話の練習や書き取り・聞き取りの練習などを行う。			
【授業概要】	1 回目から4回目までの授業は、自分の名前の中国語での読み・発音の基礎と簡単な日常挨拶のことばを学ぶ。 5 回目の授業からは、基本文法や会話などの学習を行う。			
【授業方法】	教科書に沿って授業を進める。本文の朗読・練習問題の解答の発表を行う。			
【授業展開】	1 中国語概説 2 声調「四声」・母音の練習 3 子音の練習 4 発音の復習・発音のいろいろな現象と決まり 5 挨拶 6 自己紹介 7 年月日や番号の聞き方 8 動詞の文 9 名詞の文 10 形容詞の文 11 「在」の文 12 「有」の文 13 時の表現 14 完了の表現・助動詞 15 まとめ			
【履修条件】	受講生の人数は、60人までとする。 60人を超える場合は、抽選とするので、希望者は必ず初回の授業に出席すること。 なお、中国語を母語とする学生は履修できない。 国際関係学部で地域言語に中国語を選択した学生は履修を認めない場合がある。			
【評価方法】	出席と定期試験の成績による総合評価。			
【テキスト】	中国語入門テキスト＜漢語会話入門＞ 王元武 著（静楽出版会）			
【参考書】				
【備考】	対面授業			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	日本語作文A	Japanese Essay A
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】 水曜 1 限
【科目責任者】	逢坂里恵 Rie Osaka	
【担当教員】	逢坂里恵 Rie.Osaka	
【授業目標】	異文化について考え、留学生が大学の日常生活に必要な基礎的な日本語作文力を身につける。 To understand different cultures and acquire the basic Japanese writing skills necessary for international students in their daily lives at university.	
【授業概要】	授業では、日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、参加学生の各国と比較しながら、日本語で話し・聞き・読み・書くことを通して考え、日本や異文化の理解を深めるとともに、語彙、表現力を養い、基礎的な作文の書き方を学ぶことで、大学生活でのメールや手紙、基礎的な作文、研究計画書などが書けるようになる。留学生と日本人学生とともに考え、日本語作文を学ぶことを通し交流を深めたい。 In the class, students will think about themes related to Japan's life,culture, and society through speaking, listening, reading, and writing in Japanese while comparing them with the students' countries. And students will learn how to write basic essays. I would like to deepen exchanges by thinking together with international students and Japanese students.	
【授業方法】	1日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、日本語で新聞記事などの文章や資料を読み、参加学生の各国と比較しながら、ディスカッションをし、語彙や表現力を養うとともに、異文化理解を深める。 2日本語作文の表現技術や書き方を学ぶ。1をもとに、2を使いながら、作文を書く。さらに、作文をいっしょに読み合い、推敲し、基礎的な作文力をつける。 *日本人学生は、留学生といっしょにディスカッションしたり、各国の話を聞いたりして、自国の文化や異文化について知り考える機会となり、また留学生が日本語で読むことや作文をサポートすることにより、日本語や日本語教育について学ぶ機会となる。 *留学生が大学の日常生活に必要な基礎的な作文力の習得を目標としているが、初級の学生であれば基本文型を使い文を書くところから学ぶなど、個々の日本語力に応じ対応する。 1Students will read newspaper articles and other materials in Japanese on themes related to Japan's life, culture,and have discussions while comparing them with the students' countries. It will deepen their cross-cultural understanding. 2Students will learn how to express and write Japanese essay,and write an essay on the each theme discussed. In addition, students will read and refine essays together to develop basic writing skills. *The main goal is for international students to improve the basic writing skills necessary for daily life at university, but if you are a beginner student, you can learn from writing sentences using basic sentence patterns, depending on your individual Japanese ability.	
【授業展開】	1.授業ガイダンス Class guidance 参加学生間の紹介、「絵を見て説明しよう」 日本語の書く力、書くことに関わるニーズについて確認 2.テーマ1「生活習慣」"Lifestyle habits"(基本的な作文の書き方)原稿用紙の使い方と PC での文書作成の書式 3.テーマ1について作文、(作文表現)比較して述べる 4.テーマ2「大学生活」"University life"(基本的な作文の書き方)話し言葉と書き言葉(文のスタイル) 5.テーマ2について作文、(作文表現)メールの書き方、欠席届の書き方 6.テーマ3「コミュニケーション」"Communication"(基本的な作文の書き方)くだけた表現・整った表現 7.テーマ3作文発表1 (作文表現)コメントペーパーの書き方 8.テーマ4「住みたい場所、訪れたい場所」"Places I Want to Live and Visit"(基本的な作文の書き方)文章の構成 9.テーマ4について作文、(作文表現)理由を述べる表現、 10.発表2「住みたい場所、訪れたい場所」 11.テーマ5「男と女」"Men and Women"、(基本的な作文の書き方)助詞相当句1 12.テーマ5について作文、(作文表現)例をあげる表現 13.テーマ6「食生活、食文化」"Eating habits, food culture"(基本的な作文の書き方)助詞相当句2 14.テーマ6について紹介文を書く (作文表現)共通点、類似点、相違点を述べる表現 15.発表3「私の町のお菓子」"Sweets in my town"、まとめ	
【履修条件】	外国人留学生を対象とする。また、留学生に対する日本語教育や異文化に関心があり、チューターとして共に学	

	習できる日本人学生も対象とする(ただし人数は限る)。 International students.And also Japanese students who can study with them as tutors (but the number is limited).				
【評価方法】	授業への取り組み(30%)、課題提出(30%)、発表(20%)、試験(20%)による総合評価とする。 Grades are based on class participation(30%),Assingments(30%), Pesentation (20%), and Exam (20%).				
【テキスト】	プリント配布、また授業のなかで提示 Distribution of printouts				
【参考書】	・『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』(ASK 出版) ・『留学生と大学生のためのエピソードとタスクから描く私のキャリアプラン』(凡人社)				
【備考】	日本語作文 B(後期)受講者は日本語作文 A を履修していることが望ましい。 参加する留学生の日本語力により、授業内容を検討する。 授業を通して、留学生と日本人学生とのコミュニケーションを楽しみましょう。 It is desirable for students who take Japanese Essay B (Second Semester) to take Japanese Essay A. The content of the class will be examined according to the Japanese proficiency of the participating international students. Let's enjoy communication between international students and Japan students through classes.				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講不可	【科目等履修生】	科目等履修生履修不可	【交換留学生】	交換留学生可 Exchange students are welcomed.

【科目名】	日本語作文B	Japanese Essay B
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】 水曜 1 限
【科目責任者】	逢坂里恵 Rie Osaka	
【担当教員】	逢坂里恵 Rie Osaka	
【授業目標】	異文化について考え、留学生が大学の日常生活に必要な日本語作文力を身につける。 To understand different cultures and acquire the basic Japanese writing skills necessary for international students in their daily lives at university.	
【授業概要】	前期に続き、日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、参加学生の各国と比較しながら、日本語で話し・聞き・読む・書くことを通して考え、日本や異文化の理解を深めるとともに、語彙、表現力を養い、基礎的な作文の書き方を学ぶことで、大学生活でのメールや手紙、基礎的な作文、研究計画書などが書けるようになる。留学生と日本人学生とともに考え日本語作文を学ぶことを通し、交流を深めたい。 In the class, students will think about themes related to Japan's life, culture, and society through speaking, listening, reading, and writing in Japanese while comparing them with the students' countries. And students will learn how to write basic essays. I would like to deepen exchanges by thinking together with international students and Japanese students.	
【授業方法】	1 日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、日本語で新聞記事などの文章を読み、参加学生の各国と比較しながら、ディスカッションをし、語彙や表現力を養うとともに、異文化理解を深める。 2 日本語作文の表現技術や書き方を学ぶ。1をもとに2を使いながら、作文を書く。作文をいっしょに読みあい、推敲し、基礎的な作文力を習得する。 * 日本人学生は、留学生とともにディスカッションしたり、各国の話を聞いたりして、自国の文化や異文化について知り考える機会となり、また留学生が日本語で読むことや作文をサポートすることにより、日本語や日本語教育について学ぶ機会となる。 * 留学生が大学の日常生活に必要な日本語作文力の習得を目標としているが、初級の学生であれば基本文型を使い文を書くところから学ぶなど、個々の日本語力に応じ対応する。 1 Students will read newspaper articles and other materials in Japanese on themes related to Japan's life, culture, and have discussions while comparing them with the students' countries. It will deepen their cross-cultural understanding. 2 Students will learn how to express and write Japanese essay, and write an essay on the each theme discussed. In addition, students will read and refine essays together to develop basic writing skills. * The main goal is for international students to improve the basic writing skills necessary for daily life at university, but if you are a beginner student, you can learn from writing sentences using basic sentence patterns, depending on your individual Japanese ability.	
【授業展開】	1. 授業ガイダンス Class Guidance 参加学生間の紹介、「夏休みのこと About Summer Vacation、Cool Japan」 日本語の書く力、書くことに関わるニーズについて確認 2. テーマ7「教育」"Education"、(作文の書き方) 名詞・動詞・形容詞のスタイル 3. テーマ7 教育問題(作文の書き方) 視点・呼応の表現 4. テーマ7 発表「国の教育問題」 5. テーマ8「結婚」"Marriage" (作文の書き方) 和語と漢語 6. テーマ8「結婚」、資料を読む(作文表現) 定義する表現・問題提起する表現 7. テーマ9「働き方」"Work Style"、(作文の書き方) 数値に関する表現 8. テーマ9「結婚・働き方」/ 職業適性(作文の書き方) 図表・データの表現 1 9. テーマ9について作文、(作文表現) 図表・データの利用 10. テーマ 8・9 発表「結婚・働き方」 11. テーマ 10「日本語」"Japanese" (作文の書き方) 手紙を書き方、今年の漢字、若者言葉 12. テーマ 11 私のテーマ「もっと知りたい日本」"What I want to know about Japan" 「テーマと構成」(研究計画書の作成) (表現) インタビューの表現 13. テーマ 11「もっと知りたい日本」インタビュー 14. 「もっと知りたい日本」、発表の準備、レジュメ/power point 作成 15. テーマ 11 発表「もっと知りたい日本」	
【履修条件】	外国人留学生を対象とする。また、留学生に対する日本語教育や異文化に関心があり、チューターとして共に学習できる日本人学生も対象とする(ただし人数は限る)。	

	International students. And also Japanese students who can study with them as tutors (but the number is limited).				
【評価方法】	授業への取り組み、課題提出、発表、試験による総合評価とする。 授業への取り組み(30%)、課題提出(30%)、発表(20%)、試験(20%)による総合評価とする。 Grades are based on class participation(30%), Assignments(30%), Presentation (20%), and Exam (20%).				
【テキスト】	プリント配布、また授業のなかで提示 Distribution of printouts				
【参考書】	『日本語を学ぶ人のためのアカデミックライティング講座』(ASK 出版) 『留学生と大学生のためのエピソードとタスクから描く私のキャリアプラン』(凡人社) その他、授業の中で随時紹介				
【備考】	日本語作文 B(後期)受講者は日本語作文 A を履修していることが望ましい。 参加する留学生の日本語力に応じ、授業内容を検討する。 授業を通して、留学生と日本人学生とのコミュニケーションを楽しみましょう。 It is desirable for students who take Japanese Essay B (Second Semester) to take Japanese Essay A. The content of the class will be examined according to the Japanese proficiency of the participating international students. Let's enjoy communication between international students and Japan students through classes.				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講不可	【科目等履修生】	科目等履修生履修不可	【交換留学生】	交換留学生可 Exchange students are welcomed

【科目名】	中級日本語Ⅰ	Intermediate Japanese for Exchange StudentsⅠ			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	水曜 2 限		
【科目責任者】					
【担当教員】	松尾佳代子				
【授業目標】	初級で習った文法や語彙を定着させつつ、話す・聴く技能を高め、またコミュニケーションに必要な文化社会知識を身につけることを目標とする。				
【授業概要】	前半は初級後期の教科書を使用し、初級日本語の復習と確認を行っていく。授業後半は中級教材を使用し、より実践的なコミュニケーション能力を養うこととそのために必要な知識や情報を得ることを目指す。				
【授業方法】	まず、初級の文法や語彙、表現を踏まえた上で質問をしたり答えたりすることができ、日常的なことに対応できる会話ができるかを教科書の復習と教室活動での練習で確認を行う。その後の上級レベルへの移行を目指した活動では、教科書の会話文やそこで使用される表現・文法を学習しながら、実践的な会話力、意見を言う・説明するなどのコミュニケーション能力とさまざまな情報を聞き取るための聴解力獲得を目指して、会話練習や発表練習等を行う。さらに、教科書で扱う課のトピックに関連した日本文化について調べたり説明を聞くことによって、コミュニケーションに必要な知識や情報を得る活動を実施する。				
【授業展開】	1. 授業ガイダンス 2. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 18 課 3. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 19 課 4. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 20 課 5. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 21 課 6. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 22 課 7. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 23 課 8. 『上級へのとびら』第 1 課 日本の地理 9. 『上級へのとびら』第 1 課 10. 『上級へのとびら』第 2 課 日本語のスピーチスタイル 11. 『上級へのとびら』第 2 課 12. 『上級へのとびら』第 3 課 日本のテクノロジー 13. 『上級へのとびら』第 3 課 14. 『上級へのとびら』第 4 課 日本のスポーツ 15. 『上級へのとびら』第 4 課、 まとめ ・授業内容や方法は、受講生の日本語のレベルや状況によって変わる可能性がある。				
【履修条件】	初級日本語の基本的な文法事項や語彙・表現等が学習済みであること。				
【評価方法】	授業への取り組み(参加状況 20%、課題の提出状況など 50%)と定期試験 30%の成績で評価する。				
【テキスト】	・坂野永理他(2020)『初級日本語 げんき〔第 3 版〕Ⅱ』The Japan Times Publishing ・近藤純子他(2009)『上級へのとびら』くろしお出版				
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。				
【備考】	本科目は、本学協定校からの交換留学生を主な対象としている。ただし、交換留学生以外でも、担当教員が認めた場合は履修可能である。 授業内容や方法は、受講生の日本語のレベルや状況によって変わる可能性がある。				
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	中級日本語Ⅱ	Intermediate Japanese for Exchange StudentsⅡ			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	水曜 2 限		
【科目責任者】					
【担当教員】	松尾佳代子				
【授業目標】	初級で習った文法や語彙を定着させつつ、話す・聴く技能を高め、またコミュニケーションに必要な文化社会知識を身につけることを目標とする。				
【授業概要】	授業は「中級日本語Ⅰ」で使用する教材『上級へのとびら』を継続して使用し、実践的なコミュニケーション能力を養うことと、そのために必要な知識や情報を得ることを目指す。				
【授業方法】	教科書の会話文やそこで使用される表現や文法を学習しながら、実践的な会話力、意見を言う・説明するなどのコミュニケーション能力とさまざまな情報を聞き取るための聴解力獲得を目指して、会話練習や発表練習等を行う。さらに、教科書で扱う課のトピックに関連した日本文化について調べたり、説明を聞く、資料を読むことによって、コミュニケーションに必要な知識や情報が得られるような活動をする予定である。				
【授業展開】	1. 授業ガイダンス 2. 『上級へのとびら』第 5 課 日本の食べ物 3. 『上級へのとびら』第 5 課 4. 『上級へのとびら』第 6 課 日本人と宗教 5. 『上級へのとびら』第 6 課 6. 『上級へのとびら』第 7 課 日本のポップカルチャー 7. 『上級へのとびら』第 7 課 8. 『上級へのとびら』第 8 課 日本の伝統芸能 9. 『上級へのとびら』第 8 課 10. 『上級へのとびら』第 9 課 日本の教育 11. 『上級へのとびら』第 9 課 12. 『上級へのとびら』第 10 課 日本の便利な店 13. 『上級へのとびら』第 10 課 14. 『上級へのとびら』第 11 課 日本の歴史 15. 『上級へのとびら』第 11 課、まとめ ・授業内容や方法は、受講生の日本語のレベルや状況によって変わる可能性がある。				
【履修条件】	初級日本語の基本的な文法事項や語彙・表現等が学習済みであること。				
【評価方法】	授業への取り組み(参加度 20%、課題の提出状況など 50%)と定期試験 30%の成績で評価する。				
【テキスト】	近藤純子他(2009)『上級へのとびら』くろしお出版				
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。				
【備考】	本科目は、本学協定校からの交換留学生を主な対象としている。ただし、交換留学生以外でも、担当教員が認めた場合は履修可能である。 授業内容や方法は、受講生の日本語のレベルや状況によって変わる可能性がある。				
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	数理・データサイエンス・AI 入門		Introduction to Mathematics,Data Science and Artificial Intelligence		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	月曜 6 限	
【科目責任者】	武藤伸明				
【担当教員】	武藤伸明、六井淳、栗木清典、中野祥吾、橋本博、伊藤由彦、青山知靖、宮崎晋生、山田紋子、三崎健太郎				
【授業目標】	現在社会のさまざまな局面で活用される、数理・データサイエンス・AI と関連する情報技術について、基本的な概念や考え方を学ぶ。				
【授業概要】	数理・データサイエンス・AI を構成し支える学問や技術、その応用について学習する。特に次のことを学ぶ。 1. 数理・データサイエンス・AI が現代社会の基盤をなすものであることを理解し、各分野における活用事例を学ぶ 2. データから特徴を抽出し、可視化する方法を理解し、より高度なデータ分析の例を学ぶ 3. 個人情報保護やデータの収集や活用における倫理、データを活用する社会におけるリスクを学ぶ 4. データサイエンスに関連する情報技術や人工知能技術を学ぶ				
【授業方法】	オンデマンド形式で授業を実施する。数理・データサイエンス・AI について動画を視聴する。授業は全 8 回で、授業への取り組みと試験またはレポートにより成績評価する。				
【授業展開】	1. ビックデータと AI、社会における活用 2. 統計学入門 ―尺度水準と代表値―、生成 AI 3. データの可視化 4. データの関係を調べる ―相関係数、回帰直線、相関関係と因果関係―、生成 AI の利用 5. データ分析の流れ ―データの収集、データの保存、前処理、データの前処理、分析手法の選択、回帰分析― 6. データの取り扱い 1 ―個人情報保護法、データの取り扱いに関する注意、情報セキュリティ― 7. データの取り扱い 2 ―情報の信頼性、改竄、再現性、チャンピオンデータ― 8. PPDAC サイクル、人工知能と機械学習				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	授業への取り組み(50%)と試験またはレポート(50%)により成績評価する。他人のレポートをコピーした場合、成績を不可とする。				
【テキスト】	動画による講義資料として配信する。				
【参考書】	授業中に適宜指示する。				
【備考】	・令和6年度以降入学生は必修科目であり、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる。 ・【遠隔授業】オンデマンド形式で授業を実施する。 参考資料: 文部科学省 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	ヒューマン・ケア	Human Care	
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限
【科目責任者】	*飯島本子		
【担当教員】	*飯島本子		
【授業目標】	聴覚障害を理解すると共に、ろう者の言語である手話を学ぶ。		
【授業概要】	聴覚障害や、手話の基礎知識、歴史、福祉施策について学び、基本的な手話を習得する。		
【授業方法】	講義・実技を通して手話指導を行なう。 障害当事者の体験について学ぶ。		
【授業展開】	1 講義:「聞こえないということ」・手話実技 2 講義:「手話とは」・手話実技 3 講義:「ろう者の歴史」・手話実技 4 講義:「手話の基礎知識」・手話実技 5 講義:「聴覚障害の基礎知識」・手話実技 6 講義:「ろう者の日常生活」・手話実技 7 講義:「世界の手話」「ろう者のスポーツ」「ろう文化①」・手話実技 8 講義:「ろう教育」・手話実技 9 講義:「ろう者の学生時代」・手話実技 10 講義:「手話言語条例」・手話実技 11 講義:「手話通訳者と通訳活動」・手話実技 12 講義:「ろう者の生活(防災、就労)」・手話実技 13 講義:「聴覚障害者関連組織」「全国手話検定試験」「旧優生保護法」 14 講義:「手話の広がり」「ろう文化②」・手話実技 15 講義:試験 ※講義内容は順番が変わる場合があります。 ※講義はすべてテキストを使用 ※内、数回はろう者講師による講義・実技指導あり。		
【履修条件】	受講を希望する者は、第1回目の授業を必ず受講してください。 履修登録は先着順に 100 人まで受け付けます。 授業は公共交通機関の遅延以外は、9時を過ぎると入室不可です。		
【評価方法】	ペーパー試験 ※状況によっては変更する可能性があります。その都度ユニバでお知らせします。		
【テキスト】	公益社団法人静岡県聴覚障害者協会発行テキストを使用します。 『静岡県～手話は言語～手話学習テキスト』1,000 円(非課税対象) 大学内の書店では扱いません。 ●第1回講義(4月10日(木)1限)および第2回講義(4月17日(木)1限)において販売します。 第3回講義以降での販売は行いません。		
【参考書】	なし		
【備考】	手話通訳士資格を持つ公益社団法人静岡県聴覚障害者協会職員が、聴覚障害や手話の基礎知識、歴史、福祉施策、基本的な手話について指導する。		
【社会人聴講生】	本学学生の受講が定員を下回った場合に限り、社会人聴講生の聴講を受け入れる。 履修条件については本学学生と同一。	【科目等履修生】	本学学生の受講が定員を下回った場合に限り、科目等履修生の受講を受け入れる。 履修条件については本学学生と同一。
【交換留学生】			

【科目名】	TOEFL 留学英語 I		TOEFL English for Studying Abroad I		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	*藤森 敦之				
【担当教員】	*藤森 敦之				
【授業目標】	この授業では、交換留学や海外の大学・大学院への留学を目指す学生を対象に、TOEFL (Test of English as a Foreign Language)で求められる英語技能、テスト形式、および出題内容を理解し、スコア向上を目指す。特に TOEFL-ITP (reading および listening)の対策を中心に学習を進め、最終的には TOEFL iBT 70 点相当のスコアを取得できることを目標とする。				
【授業概要】	TOEFL は、海外の大学において英語で授業内容を理解し、意見交換や議論を行い、試験やレポートを作成するために必要な英語力を測定するテストである。特に、アカデミックな環境で情報量の多い講義を理解し、ノートを取り、教科書や文献を読んで要点を把握するためには、高度な英語力が求められる。本授業では、さまざまな学術分野に関する語彙を学習し、複雑な文法事項を正しく理解することで、基礎英語力を強化する。その上で、リスニングを通じて英語の音に慣れ、読解力・速読力を高めることで、アカデミック英語力の向上を図る。				
【授業方法】	本授業はテキストを使用し、演習形式で進める。科目の達成目標およびその特性を考慮し、「反転学習」を導入する。受講生は毎週出される課題に必ず取り組み、予習をした上で授業に参加する。クラスでは、課題の結果をもとに、学習上のむずかしい点について討議し、わかりやすく詳細に説明して問題解決を図る。				
【授業展開】	1. Introduction & Pre-test 2. Reading – Learning how academic readings are organized 3. Reading – Question types and their purposes 4. Reading – Timed reading 5. Reading – Practice set 1 6. Reading – Practice set 2 7. Reading – Practice set 3 8. Reviewing reading skills 9. Listening – Question types 10. Listening – Understanding campus talks 11. Listening – Understanding long lectures 12. Listening – Practice set 1 13. Listening – Practice set 2 14. Listening – Practice set 3 15. Reviewing listening skills				
【履修条件】	受講生は、TOEIC スコア 730 点以上、英検準 1 級、またはそれと同等の英語力を有することが望ましい。スコアなどの証明がない場合は、初回授業に相談すること。 なお、学期末には TOEFL ITP テストの受験が必須となる。				
【評価方法】	授業で扱う教科書の該当範囲を事前に予習し、その解答をもとに授業へ積極的に参加することが求められる。単位を取得するには、全授業の3分の2以上の出席に加え、課題の提出などが必須となる。				
【テキスト】	The Official Guide to the TOEFL Test, Seventh Edition (McGraw-Hill) (紙版を希望の学生は大学書店にて購入すること。デジタル版を希望の学生には初回授業時に案内する。)				
【参考書】	改訂新版 TOEFL TEST 必須英単語 5600 (ベレ出版)				
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。 後期開講の TOEFL 留学英語Ⅱへの受講に繋がるような学習を期待する。				
【社会人聴講生】	不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	不可。

【科目名】	TOEFL 留学英語Ⅱ		TOEFL English for Studying Abroad Ⅱ		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	*藤森 敦之				
【担当教員】	*藤森 敦之				
【授業目標】	この授業では、交換留学や海外の大学・大学院への留学を目指す学生を対象に、TOEFL (Test of English as a Foreign Language)で求められる英語技能、テスト形式、および出題内容を理解し、スコア向上を目指す。特に TOEFL iBT の Speaking および Writing におけるアウトプット対策に重点を置き、最終的には TOEFL iBT で 70 点を取得することを目指す。				
【授業概要】	TOEFL は海外の大学で英語での授業内容を理解、英語での意見交換や議論提供、英語での試験やレポート作成に必要な英語力を測定するテストである。特に、アカデミックな環境において情報量の多い講義を理解し、ノートを取り、教科書や文献を読み要点を把握していくためには、上級レベルの英語力が求められる。本授業では、実践問題を通して、留学先で必要となる Speaking 及び Writing の技能を高める。また、学習者が誤りやすいボキャブラリー、文法事項等をピンポイントで学習する事により、さらなる英語力の向上を図る。				
【授業方法】	本授業はテキストを使用し、演習形式で進める。科目の達成目標およびその特性を考慮し、「反転学習」を導入する。受講生は毎週出される課題に必ず取り組み、予習をした上で授業に参加する。クラスでは、課題の結果をもとに、学習上のむずかしい点について討議し、わかりやすく詳細に説明して問題解決を図る。				
【授業展開】	1. Introduction & Pretest 2. The writing section 3. Integrated writing tasks and scoring rubric 4. Writing – Practice set 1 5. Independent writing tasks and scoring rubric 6. Writing – Practice set 2 7. Timed writing 8. Reviewing writing skills 9. The speaking section 10. Independent speaking and scoring rubric 11. Speaking – Practice set 1 12. Integrated reading/listening/speaking 13. Speaking – Practice set 2 14. Timed speaking 15. Reviewing speaking skills				
【履修条件】	受講生は、TOEIC スコア 730 点以上、英検準 1 級、またはそれと同等の英語力を有することが望ましい。スコアなどの証明がない場合は、初回授業に相談すること。 なお、学期末には TOEFL iBT Online Practice Test の受験が必須となる。（詳細は初回授業にて案内する。）				
【評価方法】	授業で扱う教科書の該当範囲を事前に予習し、その解答をもとに授業へ積極的に参加することが求められる。単位を取得するには、全授業の3分の2以上の出席に加え、課題の提出などが必須となる。				
【テキスト】	The Official Guide to the TOEFL Test, Seventh Edition (McGraw-Hill) (紙版を希望の学生は大学書店にて購入すること。デジタル版を希望の学生には初回授業時に案内する。)				
【参考書】	改訂新版 TOEFL TEST 必須英単語 5600 (ベレ出版)				
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【社会人聴講生】	不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	不可。

【科目名】	TOEIC ビジネス基礎英語		TOEIC Business English-Basic		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	金曜 3 限	
【科目責任者】	堀内裕晃				
【担当教員】	堀内裕晃				
【授業目標】	本授業では、TOEIC (Test of English for International Communication) 用の教材を用いて、中高校までの英語知識の復習と定着を図りつつ、スコアの向上を目指します。				
【授業概要】	授業では、TOEIC 用のテキストやプリント教材を用いて演習を行います。TOEIC L&R に頻出する単語と文法の復習をし、その定着を図り、500 点獲得を目指します。				
【授業方法】	毎週単語・熟語や基本表現の小テストを行い、語彙と基本表現の定着を図ります。教科書のリスニング課題とリーディング課題はクラスにおいて演習の形で行います。文法については、事前に教科書の解説を読んでください。また、テキスト以外に文法・語法を強化するためのプリント教材も使用します。授業で取り上げるトピック及び重視する事項は以下のような構成となります。				
【授業展開】	1. Introduction 2. Unit 1 Travel 3. Unit 2 Dining Out 4. Unit 3 Media 5. Unit 4 Entertainment 6. Unit 5 Purchasing 7. Unit 6 Clients 8. 中間試験 9. Unit 7 Recruiting 10. Unit 8 Personnel 11. Unit 9 Advertising 12. Unit 10 Meetings 13. Unit 11 Finance 14. Unit 12 Offices 15. Unit 13 Daily Life 16. 期末試験				
【履修条件】	中高校で学習した基礎英語力を習得していること。Web での先着順で 30 名を定員とします。				
【評価方法】	学期末試験を受験するためには、3 分の 2 以上の出席が必要です。 小テスト(30%)中間試験(35%)期末試験(35%)				
【テキスト】	Score Booster For the TOEIC L & R Test Pre-Intermediate (金星堂)				
【参考書】	クラスで適宜紹介します。				
【備考】	授業での積極的な取り組みが重要です。定員は Web にて先着 30 名とします。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	

【科目名】	TOEIC ビジネス基礎英語		TOEIC Business English-Basic		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	金曜 3 限	
【科目責任者】	堀内裕晃				
【担当教員】	堀内裕晃				
【授業目標】	本授業では、TOEIC (Test of English for International Communication) 用の教材を用いて、中高校までの英語知識の復習と定着を図りつつ、スコアの向上を目指します。				
【授業概要】	授業では、TOEIC 用のテキストやプリント教材を用いて演習を行います。TOEIC L&R に頻出する単語と文法の復習をし、その定着を図り、500 点獲得を目指します。				
【授業方法】	毎週単語・熟語や基本表現の小テストを行い、語彙と基本表現の定着を図ります。教科書のリスニング課題とリーディング課題はクラスにおいて演習の形で行います。文法については、事前に教科書の解説を読んでください。また、テキスト以外に文法・語法を強化するためのプリント教材も使用します。授業で取り上げるトピック及び重視する事項は以下のような構成となります。				
【授業展開】	1. Introduction 2. Unit 1 Travel 3. Unit 2 Dining Out 4. Unit 3 Media 5. Unit 4 Entertainment 6. Unit 5 Purchasing 7. Unit 6 Clients 8. 中間試験 9. Unit 7 Recruiting 10. Unit 8 Personnel 11. Unit 9 Advertising 12. Unit 10 Meetings 13. Unit 11 Finance 14. Unit 12 Offices 15. Unit 13 Daily Life 16. 期末試験				
【履修条件】	中高校で学習した基礎英語力を習得していること。Web での先着順で 30 名を定員とします。				
【評価方法】	学期末試験を受験するためには、3 分の 2 以上の出席が必要です。 小テスト(30%) 中間試験(35%) 期末試験(35%)				
【テキスト】	Score Booster For the TOEIC L & R Test Pre-Intermediate (金星堂)				
【参考書】	クラスで適宜紹介します。				
【備考】	授業での積極的な取り組みが重要です。定員は Web にて先着 30 名とします。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	

【科目名】	TOEIC ビジネス英語 I	TOEIC Business English I		
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	山本好比古			
【担当教員】	*山本好比古			
【授業目標】	本授業では、さまざまなビジネスコミュニケーションの場面に必要な英語力の測定を目的とした TOEIC (Test of English for International Communication) L&R + Writing のスコアアップを目指す。			
【授業概要】	授業は対面で実施される。学習はグローバルなビジネスコミュニケーションに不可欠となってきた英語力の基本的なスキル ― リスニング力、語彙・文法の知識、リーディング力に加え、ライティング力 ― の習得を目指して進めて行く。特に、ビジネスシーンに特有な会話文・広告・メール・アナウンスメント等に使用される文型・語彙・表現に重点を置き、理解の向上に努める。			
【授業方法】	テキストに基づく演習形式で進めて行く。特に、学習では焦点を問題を解き復習で知識の定着に置き、頻出度の高いボキャブラリー、間違いやすい問題を重点的に習得し、さらなるスコアアップ(730 点以上)を目指す。学期末に実施される TOEIC L&R + Writing テストに向けて実践的な解決策を学習する。			
【授業展開】	1. イントロダクション TOEIC について 2. Part 5 語彙の問題 3. Part 5 文法の問題 4. Part 2 応答問題 5. Part 6 長文読解 6. Write a sentence based on a picture 7. Part 3 会話問題 8. 中間テスト 9. Part 3 会話問題 10. Part 7 文章 11. Writing -respond to a written request 12. Part 4 説明文問題 13. Write an opinion essay 1 14. Write an opinion essay 2 15. 期末テスト+TOEIC L&R IP テスト			
【履修条件】	本授業は、TOEIC L&R + Writing のスコアアップに強い興味を持ち、積極的に TOEIC L&R 及びライティングの課題に取り組める学生を対象とする。初回授業時に抽選を行うので、履修希望者は初回授業前に UNIPA 上で登録を行わず、必ず初回授業に出席すること。 TOEIC L&R 670 点(または英検準1級)以上を取得していることが望ましい。 履修希望者は初回授業時に TOEIC L&R 670 点(目安とする)のスコアシートまたは英検準1級の証書(コピー可)を提示してください。未受験の場合			
【評価方法】	授業で予定される教科書の範囲を予習し、授業で学んだことを繰り返し練習する事が重要である。単位取得には、3分の2以上の課題、クイズの提出および TOEIC L&R IP テストの受験が必須である。 * 受講生は学期末に実施される TOEIC L&R IP を受験する事(3 年生以上は実費) * 学期末に実施される TOEIC L&R IP の代わりに、TOEC L&R 公開テストでも可能:受験料は実費			
【テキスト】	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 10 (国際ビジネスコミュニケーション協会)			
【参考書】	公式 TOEIC Speaking & Writing ワークブック(国際ビジネスコミュニケーション協会)			
【備考】	毎回の予習及び課題提出が重要である。			
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】

【科目名】	TOEIC ビジネス英語Ⅱ		TOEIC Business EnglishⅡ		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	山本好比古				
【担当教員】	*山本好比古				
【授業目標】	本授業では、さまざまなビジネスコミュニケーションの場面に必要な英語力の測定を目的とした TOEIC (Test of English for International Communication) L&R + Speaking のスコアアップを目指す。				
【授業概要】	授業は対面で実施される。学習はグローバルなビジネスコミュニケーションに不可欠となってきた英語力の基本的なスキル ― リスニング力、語彙・文法の知識、リーディング力に加え、会話力の習得を目指して進めて行く。特に、ビジネスシーンに特有な会話文・広告・メール・アナウンスメント等に使われる文型・語彙・表現に重点を置き、理解の向上に努める。				
【授業方法】	テキストに基づく演習形式で進めて行く。特に、学習では焦点を問題を解き復習で知識の定着に置き、頻出度の高いボキャブラリー、間違いやすい問題を重点的に習得し、さらなるスコアアップ(730 点以上)を目指す。学期末に実施される TOEIC L&R + Speaking テストに向けて実践的な解決策を学習する。				
【授業展開】	1. イントロダクション TOEIC について 2. Part 5 語彙の問題 3. Part 5 文法の問題 4. Part 2 応答問題 5. Part 6 長文読解 6. Speaking – describing a picture 7. Part 3 会話問題 8. 中間テスト 9. Part 3 会話問題 10. Part 7 文章 11. Speaking – respond to questions 12. Part 4 説明文問題 13. Speaking – express an opinion 1 14. Speaking – express an opinion 2 15. 期末テスト+TOEIC L&R IP テスト				
【履修条件】	本授業は、TOEIC L&R + Speaking のスコアアップに強い興味を持ち、積極的に TOEIC L&R 及びスピーキングの課題に取り組める学生を対象とする。初回授業時に抽選を行うので、履修希望者は初回授業前に UNIPA 上で登録を行わず、必ず初回授業に出席すること。 TOEIC L&R 670 点(または英検準1級)以上を取得していることが望ましい。 履修希望者は初回授業時に TOEIC L&R 670 点(目安とする)のスコアシートまたは英検準1級の証書(コピー可)を提示してください。未受験の場合は初回授業時に相談すること。定員は 30 名とする。				
【評価方法】	授業で予定される教科書の範囲を予習し、授業で学んだことを繰り返し練習する事が重要である。単位取得には、3分の2以上の課題、クイズの提出および TOEIC L&R IP テストの受験が必須である。 * 受講生は学期末に実施される TOEIC L&R IP を受験する事(3 年生以上は実費) * 学期末に実施される TOEIC L&R IP の代わりに、TOEC L&R 公開テストでも可能:受験料は実費				
【テキスト】	公式 TOEIC? Listening & Reading 問題集 11 (国際ビジネスコミュニケーション協会)				
【参考書】	公式 TOEIC Speaking & Writing ワークブック(国際ビジネスコミュニケーション協会)				
【備考】	毎回の予習及び課題提出が重要である。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	

【科目名】	自然科学概論		Science of Light		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	橋本 博				
【担当教員】	橋本 博、原 幸大、菱木麻美、淵上壮太郎、轟木堅一郎、兒島憲二、古庄 仰、近藤 啓、照喜名孝之				
【授業目標】	現代は科学技術の時代である。この科学技術の中核を担う物理学、化学そして生物学は、西洋世界でどのような経緯で生まれ、発展してきたのだろうか。この自然科学の発展に伴い、我々の自然観、科学観も大きく変質してきている。また、現代のイノベーションを推進する巨大科学とプロジェクト科学、および環境との共生を目指す視点が求められている。さらに、エセ科学の蔓延などの問題も抱えており、生命観、宗教観および倫理観までの波及を思考することが求められている。これらの問題意識をもって、西洋 2000 年の通史を俯瞰し、最新の科学と技術も				
【授業概要】	大まかに次の4主題に別けて概説する。 1. 自然科学通史(自然哲学から近代科学へ、科学倫理) 2. 光と物質(光とは何か、量子化学の誕生、原子・分子が見える) 3. 「はかる」の科学 4. 環境、健康科学での科学技術の展開				
【授業方法】	配布するプリントを使用したオムニバス講義を行う。演習形式も取り入れた形成評価も実施して学習効果を計る。対面授業を予定しているが、状況に応じて遠隔講義となる可能性もある。				
【授業展開】	()内はキーワード 1. 科学史 2. 科学論文 3. 科学技術と科学者の役割 4. 光の科学史 5. 波動の性質 6. 計算科学の発展 7. 分析科学とは(分析技術の進歩、これから目指すもの) 8. 臨床と分析科学(画像診断、診断キット、遺伝子診断など) 9. 食品と分析科学(食品分析、機能性表示食品、残留農薬分析など) 10. 裁判と分析科学(科学鑑定、DNA 鑑定、薬物鑑定、ドーピング検査など) 11. 環境と分析化学(環境分析、年代測定、放射線測定など) 12. 先端技術と倫理(1) 13. 先端技術と倫理(2) 14. AI と生命倫理 15. まとめ(現代科学技術の問題点など)				
【履修条件】	理(医療)系の学生を主な対象としているが、文系の学生にも分かり易く説明し、数式などはあまり使わない。				
【評価方法】	授業への取り組み、課題、レポートなどの総合評価。				
【テキスト】	なし(必要に応じてプリントを配布)。				
【参考書】	随時指定(図書館に配備されているものを指示する)。				
【備考】	・講義ごとに演習、レポート作成を課すので、遅刻などは厳禁である。全講義回数の 3 分の 2 以上の出席を単位認定のための必要条件とする。薬学部の生命物理化学分野、生体機能分子分析学分野、創剤科学分野の構成教員が分担する。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、企業の研究開発業務で考慮されている倫理観を交え、科学・技術の進展と生命倫理について解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。				
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】	聴講可	【交換留学生】	聴講可

【科目名】	化学入門	Introduction to Chemistry			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	眞鍋 敬				
【担当教員】	眞鍋 敬、濱島義隆、稲井 誠、大内仁志				
【授業目標】	21 世紀を豊かに生きるために、日常の生活をとりまく物質に関する入門的知識を養うとともに、エネルギー、環境、生命と化学のかかわりを地球規模で概観する。				
【授業概要】	我々の暮らしには化学が大きくかかわっていることを理解する。次いで、物質化学の基礎的知識を学習し、さらに衣、食、住、環境、エネルギー、生命にかかわる化学を概観する。高等学校で化学を学習していない学生にもわかりやすい授業を行う。 【薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【授業方法】	授業方法 対面で行う。				
【授業展開】	1 化学物質の基礎(物質の基本粒子としての原子とその種類、分子とイオン、化合物の分類) 2 生活の物質と化学-1(生活のなかの無機化合物、有機化合物、洗剤、染料) 3 生活の物質と化学-2(衛生用品と化粧品、香料、貴金属) 4 高分子化合物と生活物質-1(高分子化合物) 5 高分子化合物と生活物質-2(繊維、ゴム) 6 生命と物質-1(生命活動を支える基本的物質、タンパク質) 7 生命と物質-1(核酸、ビタミンとホルモン、医薬品) 8 食品と健康の化学-1(炭水化物、油脂) 9 食品と健康の化学-2(アミノ酸とタンパク質、食品の保存と食品添加物、ミネラル) 10 環境の化学-1(人間活動が自然環境におよぼす影響、酸性雨、窒素酸化物、二酸化炭素) 11 環境の化学-2(フロンとオゾン層) 12 環境の化学-3(化学物質、殺虫剤、農薬、環境ホルモン) 13 エネルギーの化学と環境-1(エネルギー資源、石油、石炭) 14 エネルギーの化学と環境-2(バイオマスと自然エネルギー、原子力、エネルギーと環境問題) 15 地球環境(人間活動と地球環境、地球温暖化)				
【履修条件】	【薬学部および食品栄養科学部の授業と一部重複するので、薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【評価方法】	原則として、定期試験 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する(特別な理由なくして5回以上欠席相当となったものは試験の受験資格なし)。				
【テキスト】					
【参考書】	「日常の化学 新訂版」-地球環境と生活様式の変革のために-、渡辺啓著、サイエンス社 その他、必要に応じ、担当教員から紹介する。				
【備考】	【薬学部および食品栄養科学部の授業と一部重複するので、薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【社会人聴講生】	聴講を認める。	【科目等履修生】	聴講を認める。	【交換留学生】	聴講を認める。

【科目名】	生物学入門	Introduction to Biology			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	浅井知浩				
【担当教員】	吉成浩一、*浅井知浩、梅本英司、竹内英之、高橋忠伸、大橋若奈、小出裕之、米澤 正、志津怜太、紅林佑希、疋田智也				
【授業目標】	教養としての基礎生物学全体を把握する。本講義を通して科学的なものの見方や考え方も学ぶ。				
【授業概要】	生物を理解するための基礎として、生態系、種、細胞から生物を構成する分子の基礎について講義する。生物の動的な側面である代謝、生物の設計図である遺伝子、生物としての安定性を担う恒常性(免疫を含む)について講義する。				
【授業方法】	講義形式で進める。				
【授業展開】	1 生物とは何か 2 生態系、種 3 細胞 4 生物の分子:アミノ酸、タンパク質、糖質 5 生物の分子:脂質、核酸 6 代謝:エネルギーと代謝 7 代謝:主要代謝経路 8 代謝:脂質・タンパク質の代謝、 9 遺伝:遺伝子の転写、翻訳、変異、修復、遺伝子疾患、がん 10 遺伝:遺伝子多型、個人差、個別化医療 11 恒常性:受容体の種類と細胞シグナル、受容体とホルモン 12 恒常性:シグナル伝達、細胞接着分子 13 恒常性:品質管理、遺伝子組換え動物 14 恒常性:免疫 15 まとめ				
【履修条件】					
【評価方法】	原則として、課題・レポート提出による評価を 100%とする。				
【テキスト】	必要に応じてプリントを配布する。				
【参考書】	参考書: (1) 新しい教養のための生物学(赤坂甲治著)裳華房 2017 年 (2) 生物科学入門:代謝・遺伝・恒常性 (白木賢太郎著)東京化学同人 2009 年 (3) ヒトを理解するための 生物学(八杉貞雄 著)裳華房 2013 年 (4) 若い読者のための第三のチンパンジー(ジャレド・ダイヤモンド著)草思社文庫 2017 年 (5) レーニンジャーの新生化学 第 7 版 上下 2015 年 廣川書店 (6) キャンベル・ファーレル生化学 第 6 版 2010 年 廣川書店 (7) 細胞の分子生物学 第 6 版				
【備考】	薬剤師業務や医薬品開発に携わった経験を持つ教員が、生体を構成する分子の働きや代謝に関連する医薬品や診断薬について発見の歴史、作用機序、臨床応用等について講義する。 単位取得には 2/3 以上の出席を必要とする。				
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	薬剤発達史入門		Introduction to history of the Drugs		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	*内田信也				
【担当教員】	*内田信也、石川智久、*伊藤邦彦、*尾上誠良、黒川洵子、*森本達也、*辻 大樹				
【授業目標】	文系・理系に関係なく、各専門領域を学ぶ際のモチベーションを高め、問題解決の糸口がつかめるようになるために、くすりや医療の発展におけるエピソードを通して難問に対する取り組み方を具体的に説明できる。				
【授業概要】	人類の繁栄に大きく貢献してきたくすりの発見や開発に関わってきた人々のひらめき、取り組み方、苦悩・挫折をナラティブに学ぶことで、学問に対するモチベーションを高めると共に、難問を解決するための前向きの姿勢や手法を修得する。 薬学部の教授陣が、文系の学生にも理解しやすいように難解な数式を使わず、平易に医薬品開発の歴史を説明する。				
【授業方法】	テキスト、パワーポイント、プリント等を用いて講義形式で進める。 基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。				
【授業展開】	1 ビタミン学のはじまり 2 生命現象解明へのアプローチ 3 視床下部ホルモンをめぐる闘争 4 ノーベルが欲しかった化合物 5 毒トカゲが糖尿病の救世主?! 6 生物における右と左の秘密 7 漢方薬から覚醒剤 8 ヤナギの小枝が痛みを止めた 9 結晶化された初めてのホルモン 10 毒ガスから生まれた制ガン剤、解明されたフグ毒の不思議 11 遺伝子の正体の解明、遺伝子治療へのアプローチ 12 最長の歴史を持つ医薬品、脳内にあったモルヒネ様物質 13 化学療法のはじまり 14 化学者が放った魔法の弾丸 15 まとめ				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	原則として、課題レポートに加えて、ミニレポートや出席態度等授業への取り組みを考慮して総合評価する。 全講義回数の 2/3 以上の(出席及びミニレポートの提出)が単位認定に必須である。				
【テキスト】	＜テキスト＞東京化学同人 化学のとびらシリーズ 27「歴史の中の化合物 くすりと医療の歩みをたどる 山崎幹夫著				
【参考書】	特になし				
【備考】	基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。 実務家としての経歴 *内田信也: 薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究と臨床研究の重要性を解説する *伊藤邦彦: 薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究の成果がどのように社会に貢献しているかを解説する *尾上誠良: 製薬企業の研究者としての経験を生かして、新薬開発のプロセスとその成果を解説する *森本達也: 医師としての臨床経験を生かして、基礎研究の成果がどのように社会に貢献しているかを解説する *辻 大樹: 薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究と臨床研究の重要性を解説する				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	物理学入門		Introduction to Physics		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	本同宏成				
【担当教員】	本同宏成、下山田真、村上和弥				
【授業目標】	力学、熱力学、電磁気学の身近な例を通じて、物理学におけるエネルギーの具体的なイメージを構築するとともに、古典物理学から現代物理学までを概説することで、自然科学の基礎としての物理学の重要性を理解する。				
【授業概要】	本講義では高校で物理学を履修していない学生に直感的に理解してもらえるよう、図や動画を用いて物理学の理解を目指す。身近な現象やデモンストレーション実験、演習問題などの具体的な例を通して、高校物理学程度の内容からかいつまんで学ぶ。				
【授業方法】	下記の内容に沿って講義を行う。また必要に応じて動画を用いたり簡単な模擬実験を行う。授業は対面で開講する予定であるが新型コロナ対策としてオンライン開講(Zoom)もしくはオンデマンドもありうる。				
【授業展開】	1 ガイダンス(物理学とは何だろうか) 2 ニュートン力学(身の回りの力学) 3 ニュートン力学(様々な力) 4 ニュートン力学(万有引力と宇宙開発) 5 仕事とエネルギー(エネルギー保存則) 6 仕事とエネルギー(エネルギーの様々な姿) 7 熱力学(熱とは何か) 8 熱力学(反応の方向を決める自由エネルギー) 9 電磁気(電場と磁場) 10 電磁気(電場と磁場と力) 11 波(波を構成する要素) 12 光の正体(光の波としての性質と粒子としての性質) 13 波と粒子(波と粒子の二重性) 14 量子力学(量子力学から見た生物物理) 15 まとめ				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	教員ごとに試験、課題もしくはレポート、および授業への取り組みにより評価する。なお特別な理由なく課題、レポートの提出が遅れた場合は受け取らない。100点満点中60点以上を合格とする。				
【テキスト】	視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録、数研出版				
【参考書】					
【備考】	食品栄養科学部および薬学部の授業と一部重複するので、食品栄養科学部および薬学部の学生は受講できない。また出席率が2/3に満たない場合は単位の認定を行わない。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	環境科学入門		Introduction to environmental sciences		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	谷 幸則				
【担当教員】	谷 幸則、*原 清敬、徳村雅弘、梅澤和寛				
【授業目標】	環境問題とは、人間活動に起因する周囲の環境変化により発生した問題と捉えることができる。人類は数百万年前に誕生して以来、自然環境を利用しながら文明を発展させてきた。すなわち、人類は原始的な狩猟採集生活から脱皮して農業生産を開始し、やがて天然資源を利用して工業生産を行うことにより、高い生産性と利便性を手に入れた。しかし、その過程で天然資源の浪費や自然環境の破壊など、自然環境に負担をかけてきたことも事実である。環境科学の役割は、具体的な環境問題の発生原因や発生機構を明らかにして、その解決策をさまざまな観点から				
【授業概要】	まず人間活動と環境との関わりについて概説した後、主として大気・水・土壌の汚染、化学物質や放射能による汚染、水・食品の安全性、ごみ・廃棄物の現状について説明する。また、環境化学物質の生物濃縮とその毒性、各種環境保全活動、エネルギー・資源問題(食料・水資源を含む)について解説する。				
【授業方法】	本授業では、環境問題全般を網羅し、平易に書かれた環境科学の入門書(テキスト)を使用し、食品栄養科学部・環境生命科学科の教員 5 名がそれぞれの専門に応じて分担する。				
【授業展開】	教科書を用いて、各章について下記の通りに講義を展開する。 1. 人間活動と環境とのかかわり(講義ガイダンスも兼ねる)(谷)(4/15) 2. 環境変化にともなう異変(梅澤)(4/22) 3. 大気汚染(梅澤)(4/30) 4. 水質汚染(梅澤)(5/13) 5. 化学物質汚染研究の基礎(谷)(5/20) 6. 土壌汚染(谷)(5/27) 7. 化学物質による汚染(谷)(6/7) 8. 放射能汚染(未定)(6/10) 9. 汚染物質の毒性と生体内での代謝(未定)(6/17) 10. 内分泌攪乱物質(未定)(6/24) 11. アセスメント手法(原)(7/1) 12. ごみと廃棄物(原)(7/8) 13. エネルギー資源と環境問題(原)(7/15) 14. 飲料水と食品のに関する今後の課題(徳村)(7/22) 15. 環境活動の実践と環境倫理(徳村)(7/29)				
【履修条件】					
【評価方法】	出席2/3 以上を単位認定の条件とする。各教員が提示した課題・レポートで評価する(担当教員 1 名につき各 20 点、合計 100 点満点で 60 点以上を合格とする)。				
【テキスト】	川合真一郎・張野宏也・山本義和著「環境科学入門 地球と人類の未来のために 第 2 版」、化学同人 ISBN 9784759819403(https://www.kagakudojin.co.jp/book/b345223.html)				
【参考書】					
【備考】	* 発酵企業での勤務経験を活かして企業における環境工学的取り組みについて講義する。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可(ただし、すべて日本語の講義である)

【科目名】	哲学入門	Introduction to philosophy	
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限
【科目責任者】	飯野勝己		
【担当教員】	飯野勝己		
【授業目標】	・哲学とは何か、何を問題にし、どのように考えてきた営みなのかについての理解を得ること。 ・哲学史の大きな流れをつかみ、その長い歴史でどのような思考が紡がれ、どんな世界観や人間観が形成されてきたかを知ること。 ・自分自身が感じる素朴な疑問や謎について、哲学ではどのような問題としてとらえられ、どのように考えられてきたかを知ること。 ・最も重要なこととして、哲学に触れることを通じ、〈あたりまえ〉を疑い、「自分自身の言葉でものごとを根本から考える」という姿勢を身に付けること。		
【授業概要】	「テツガクってちょっと魅力的だけど難しそう」——多くの人がそう思っている。実際、哲学書にはきわめて難解なものが多いのも事実だ。しかし一方で、哲学は非常に「身近」なものでもある。誰もが感じる素朴な疑問や不思議、子供のころからひそかに思ってきたさまざまな「なぜ?」、そういう身近で素朴なところから、哲学は始まる。「現実はもしかしたら夢かもしれない」「どうして他人に心があるといえるのか」「自分はなぜまさにこの自分なのか」といったことをなんとなく考えるとき、人はもう哲学を始めている。哲学が難しいのは、いろいろな「あたりまえ」を取り払って、こういう素朴な疑問にできるかぎり「素」の状態で取り組もうとする営みだからだ。 この授業は、そんな哲学の世界への入口へ、できるだけわかりやすく案内することを目的とする。 哲学への「入り方」には、大きく二つある。一つは、2000 年以上にわたる哲学史の中で哲学者たちが何をどう考えてきたのかを、大きな流れをつかみつつ知ること。もう一つは、上で述べたような個々の具体的な疑問やテーマから入ること。どちらも有効なアプローチだし、それぞれに面白さがある。とはいえこの授業では、哲学の入り口として、長い哲学史のなかで個性豊かな哲学者たちが繰り広げてきた思考のドラマをたどるのが、入門編としてまずは最良だと考える。人物像やエピソードの面白さや、奇妙だけれど魅惑的で、よく考えれば納得感もあったりするさまざまな世界観／世界像が、そこでたつぷりと味わえるからだ。 そこでこの授業はまず序盤で「哲学とは何か?」についていくつかの角度から紹介したあと、中盤から終盤にかけての大半を使い、哲学史を紹介・解説していく。さまざまな対立や紆余曲折を経ながらも、哲学的思考の流れは大きくうねりつつ継承され、現代までつながっている。そして最終盤では、現代哲学のさまざまな流派やそこで議論されているアクチュアルな問題を紹介し、現在進行形の哲学の姿を素描する。哲学は「古い学問では?」というイメージが強いかもしれないが、実際は現代社会のリアルな問題もさかんに議論されているのだ。 この授業を通して、〈あたりまえ〉をうのみにせず、自分自身の頭でものごとを考える姿勢をつかんでもらいたい。		
【授業方法】	対面授業で行う。毎回の授業資料は事前にユニパで配布するので、必ず確認して授業に持参すること(プリントを推奨するが、PC等での持参も認める)。またユニパでは毎回レスポンスペーパーのフォーマットも配布するので、感想・質問がある人はメール添付で提出すること。		
【授業展開】	1. ガイダンス——哲学と出会う、ということ 2. 哲学のさまざまな顔——多面体としての哲学、そして反哲学 3. 古代①: 哲学はいつ、どこで始まったのか?——哲学の3つの故郷 4. 古代②: ソクラテスの「愛知(ピローソ피아)」活動 5. 古代③: 哲学の基本形と可能性(1)——プラトン哲学 6. 古代④: 哲学の基本形と可能性(2)——アリストテレス哲学 7. 古代⑤: 後期古代哲学——ヘレニズム哲学と新プラトン主義 8. 中世: 中世哲学——信仰と哲学の一体化と相克、そして近代への胎動へ 9. 近代①: 近代哲学の出発点——デカルト哲学 10. 近代②: 大陸合理論の魅惑的な世界観——スピノザとライブニッツ 11. 近代③: 実は過激なイギリス経験論——ロックからヒュームへ 12. 近代④: 近代哲学最大の分水嶺——カント哲学 13. 近代⑤: 近代哲学の終着点——ドイツ観念論とヘーゲル 14. 現代①: 現代哲学への転換点——マルクス、ニーチェ、フロイトの「反哲学・反理性」 15. 現代②: 20 世紀～21 世紀哲学——哲学はいまも、これからも動き続ける		
【履修条件】			
【評価方法】	授業への取り組みと期末レポート。		
【テキスト】	特に指定しない。		

【参考書】	熊野純彦『西洋哲学史』(岩波新書) 伊藤邦武『物語 哲学の歴史』(中公新書) 飲茶『史上最強の哲学入門』(河出文庫) その他、適宜授業のなかで紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】	科目履修生履修可	【交換留学生】	交換留学生可

【科目名】	社会思想史入門		Introduction to history of socialthoughts		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	犬塚協太				
【担当教員】	犬塚協太				
【授業目標】	社会とは何か、人間は社会との関係をどう生きるべきか、社会の望ましい姿とはどのようなものか、といった社会に関するさまざまな知の営みとしての思想の流れをたどり、現代社会を生きる者として、社会への認識を深めることができるようになる。				
【授業概要】	主要な社会思想の流れをヨーロッパを中心に古代から現代までたどりつつ、その中心的な論点(たとえば「自由」「平等」「人権」「権力」「個人」「国家」「階級」「市民」「公共性」など)をめぐるさまざまな思想家の言説を取り上げながら考察する。とくに今日の我々の社会の原点となった「近代社会」以降の社会思想の展開に力点を置き、「近代社会」の自己認識の学としての社会学の視点から「現代社会」の抱える具体的な社会問題にも触れながら、思想史の流れを、今を生きる我々自身の問題として常に現在と未来に生かす視点を重視して概観する。				
【授業方法】	講義形式を中心とするが、思想史を現代の時事的な社会問題ともリンクさせるテーマを提起して、必要に応じて受講者との対話形式も取り入れる。				
【授業展開】	時代を追いながら、以下のようなトピックを論じていく予定であるが、内容は変更される可能性がある。 第 1 回：社会思想史とは何か。 第 2 回：古代ギリシアの社会思想～プラトン 第 3 回：古代ギリシアの社会思想～アリストテレス 第 4 回：古代末期の社会思想～ストア学派とヘレニズム、ヘブライズムの流れ 第 5 回：古代末期の社会思想～イエスの思想と原始キリスト教の意義 第 6 回：中世の社会思想～アウグスティヌスとキリスト教思想の深化 第 7 回：中世の社会思想～トマス・アキナスとキリスト教思想の展開 第 8 回：近代の社会思想～ルネサンスと政治・社会思想 第 9 回：近代の社会思想～宗教改革と近代社会・ルターとカルヴァン 第 10 回：近代の社会思想～近代と自然観の転換 第 11 回：近代の社会思想～社会契約思想の形成・ホッブズ 第 12 回：近代の社会思想～社会契約思想の展開Ⅰ・ロック 第 13 回：近代の社会思想～社会契約思想の展開Ⅱ・ルソー 第 14 回：近代の社会思想～経済と道徳・アダム・スミス 第 15 回：近代の社会思想～マルクスと社会主義思想				
【履修条件】	「人間と社会」の抱える問題に関心がある積極的な受講者を望む。				
【評価方法】	期末レポート(50%)と授業への取り組み(50%)。				
【テキスト】	・山脇直司『ヨーロッパ社会思想史 新版』、2024、東京大学出版会 ・この他の資料は、別途ユニバーサル・パスポートなどで提示する。				
【参考書】	必要に応じて、授業の中で適宜指示する。				
【備考】	資料の提示、補講情報、シラバスの修正等、ユニバーサル・パスポートを通じた教員からの連絡に常に注意すること。なお受講人数は、履修登録先着順で 30 名までとする。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	歴史学入門		Introduction to History	
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	金曜 1 限
【科目責任者】	栗田和典			
【担当教員】	栗田和典			
【授業目標】	1980 年代から半世紀あまりの歴史学の歴史(史学史)を概観し、どのような社会的背景やあたらしい考え方のもとに研究がなされ、成果をあげてきたかをさぐる。学生は歴史学の歴史を知ることによって、歴史研究の要点となる問い、史資料、テーマなどを考えるとともに、現在や自己を相対化する知的な営みを体験する。			
【授業概要】	いくつかの歴史学研究の傾向・潮流を具体的な事例にそくして紹介しながらすすめる。それらは「社会史」や「社会文化史」、あるいは、「あたらしい歴史学」などと呼ばれてきた。また、ミクロ・ストーリー(極小史)とグローバル史、歴史人口学、国制史やジェンダ史など、空間的なひろがり、研究の材料となる資料、他の研究・学問分野との関係からも、名称はさまざまである。こうした多様な成果について、おもに近世・近代の日本史やヨーロッパ史、とくにブリテン諸島史から紹介し、静岡県や静岡市、葵区や清水区などのローカルな話題もとりあげながら、いくつかの材料を提供する。受講者は指定した題材について家族、知人、友人にたいする聞き取りをおこない、それらを授業の資料として活用する。			
【授業方法】	基本的に講義形式をとるが、内容にかんするクイズや質問が出されるので、対話・やりとり・雑談のなかで進行する。また、調査結果のプレゼンテーションや本を紹介するビブリオバトル、歴史的なレシピをたためる歴メシランチなどを時間的に余裕があれば実施する。 なお、通常の授業形式はいわゆるハイブリッドかつハイフレックス方式であり、教室での対面授業とオンライン会議システムを同時に併用する。対面とオンラインのいずれによって参加するかは、その都度に学生が選択する。また、LMS (学習管理システム Learning Management System)による授業資料の配布と課題の提示と提出をおこなう。ただし、利用する LMS は Universal Passport ではなく、Google Classroom であるから注意されたい。			
【授業展開】	1 時代小説と歴史学 2 歴史的な問いと答え 3 データ・資料・証拠 4 歴史学でつかわれる概念 5 時間の感覚 6 グローバルな視点 7 地域からの視点 8 こころとからだ 9 地縁と血縁(社会的結合関係 1) 10 職能(社会的結合関係 2) 11 ビブリオバトル 12 比較と関係 13 「世の中が変わった」感覚 14 「伝統の発明・捏造」論 15 調査結果のプレゼンテーション			
【履修条件】	第 1 回目の講義を欠席した場合には、第 2 回目までにオフィスアワー(木曜 4 限、国際関係学部棟 5 階 3512 室またはオンライン)を利用して教員と面談する。内容の点では、歴史上の具体的な事例に言及するが、それを暗記する授業ではなく、歴史学の基本と現状の理解を目的とすることを了解しておく必要がある。			
【評価方法】	調査結果のプレゼンテーションをおこない、教員をふくむ参加者相互の評価によって 50%を決定する。50%は講義におけるやりとりと、家族・知人・友人にたいする調査の成果を教員が評価する。			
【テキスト】	指定しない。			
【参考書】	近藤和彦(編)『イギリス史研究入門』(2010 年)など、山川出版社の研究入門シリーズは、総説や導入の部分にきわめて重要な指摘がある。また、小田中直樹『歴史学のトリセツ——歴史の見方が変わるとき——』(筑摩書房:ちくまプリマー新書、2022 年)は軽妙な筆さばきで歴史学の現在を書いており、大学初年次の学生に適した参考文献である。			
【備考】				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】 不可

【科目名】	宗教学入門		Introduction to religion		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	佐藤清子				
【担当教員】	佐藤清子				
【授業目標】	●宗教がかかわる諸問題について知識を身に着ける ●宗教がかかわる諸問題について多角的な視点から考察できるようになる ●宗教がかかわる諸問題について自分の意見を論理的に表明できるようになる				
【授業概要】	現代日本の多くの大学生にとって、宗教はなじみのないものと感じられるかもしれない。だが、世界的に見れば宗教をもつ人は多数派であり、一見宗教とは何の関係もなさそうなところに宗教的なものが見いだされることもある。宗教がかかわる事件は近年も国内外で発生しており、宗教は現代社会に対しても大きな影響を与えていることが改めて明らかとなったといえよう。 授業では宗教学的な思考の基本を、学生にも積極的に参加してもらうアクティブラーニングの方法で紹介する。教科書として、大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理『基礎ゼミ 宗教学[第 2 版]』(世界思想社、2024 年)を用いる。授業での学習を通じて、宗教についての知識を得るとともに、宗教がかかわる問題を自分事としてとらえる視点を養ってほしい。 *教科書は 2024 年出版の第 2 版を使用する。版に注意して用意すること。				
【授業方法】	教科書は事前に一度読んでおき、簡単なワークを終えておくこと。授業では教科書の内容を説明し、その後ワークを踏まえたディスカッションを行う。				
【授業展開】	1 イントロダクション 2 第1章 「宗教」はどのようにイメージされるのか?——「信仰のない宗教」、宗教情報リテラシー、「宗教」概念(大谷栄一) 3 第2章 お寺や神社、教会はどういう場所なのか?——過疎、人口減少社会、ソーシャル・キャピタル(板井正斉) 4 第4章 なぜ成人式を行うのだろうか?——信仰、アイデンティティ、通過儀礼(相澤秀生) 5 第5章 お祭りにはどんな意味がある?——祭祀、祝祭、コミュニティ文化(藤本頼生) 6 第6章 巡礼者は何を求めて聖地に向かうのか?——聖地、世界遺産、真正性(碧海寿広) 7 第7章 いのちを教えることができるのか?——寛容の態度、宗教文化教育、道徳の教科化(川又俊則) 8 第8章 「女人禁制」はつづけるべきか?——霊山、ジェンダー、家父長制(小林奈央子) 9 第9章 「カルト問題」にどう向きあうか?——カルト、偽装勧誘、マインド・コントロール(塚田穂高) 10 第11章 ヴェールはなぜ問題となるのか?——オリエンタリズム、ポストコロニアル、フェミニズム(猪瀬優理) 11 第12章 日本社会は移民とどう向きあうのか?——入国管理法、多文化共生、エスニシティ(白波瀬達也) 12 第13章 なぜ墓参りをするのか?——先祖／祖先、葬後儀礼、両墓制(川又俊則) 13 第14章 戦没者をどこで追悼する?——靖国問題、「戦争の記憶」、コメモレイション(大谷栄一) 14 日本の無宗教を考える 15 全体のまとめ				
【履修条件】	授業はすべて教室で対面にて実施する				
【評価方法】	平常点(予習状況、ディスカッションへの参加) 60% 最終レポート 40%				
【テキスト】	大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理『基礎ゼミ 宗教学[第 2 版]』(世界思想社、2024 年) *教科書は 2024 年出版の第 2 版を使用する。版に注意して用意すること。				
【参考書】	授業中適宜指示する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	

【科目名】	社会学入門		Introduction to Sociology		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	石井由香				
【担当教員】	石井由香				
【授業目標】	現代社会に関する理解を深めるために、社会学の基本的な理論および分析枠組みを、実際の事象や身近な出来事に引きつけながら身につける。				
【授業概要】	社会とは何だろうか。また、私たちが生きているのはどのような社会なのだろうか。人と人、人と集団、集団と集団の間のさまざまな関係をどう理解して行動していったらよいのか。本講義では社会をとらえる学としての社会学の基礎を学び、階層・階級、教育と学歴、ジェンダー、高齢化、グローバリゼーションといったテーマについて具体的に考えることで、こうした問いへの手がかりを得ることを目指したい。				
【授業方法】	講義形式。視聴覚教材(DVD 等)も用いる。				
【授業展開】	1. オリエンテーション—社会学の考え方 2. 社会学の歴史(1)—社会学のあゆみ 3. 社会学の歴史(2)—社会学の基本概念 4. 社会階層と格差(1)—階級と階層 5. 社会階層と格差(2)—不平等と社会 6. 教育と学歴(1)—学歴社会化の進行 7. 教育と学歴(2)—学歴社会への関心の変化 8. ジェンダーと社会(1)—「女らしさ」と「男らしさ」の問い直し 9. ジェンダーと社会(2)—「セクシュアリティ」を考える 10. 高齢化と福祉(1)—なぜ高齢化するのか 11. 高齢化と福祉(2)—介護と家族 12. グローバリゼーションと社会(1)—グローバリゼーションとはなにか 13. グローバリゼーションと社会(2)—ナショナリズム・エスニシティへの影響 14. グローバリゼーションと社会(3)—多様性を認める社会とは 15. おわりに—まとめと今後の展望				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	中間レポート(40%)、期末レポート(60%)				
【テキスト】	なし				
【参考書】	初回講義時に参考文献リストを配布。また講義時に随時紹介する。				
【備考】	特になし				
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	国際関係学入門		Introduction to international relations		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	坂巻 静佳				
【担当教員】	飯野光浩、石川義道、北野嘉章、小窪千早、小塚英治、坂巻静佳、佐藤真千子、浜由樹子、前山亮吉、宮崎晋生、森山優、山下光、山本健介				
【授業目標】	国際社会の動向を総合的に把握するための視野を養うと同時に、複数の学問領域にまたがる国際関係学という学問についての理解を深める。				
【授業概要】	東西冷戦を主軸とした 20 世紀後半の国際秩序が崩壊して以来、新しい世界秩序の模索が続いてきた。経済のグローバル化が進行し、欧州等において国際統合の拡大、深化が追求される一方、テロリズムや大量破壊兵器の拡散が国際安全保障の焦点として浮上し、また環境、貧困、疾病、エネルギー等に関する問題が全地球的な課題として捉えられるようになっている。 こうした国際社会の動向を理解するためには複眼的な視野が必要とされる。本科目では国際政治、国際経済、国際法等の視点から国際関係の実態に接近し、国際関係学への導入とする。				
【授業方法】	国際関係学部国際関係学科の政治学系、経済学系、法学系の教員が各自の専門領域に関わる国際関係の基本的争点について講義する。 原則として対面で実施するが、Zoom(同時双方向)で実施する場合がある。				
【授業展開】	今年度の授業予定表(各回の担当者と講義題目を記したもの)を初回に配布する。 過去の講義題目の例を挙げれば以下の通りである。 「国際法から世界をみる」 「開発協力白書から見える日本の ODA 政策」 「昭和戦前期 日本の政策決定システムについて」 「欧州統合の歴史と課題」 「国際経済法入門」 「国際連合における意思決定方式」 「現代中東と国際政治:イスラーム復興のうねり」 「国際平和協力と国際政治」 「アメリカ政治入門」 「プラットフォーム多国籍企業と国際関係」 「国際政治と歴史—ロシア・ウクライナ戦争の一側面」 「比較政治と日本政治」				
【履修条件】	原則として対面で実施するが、Zoom(同時双方向)で実施する場合があるため、Zoom で講義を受けられるように準備しておくこと。 また、小テストは Universal Passport や Google Form を通じて実施する場合があるため、いずれも利用できるようにしておくこと。				
【評価方法】	各回の小テスト等の合計点による。 各回の小テストの方式は講師により異なるので、Universal Passport を通じた連絡及び授業中の指示に注意すること。 また、小テストは Universal Passport や Google Form を通じて実施する場合がある。				
【テキスト】	特になし。 資料等のある場合は、Universal Passport を通じて担当回の講師より連絡があるため、Universal Passport を通じた連絡に注意すること。				
【参考書】	各回の担当者が適宜紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	受入可。 ただし、Zoom で講義を実施する場合があるため、Zoom を利用できるようになっておくこと。 また、小テストは Universal Passport 等を通じて実施する場合があるため、利用できるようにしておくこと。	【科目等履修生】	受入可。 ただし、Zoom で講義を実施する場合があるため、Zoom を利用できるようになっておくこと。 また、小テストは Universal Passport 等を通じて実施する場合があるため、利用できるようにしておくこと。	【交換留学生】	

【科目名】	文化人類学入門	Introduction to cultural anthropology			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	金明美				
【担当教員】	金明美				
【授業目標】	本講義では、近代に「未開」社会の研究として出発し、植民地主義の落とし子と批判を受けつつも、異文化理解の学問として発展してきた文化人類学の学説史を追うことで、安易な異文化理解に陥らないために必要な異文化理解の方法を考えます。				
【授業概要】	文化人類学に特徴的なのは、参与観察やエスノグラフィーというフィールドワークの調査や記述の方法です。現在では、様々な分野で応用されていますが、文化人類学においては、自らが慣れ親しむ「日常」を離れ、現場（フィールド）へと向かい、そこでの経験や他者からの学びを通して、様々な社会や文化の内在的な理解を目指すということを最も重視しています。 この方法は、グローバル化や情報化が進展する一方、コミュニケーション上の諸問題が世界各地で生じている現在、異文化理解の方法として、その重要性が一層増していると考えられます。しかし、文化人類学の歴史は、異文化理解という肯定的な面だけではありませんでした。植民地主義をはじめ支配／被支配の問題と少なからず関係してきた部分があり、そうした面の克服も学問的な課題として取り組んできました。よって文化人類学の学説史を知ることで、現在の世界各地で起こっている様々な争いや葛藤等を理解する上での重要なヒントを得られるといえるでしょう。 本講義では、近代に「未開」社会の研究として出発し、植民地主義の落とし子と批判を受けつつも、異文化理解の学問として発展してきた文化人類学の学説史を追うことで、安易な異文化理解に陥らないために必要な異文化理解の方法を考えます。 ところで、学説史とは、学問としての文化人類学がとる方法論上の理論的根拠についての議論の歴史です。理論的な話ですから難易な部分もありますが、それらの理論は特定の社会や文化についての日常的な参与観察から立ち上がったものでもあります。よって、理論的な話も、そうしたことを踏まえて理解を進めると、必ずしも難しいものではありません。教科書もそのような観点から書かれています。とはいえ、教科書の内容は一読してすぐ分かるようなものではありません。初学者にとり難しい部分がありますので、授業では、毎回取り上げる章の中で重要な部分を中心に、それらをなるべく噛み下いた形で解説します。講義を受講し、自ら考え、予習・復習をきちんと行えば、教科書の内容を把握することが可能になるでしょう。 ぜひ文化人類学という学問(これも一つのフィールド！)の世界に足を踏み入れてみてください。				
【授業方法】	基本的には教科書の章立て順に授業を進める(但し、受講人数や進み具合によって授業展開の予定を変更することもありうる)。関連映像を利用し、またパワーポイントも使用する。対面授業を予定しているが、対面授業を避けた方がよいと判断される場合は遠隔講義(オンデマンド型と同時双方向型の組み合わせ、授業資料提示や課題提出はユニバを利用)を行う。				
【授業展開】	第1回 ガイダンス、文化人類学を学ぶために 第2回 文化人類学とはどのような学問か？ 第3回 進化主義と伝播主義 第4回 近代人類学の夜明け(1)マリノフスキーをめぐる 第5回 第4回の続き、ビデオ視聴 第6回 近代人類学の夜明け(2)ラドクリフ＝ブラウン 第7回 第6回の続き 第8回 アメリカ文化人類学の出発：ボアズとその弟子たち 第9回 第8回の続き 第10回 構造主義以前の文化人類学 第11回 構造主義の系譜 第12回 第11回の続き 第13回 構造主義と文化相対主義 第14回 第13回の続き 第15回 まとめ、ビデオ視聴など				
【履修条件】	集中講義(後期)の期間中の出席が可能な人				
【評価方法】	毎回の講義内容に関する小レポート				
【テキスト】	原尻英樹『文化人類学の方法と歴史』(新装版)2015 年、新幹社、2,200 円＋税、(ISBN)978-4-88400-113-1(ネット上の書店や大学内の書店等で購入してください)				
【参考書】	奥野克巳『はじめての人類学』、2023 年、講談社、900 円＋税、(ISBN)978-4-06-532857-6				
【備考】					
【社会人聴講生】	可(但し、授業実施形態の変更によって不可になる場合がある)	【科目等履修生】	可(但し、授業実施形態の変更によって不可になる場合がある)	【交換留学生】	

【科目名】	公共政策入門	Introduction to public policy			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	藤本健太郎*				
【担当教員】	藤本健太郎*				
【授業目標】	私たちの生活には、病気やケガ、失業、職場での事故、高齢になって要介護状態になることなど多くのリスクがあります。 個人ではうまく備えることのできない生活上のリスクに対応するのが社会保障と労働法です。しかし、制度が分かりにくいと考えている人が多く、給付やサポートが受けられるのに申請していないケースも少なくないと思われます。 社会に出て働く前に知っておいてほしい社会保障と労働法の基本的な知識について分かりやすく解説することがこの講義の目標です。				
【授業概要】	社会保障とはどのようなリスクに備えているのか、税と社会保険料はどのように違うのかなどを解説します。社会保障には多くの制度がありますが、中でも規模が大きく生活に直結する年金、医療保険、介護保険、社会福祉について概要と課題を説明します。 雇用されて働く人を守る仕組みである労働法について、労働基準法、労働契約法などの基本的事項について解説します。				
【授業方法】	対面による講義を基本とします。ズームによる講義を行う場合もあります。 教科書に基づいて講義を進めますが、配布資料も用意します。				
【授業展開】	1オリエンテーション～困ったときにどんな助けが得られるのか 2社会保障と労働法とはどのような仕組みなのか 3年金の仕組み～定年などで働けなくなったとき 4医療保険の仕組み～病気やケガをしてお金がかかるとき 5介護保険の仕組み～年をとって体が不自由になったとき 6社会福祉と生活保護～子どもや障害者、貧しい人などを支える仕組み 7働く人を守る仕組み① 8外部講師 9働く人を守る仕組み② 10 育児や介護と仕事の両立支援 11 少子化対策～子どもが生まれたとき 12 ケーススタディ～困ったとき、どのような給付や支援を申請できるのか 13 これからの社会保障 14 まとめ 15 期末レポート ※外部講師との日程調整などによって変更になる場合があります				
【履修条件】	特に無し				
【評価方法】	レポート等 30%、期末試験 70%				
【テキスト】	「働く人のための社会保障入門」(藤本健太郎、藤本真理、玉川淳著)ミネルヴァ書房(2023 年)				
【参考書】	「人口減少を乗り越える」(藤本健太郎著)法律文化社(2018 年)				
【備考】	厚生労働省、内閣官房、在ドイツ日本国大使館に勤務経験のある教員が実務経験も踏まえて講義を行う。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	心理学入門	Introduction to psychology			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	西田公昭				
【担当教員】	西田公昭				
【授業目標】	さまざまな心理学の研究から現代社会における人々の生活を説明する。何気なく過ごす日常生活を中心に心理学的に分析し思考力を養うことを目的とする。				
【授業概要】	現代心理学について、体系的に概観する。その上で、各自が日常的に経験する出来事を、心理学的に分析し、理論的に検討する。				
【授業方法】	講義形式で進める				
【授業展開】	1 心理学の体系：現代心理学の世界をひとめぐりし、生活と心理学との関係を概説する 2 知覚1：心理的現実とは何か 3 知覚2：外界を認知する仕組み 4 学習心理学1：3つの基礎的理論 5 学習心理学2：ヒトは経験をどのようにとらえるのか 6 発達心理学：生涯発達の理論 7 認知心理学1：意識と記憶 8 認知心理学2：記憶の構造 9 認知心理学3：思考と行動 10 感情心理学1：動機づけ：喜怒哀楽や愛のしきみをさぐる、友人や恋人関係への発展メカニズム 11 感情心理学2：情動（恋愛を中心に） 12 感情心理学3：ストレス 13 心理査定：知能や性格を測るには？ 14 社会心理学1：社会的な現実と状況の力 15 社会心理学2：マインド・コントロール現象の心理学的理解				
【履修条件】	心理学を積極的に勉強する意欲のある者に限る。				
【評価方法】	リアクション課題（毎回）				
【テキスト】					
【参考書】	授業時に指示				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	

【科目名】	生涯発達心理入門		Introduction to life developmentpsychology		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	簗宗一				
【担当教員】	*簗宗一、*近藤美保、*小泉祐貴、*佐藤浩一、非常勤講師				
【授業目標】	【授業目的】人の心のあり方と行動は密接に関係している。ライフステージごとの心理的特徴について理解する。大学生にとっての「生きる」意味を考察する。 【到達目標】 1.心とはなにか、また心の動きがどのように行動と結びつくのかについて考える。 2.大学生にとって健康的な生活を送る基本的な知識を得る。				
【授業概要】	「心の各発達段階における特徴や課題」「ストレスが心の健康に及ぼす影響」「ストレスへの対処及びリラクゼーション」等について広く学ぶ。さらに、様々な障害を有する当事者または家族からの体験談を聞いたり、身体的・心理的支援を行うスタッフの講義を通じて、受講生が生きる意味を考えたり、健康的な大学生活を過ごせるための学びの機会を提供する。また、レポートでは自らを振り返る「自分史」づくりの機会を提供する。				
【授業方法】	講義・グループディスカッション・課題学習・演習等、学生が参加できる方法を併用して行う。				
【授業展開】	1. 生涯発達心理の概要・自分史づくりのガイド他（簗） 2. 発達段階別の特徴と課題Ⅰ（簗） 3. 発達段階別の特徴と課題Ⅱ（簗） 4. 発達段階別の特徴と課題Ⅲ（簗） 5. 発達段階別の特徴と課題Ⅳ（佐藤） 6. 高次機能障害者の家族の心理（非常勤講師・近藤） 7. 性同一性障害の体験（非常勤講師・小泉） 8. 喫煙・飲酒について（非常勤講師・小泉） 9. 心理カウンセラーについて（非常勤講師・簗） 10. ストレスについて（小泉） 11. 感情労働について（佐藤） 12. ストレス・コーピングについて（佐藤） 13. リラクゼーションについて（近藤） 14. リラクゼーション演習（近藤） 15. まとめ 講義予定、担当講師は変更する可能性がある。				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 出席状況・課題作成(30%)・レポート等(70%)により、総合的に評価する。				
【テキスト】	特になし				
【参考書】	適宜、授業の中で紹介する。				
【備考】	*メンタルヘルスにかかわる保健師・看護師・心理職等が、その経験を活かして講義を行う。 看護学生の受講も可能だが、内容の重複が一部ある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	知的財産管理入門		Introduction to Intellectual PropertyManagement		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	*居藤 洋之				
【担当教員】	*居藤 洋之				
【授業目標】	知的財産管理で必要とされる基礎知識および基礎技能を習得することを目標とする。				
【授業概要】	到達目標 1. ・知的財産管理の社会的意義を説明できる。 ・特許制度の目的、保護対象、特許要件を説明できる。 2. ・特許出願から登録までの流れ、特許権発生後の管理、特許権取得の得失について説明できる。 3. ・実用新案権制度の目的および特徴の特許制度との相違の観点から説明できる。 ・意匠制度の目的、保護対象、登録要件を説明できる。 4. ・意匠権発生後の管理、および不競法および著作権法に対するデザイン保護の相違点を説明できる。 ・商標法制度の目的、保護対象、登録要件、商標権発生後の管理、および不競法での保護との相違点を説明できる。 5. ・知的財産権に関する条約について説明できる。 ・パリ条約、特許協力条約(PCT)、マドリッドプロトコル、ヘーグ協定、ベルヌ条約について説明できる。 ・著作権法の目的、保護対象、著作者について説明できる。 6. ・著作者人格権、著作財産権、著作権の保護期間、著作権の移転と利用、効力、著作隣接権について説明できる。 7. 知的財産権に関するその他の法律である不正競争防止法、民法、独占禁止法、種苗法、弁理士法の概略を説明できる。				
【授業方法】	パワーポイントによるスライド形式のレジュメに従って講義形式で行う。				
【授業展開】	1. ・イントロダクション: 知的財産・産業財産権とは、知的財産を保護する必要性と法体系 ・特許法①: 目的、保護対象、特許要件 2. ・特許法②: 特許出願の手続き、特許権の活用と管理、特許権の侵害と救済、特許取得の得失 3. ・実用新案法: 特許法の相違 ・意匠法①: 目的、保護対象、登録要件、意匠登録を受けるための手続き 4. ・意匠法②: 意匠権の管理と活用、意匠権の侵害と救済 ・商標法: 目的、保護対象、登録要件、商標登録を受けるための手続き、商標権の管理と活用、商標権の侵害と救済 5. ・知的財産に関する条約: パリ条約、特許協力条約(PCT)、その他の条約 ・著作権法①: 目的、著作物とは、著作者とは 6. ・著作権法②: 著作者人格権、著作財産権、著作権の制限、著作隣接権、著作権の侵害と救済 7. ・知的財産に関するその他の法律: 不正競争防止法、民法、独占禁止法、種苗法、弁理士法				
【履修条件】					
【評価方法】	出席状況及び試験(課題レポート)により総合評価。				
【テキスト】	講師自作のパワーポイントによるスライド形式レジュメ				
【参考書】	知的財産管理技能検定3級公式テキスト(知的財産教育協会編)				
【備考】	特許や商標、著作権などの知的財産権に関する知識はビジネス常識です。 高度に設計された知的財産権制度のシステムを、現役の弁理士が実際の実務や多数の実例を紹介しながら分かり易く講義を進めていきます。 本講義により広大な知的財産権の世界を一通り学ぶことができます。 国家検定「知的財産管理技能検定」受験希望者には特に受講を推奨します。 社会人聴講生の聴講を認めます。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可 受入条件: 知的財産権に興味のある方	【科目等履修生】	科目等履修生履修可 受入条件: 知的財産権に興味のある方	【交換留学生】	

【科目名】	国際安全保障入門Ⅰ	Introduction to International SecurityⅠ			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	西 恭之				
【担当教員】	西 恭之				
【授業目標】	国際安全保障の基本的な概念を理解し議論することによって、批判的思考力と論理的表現力を養い、自由な社会を維持するための教養を身につける。				
【授業概要】	国際政治の手段としての軍事力および軍事力の政治的統制に関する概念が、どのように形成され、使われてきたのかを概観する。				
【授業方法】	対面授業。国際安全保障研究の基礎となっている文献を読みこなす。英語文献も、効率的に読む方法を指導したうえで講読する。レポート(英文も可)の書き方を指導する。				
【授業展開】	第 1 回(4/15) 授業の説明 第 2 回(4/22) 国際政治の無政府状態(アナーキー)(1) 第 3 回(4/30(水)) 国際政治の無政府状態(アナーキー)(2) 第 4 回(5/13) 強制 第 5 回(5/20) 抑止 第 6 回(5/27) 安全保障のジレンマ 第 7 回(6/3) 核兵器が国際政治にもたらした革命(1) 第 8 回(6/10) 核兵器が国際政治にもたらした革命(2) 第 9 回(6/17) ナショナリズムと戦争(1) 第 10 回(6/24) ナショナリズムと戦争(2) 第 11 回(7/1) 政軍関係 第 12 回(7/8) 同盟 第 13 回(7/15) 民主的平和論(1) 第 14 回(7/22) 民主的平和論(2) 第 15 回(7/29) 民主主義と戦争における勝利				
【履修条件】	高校世界史、とくに近現代史を復習しておくこと。英語力を伸ばす意欲があること。				
【評価方法】	レポート 55%、文献に関する報告 20%、議論への参加 25%				
【テキスト】	ウォルツ『人間・国家・戦争』勁草書房 シェリング『軍備と影響力』勁草書房 クラウゼヴィッツ『戦争論 縮訳版』日本経済新聞出版 その他配布する。				
【参考書】	授業中紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	国際安全保障入門Ⅱ	Introduction to International SecurityⅡ			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	西 恭之				
【担当教員】	西 恭之				
【授業目標】	国際安全保障に関する倫理的主張を理解し議論することによって、批判的思考力と論理的表現力を養い、自由な社会を維持するための教養を身につける。				
【授業概要】	政治的共同体による武力の行使の理由と方法が、どのように正当化され、批判されてきたのかを概観する。				
【授業方法】	対面授業。正戦論とその批判の基礎的文献を読み、議論する。英語文献も、効率的に読む方法を指導したうえで講読する。レポート(英文も可)の書き方を指導する。				
【授業展開】	第 1 回(10/7) 授業の説明 第 2 回(10/14) 平和主義 第 3 回(10/21) リアリズムと倫理 第 4 回(10/28) 正戦論の起源(1) 第 5 回(11/11) 正戦論の起源(2) 第 6 回(11/18) イスラームにおける正戦 第 7 回(11/25) 戦ってよい戦争の条件 第 8 回(12/2) 先制攻撃と予防戦争 第 9 回(12/9) 正しい戦い方の条件 第 10 回(12/16) トロッコ問題 第 11 回(12/23) 暗殺 第 12 回(1/6) 最高度緊急事態 第 13 回(1/20) 核抑止 第 14 回(1/27) テロリズム 第 15 回(2/3) 人道的介入				
【履修条件】	高校世界史または高校倫理を復習しておくこと。英語力を伸ばす意欲があること。国際安全保障入門Ⅱは役立つが、履修条件ではない。				
【評価方法】	レポート 55%、文献に関する報告 20%、議論への参加 25%				
【テキスト】	ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』風行社 松元雅和『平和主義とは何か』中公新書 その他配布する。				
【参考書】	松森奈津子『野蛮から秩序へ』名古屋大学出版会 その他紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	くらしと化学 A	Chemistry in Daily Life A
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】 水曜 1 限
【科目責任者】	Hiromu Kondo	
【担当教員】	Kenji Watanabe, *Hiromu Kondo	
【授業目標】	Learn about chemistry as it relates to everyday life. Hearing, seeing, tasting, and touching all involve intricate series of chemical reactions and interactions in your body. With such an enormous range of topics, it is essential to know about chemistry a	
【授業概要】	Chemistry is a big part of your everyday life. You find chemistry in daily life in the foods you eat, the air you breathe, your soap, your emotions and literally every object you can see or touch. Here's a look at some everyday chemistry.	
【授業方法】	A lesson may range from a lecture to a demonstration.	
【授業展開】	1 What is chemistry? Chemicals are everywhere doing all sorts of useful stuff. From materials to detergents to lubricants to drugs, chemical technology has solved an astounding number of problems for humanity. 2 The basis of chemistry A pure substance, elements, compounds, and mixtures, categories of compounds, moles of compounds, the chemical bond, acid, basis and salts, the characteristics of solutions 3 Chemistry in your familiar phenomena Water and oil, dye, burning, dissolution, color, ferment and decay, seasoning, cooking 4 Green and Sustainable Chemistry, Ozone depletion, ozone hole formation, skin cancer, malignant melanoma, biodiversity and agriculture biology and chemistry are like two sides of the same coin. We can learn from one another while moving toward a sustainable society 5 Chemistry, a key player in keeping us healthy Chemotherapy, fertilizers, essential nutrients, genes, photosynthesis, functional food, 6 Chemistry in our comfort life Enzymes, battery, perfumes, ceramics, magnetorheological damper, gravitomagnetic field, etc 7 Chemistry opens a future full of hope Nano and biotechnology, humangenome, functional brain mapping,	
【履修条件】	Mainly, we intend for a student who did not study chemistry in a high school. Chemistry having learned already person does not need to take the class.	
【評価方法】	We evaluate it after considering the result of attendance and the report. 原則としてレポート 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 全講義回数の 2/3 以上の出席が単位認定に必須である。	
【テキスト】	なし。必要に応じて講義時に資料を配布する。	
【参考書】	必要に応じて適宜、講義内で紹介する。	
【備考】	・講義全体に関して専門性を出来るだけ低減した一般的な科学に関する講義を行う。これにより、多くの学生に対する広範囲な科学知識を教授する教養科目とする。 ・講義は原則、日本語で行う。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、実際の研究業務で活用している基礎的な化学について事例を交えて解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等になることもある。 ・くらしと化学 A とくらしと化学 B は同一の内容である。したがって、受講を希望する学生はくらしと化学 A またはくらしと化学 B のいずれかを受講すればよい。	
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】 受入可
		【交換留学生】 受入可

【科目名】	くらしと化学 B	Chemistry in Daily Life B
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】 水曜 1 限
【科目責任者】	Hiromu Kondo	
【担当教員】	Kenji Watanabe, *Hiromu Kondo	
【授業目標】	Learn about chemistry as it relates to everyday life. Hearing, seeing, tasting, and touching all involve intricate series of chemical reactions and interactions in your body. With such an enormous range of topics, it is essential to know about chemistry a	
【授業概要】	Chemistry is a big part of your everyday life. You find chemistry in daily life in the foods you eat, the air you breathe, your soap, your emotions and literally every object you can see or touch. Here's a look at some everyday chemistry.	
【授業方法】	A lesson may range from a lecture to a demonstration.	
【授業展開】	1 What is chemistry? Chemicals are everywhere doing all sorts of useful stuff. From materials to detergents to lubricants to drugs, chemical technology has solved an astounding number of problems for humanity. 2 The basis of chemistry A pure substance, elements, compounds, and mixtures, categories of compounds, moles of compounds, the chemical bond, acid, basis and salts, the characteristics of solutions 3 Chemistry in your familiar phenomena Water and oil, dye, burning, dissolution, color, ferment and decay, seasoning, cooking 4 Green and Sustainable Chemistry, Ozone depletion, ozone hole formation, skin cancer, malignant melanoma, biodiversity and agriculture biology and chemistry are like two sides of the same coin. We can learn from one another while moving toward a sustainable society 5 Chemistry, a key player in keeping us healthy Chemotherapy, fertilizers, essential nutrients, genes, photosynthesis, functional food 6 Chemistry in our comfort life Enzymes, battery, perfumes, ceramics, magnetorheological damper, gravitomagnetic field, etc 7 Chemistry opens a future full of hope Nano and biotechnology, humangenome, functional brain mapping,	
【履修条件】	Mainly, we intend for a student who did not study chemistry in a high school. Chemistry having learned already person does not need to take the class.	
【評価方法】	We evaluate it after considering the result of attendance and the report. 原則としてレポート 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 全講義回数の 2/3 以上の出席が単位認定に必須である。	
【テキスト】	なし。必要に応じて講義時に資料を配布する。	
【参考書】	必要に応じて適宜、講義内で紹介する。	
【備考】	・講義全体に関して専門性を出来るだけ低減した一般的な科学に関する講義を行う。これにより、多くの学生に対する広範囲な科学知識を教授する教養科目とする。 ・講義は原則、日本語で行う。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、実際の研究業務で利活用している基礎的な化学について事例を交えて解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等になることもある。 ・くらしと化学 A とくらしと化学 B は同一の内容である。したが、受講を希望する学生はくらしと化学 A またはくらしと化学 B のいずれかを受講すればよい。	
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】 受入可
		【交換留学生】 受入可

【科目名】	実用科学英語基礎編		Basic English Usage in NaturalSciences		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	太田敏郎				
【担当教員】	太田敏郎				
【授業目標】	理系・文系の区別なく科学的・専門的な内容の英文を正確に読解する力を養成するため、その基礎となる英文法の理解を深めることが主要な目標。それが結果として実践的な TOEIC 対策にもつながるので、TOEIC の効率的なスコアアップも副次的な目標(主に p5&6 対策)。				
【授業概要】	中高で習った英文法を真に受けている人も多いと思いますが、それが実は簡略版でしかなく、実用レベルでは通用しなかったり正確な理解の妨げになったりすることは意外と知られていません。そうした点を多くの具体例を挙げて解説し、大学受験の先にある研究・仕事や留学に活かせる実用版英文法への橋渡しをします。一方、共通テストで英文法問題が廃止された影響で文法理解を深めないまま入学してくる学生が増えているようなので、従来の学校英語の復習も強化しています。細部で辻褄が合わない学校英語の単なる学び直しではなく、改めてその問題点を認識し、さらには感覚ではなく自分の頭で考えて論理的に英文法を理解できるように解説します。英語と日本語を適切に比較することで難解な専門用語やネイティブ感覚に頼らずに英文法の要点を整理し、さらには日本語の理解も深められるような講義を目指しています。				
【授業方法】	対面授業が原則。授業時数の半数を超えない範囲で学生自ら調べ考える遠隔演習を実施(積極的に取り組む姿勢が重要)。 ※詳しいことは UNIPA 授業資料でご説明しますので、履修登録期間中にご確認ください。				
【授業展開】	1. ガイダンス: 講義予定、効率的な TOEIC 対策と推薦図書について 2. 桁が大きな数字の聞き取り: 簡単な秘訣を知るだけで大きく改善(軽くウォームアップ) 3-6. 学校英語の復習: TOEIC パート 5&6 対策も兼ねた文法解説 7-8. 前置詞・副詞: at, in, on の比較(使い分けの基準、特に日本人が間違いやすい on の深堀り) 9. 現在時制と現在進行: 「do=する、be doing=している」の問題点(日本語とのズレ) 10. 過去時制: 現在時制との共通点と相違点、仮定とは違う仮定法の本質 11. 現在完了: 現在・過去との対比でしか見えない本質、日本語に基づく整理法 12. 未来時制: 「will=つもり・だろう」説明の問題点、be going to の本質(will との役割分担) 13-14. 可算不可算: 「数えられるか否か」説明の問題点、数え方の和英比較、主語・動詞の単複一致を深掘り 15. まとめ ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細は UNIPA 授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	中高とは視点が異なる論理的な文法解説に興味がある人、英文法が好きな人や好きになりたい人を歓迎。理解度には個人差がつきものですが、個々のレベルに合わせて得られるものがあるはず。過去 3 年間の平均では受講者が約 90 名、うち文系が約 6 割で理系が約 4 割、1 年生が約 2/3 で 2~4 年生が約 1/3。参考までに、受講生からは「中高と違う説明で疑問解決/面白い/新鮮/迷ったが受講して良かった/英語の深いところまで学べた/英語の見方が変わった/留学にも実用的/英文法に悩んでいる人にオススメ/TOEIC 対策にもオススメ/塾講師と				
【評価方法】	成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には 3 分の 2 以上の出席が必要。				
【テキスト】	「TOEIC L&R テスト 英文法 出るとこだけ!」小石裕子 著 [アルク](他に、必要に応じてプリント等を適宜配布)				
【参考書】	UNIPA 授業資料で紹介予定				
【備考】	※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この実用科学英語基礎編:全年次対象(大学初~上級、TOEIC 初~中級) 学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説、TOEIC 対策:p5&6 コツ解説&演習と簡便な p2 演習 2. 基礎生命科学Ⅱ:主に 1~2 年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初~中級、TOEIC 初~中級) DUO 語彙演習:汎用性が高いテキストを使って英単語力を維持強化(単語力が低下した上級生も対象、TOEIC にも有効) VOA 英文和訳&英作文演習と個別的な文法解説:3~4 年次でも丁寧な和訳演習に取り組みたい人には受講を推奨 TOEICp2,p3&4 対策は任意受講の予定 (どの演習も基本的に前期の基礎生命科学Ⅰの継続) ※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 実用科学英語応用編:主に 2~4 年次対象(大学中級、TOEIC 中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的な文法解説、英文法深掘り解説、TOEICp1~4 即効テク解説、p2~4 熟練スキル演習&解説 4. 基礎生命科学Ⅰ:後期の基礎生命科学Ⅱの前半に相当				
【社会人聴講生】	可 (要相談)	【科目等履修生】	可 (要相談)	【交換留学生】	Possible (可)

【科目名】	実用科学英語応用編		Practical English Usage in NaturalSciences		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	太田敏郎				
【担当教員】	太田敏郎				
【授業目標】	科学的・専門的な内容の英文を正確に読解し、日常的な英会話を的確に聞き取るために必要な読解力(多読・速読力)、聞き取り力、実用的な文法力を養成することが第一の目標。そのための実践的な演習を通して、TOEIC スコアの向上につなげることが第二の目標(主に p1~4 対策)。				
【授業概要】	以下の点を重視して科学的な内容の英文記事の和訳演習と一般的な会話文・トーク文の聞き取り演習を実施 1. 読解力(多読・速読力):Google 翻訳や DeepL 翻訳などの Web ツールを活用する和訳演習&解説を通して、誤訳の見つけ方・発生原因・添削方法について学び、教師に頼らずに正確かつ効率的に英文を読解する力を養う 2. 聞き取り力:p2 の網羅的分析(特にヒネリ応答)や p3&4 の高度な先読み分析などの TOEIC 演習を通して、簡単に身につく即効テクだけでなく習得に時間がかかる熟練スキルを磨いて聞き取り力と会話力を養う 3. 実用的な文法力:読解&聞き取りの例文や TOEIC で出題される文法項目の解説を通して、学校英語(大学入試に特化した受験英語)の制約にしばられない英文を正確に分析するための視点を学ぶ(特に冠詞とp2 で頻出する仮定法[助動詞過去形と丁寧表現・敬語]を深掘り)				
【授業方法】	対面授業が原則。授業時数の半数を超えない範囲で PC を使う遠隔演習を実施(積極的に取り組む姿勢が重要)。※詳しいことは UNIPA 授業資料でご説明しますので、履修登録期間中にご確認ください。				
【授業展開】	1. イントロ:講義全体を通して必要な演習方法を説明(Web サイトの活用法やテキストの使い方など) 2-6. 科学的英文の和訳演習&解説 7-11. TOEIC パート 1~4 演習&解説(毎回少しずつ実施) 12-14. 実用上重要な文法項目の解説&演習など 15. まとめ ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細は UNIPA 授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	TOEIC を受験済みであることが望ましい(英語で会話できる留学生は受験歴がなくても受講可)。1 年生には TOEIC 初心者向けの基礎生命科学 I&II を強く推奨(英語力に自信があるなら自己責任でこの応用編を受講可)。理系・文系の区別なく本気で英語力の向上に取り組みたい人を歓迎。TOEIC 対策として受講する学生も多く、市販テキストの自習では得られない学びを提供。参考までに、受講生からは「和訳演習が新鮮で面白い/TOEIC 対策が実践的で良かった/TOEIC のコツや先読み予想が有益/新たな発見が多かった/成長を感じら				
【評価方法】	成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には 3 分の 2 以上の出席が必要。 スコア 800 点以上で TOEIC 演習を免除(テキストの購入も不要)。				
【テキスト】	「TOEIC L&R TEST パート 1・2 特急 難化対策ドリル」森田鉄也 著 [朝日新聞出版] 「TOEIC L&R TEST パート 3・4 特急 実力養成ドリル」神崎 正哉 / Daniel Warriner 著 [朝日新聞出版]				
【参考書】	ノーベル生理学・医学賞を受賞した研究者の業績を紹介するノーベル財団公式プレスリリースを教材として利用(文系学生でも理解できる一般向けの解説)				
【備考】	※前期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この実用科学英語応用編:主に 2~4 年次対象(大学中級、TOEIC 中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的な文法解説、英文法深掘り解説 TOEIC 対策:p1~4 即効テク解説、p2~4 熟練スキル演習&解説(主に p2 の網羅的分析と p3&4 の高度な先読み演習) 2. 基礎生命科学 I:主に 1~2 年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初~中級、TOEIC 初~中級) DUO 語彙演習:汎用性が高いテキストを使って英単語力を維持強化(単語力が低下した上級生も対象、TOEIC にも有効) VOA 英文和訳&英作文演習と個別的な文法解説:3~4 年次でも丁寧な和訳演習に取り組みたい人には受講を推奨 TOEIC 対策:p2 演習&解説(任意受講の予定) ※後期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 実用科学英語基礎編:全年次対象(大学初~上級、TOEIC 初~中級) 学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説、TOEIC 対策:p5&6 コツ解説&演習と簡便な p2 演習 4. 基礎生命科学 II:前期の基礎生命科学 I の継続				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	Possible (可)

【科目名】	基礎生命科学 I		Introduction to Life Sciences I		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	Toshiro Ohta(太田敏郎)				
【担当教員】	Toshiro Ohta(太田敏郎)				
【授業目標】	The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences. 網羅的な生命科学概論ではなく、生命科学(医学・食品栄養科学)分				
【授業概要】	Students will translate news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences into Japanese and back into English. In addition, important grammatical topics will be covered in detail. DUO, a general-purpose wordbook, will be used for vocabulary building. 1. 世界的な英語教材 Voice of America(略して VOA)生命科学記事の和訳演習:視覚的な構文解析と実用的な文法解説 2. VOA 英文を再現する英作文演習(VOA 聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集 DUO を用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能をペアワーク):前半(後半は基礎生命科学 II で) 4. 大学入学後に学ぶべき実用英語への導入として、可算不可算名詞(不定冠詞・無冠詞)と句動詞について文法解説 5. 学生からの要望が多い TOEIC 対策(任意受講の予定):前期は p2(後期に p2,p3&4)				
【授業方法】	対面授業が原則、授業時数の半数を超えない範囲で遠隔授業を実施(詳細は UNIPA 授業資料でご確認ください) ※DUO 演習は友人とペアワークすることで効果やモチベーションが向上(1 人で受講の場合は教員が相手を指定)				
【授業展開】	1. Course Introduction: Voice of America Learning English program 2-5. Eating White Rice Increases Risk of Diabetes 6-8. Vitamins: D and the Diet 9-11. Less Salt Can Mean More Life 12-14. Study Links Midlife Belly Fat to Higher Risk of Dementia 15. Course Summary DUO vocabulary exercises and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細は UNIPA 授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	Both natural science students and social science students can participate. 学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約 5 割、平均で約 2 割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の 1&2 年生で英語力不足を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生は DUO など一部の演習が環境科学英語 I と重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自				
【評価方法】	Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes. 成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には 3 分の 2 以上の出席が必要。				
【テキスト】	「DUO 3.0」鈴木陽一 著 [アイシーピー](全員購入必要)、VOA episodes and other materials will be handed out.				
【参考書】	UNIPA 授業資料で紹介予定				
【備考】	※前期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この基礎生命科学 I:主に 1~2 年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も受講可(大学初~中級、TOEIC 初~中級) DUO 語彙演習(TOEIC 対策にも有効)、VOA 和訳&英訳演習と個別的な文法解説、TOEICp2 演習&解説(任意受講の予定) 2. 実用科学英語応用編:主に 2~4 年次対象(大学中級、TOEIC 中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的な文法解説、英文法深掘り解説、TOEICp1~4 即効テク解説、p2~4 熟練スキル演習&解説 ※後期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 基礎生命科学 II:前期の基礎生命科学 I の継続 4. 実用科学英語基礎編:全年次対象、学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説(大学初~上級、TOEIC 初~中級) TOEIC 対策:p5&6 コツ解説&演習、簡便な p2 演習				
【社会人聴講生】	可 (要相談)	【科目等履修生】	可 (要相談)	【交換留学生】	Possible (可)

【科目名】	基礎生命科学Ⅱ		Introduction to Life SciencesⅡ		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	Toshiro Ohta(太田敏郎)				
【担当教員】	Toshiro Ohta(太田敏郎)				
【授業目標】	The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences. 網羅的な生命科学概論ではなく、生命科学(医学・食品栄養科学)分				
【授業概要】	Students will translate news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences into Japanese and back into English. In addition, important grammatical topics will be covered in detail. DUO, a general-purpose workbook, will be used for vocabulary building. 1. 世界的な英語教材 Voice of America(略して VOA)生命科学記事の和訳演習:視覚的な構文解析と実用的な文法解説 2. VOA 英文を再現する英作文演習(VOA 聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集 DUO を用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能をペアワーク):基礎生命科学Ⅰの後半部分 4. 大学入学後に学べき実用英語への導入として、冠詞(定冠詞・不定冠詞・無冠詞)・限定詞と句動詞について文法解説 5. 学生からの要望が多い TOEIC 対策(任意受講の予定):後期は p2,p3&4(前期に p2)				
【授業方法】	対面授業が原則、授業時数の半数を超えない範囲で遠隔授業を実施(詳細は UNIPA 授業資料でご確認ください) ※DUO 演習は友人とペアワークすることで効果やモチベーションが向上(1 人で受講の場合は教員が相手を指定)				
【授業展開】	1. Course Introduction: Voice of America Learning English program 2-5. Fat Cell Gene Linked to Colon Cancer 6-8. Long History, Unclear Future for 'Golden Rice' 9-11. Gut Bacteria: We Are What We Eat 12-14. Progress Made in Fight Against Ebola 15. Course Summary DUO vocabulary exercises and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細は UNIPA 授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	Both natural science students and social science students can participate. 学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約 5 割、平均で約 2 割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の 1&2 年生で英語力不足を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生は DUO など一部の演習が環境科学英語Ⅰと重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自				
【評価方法】	Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes. 成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には 3 分の 2 以上の出席が必要。				
【テキスト】	「DUO 3.0」鈴木陽一 著 [アイシーピー](全員購入必要)、VOA episodes and other materials will be handed out.				
【参考書】	UNIPA 授業資料で紹介予定				
【備考】	※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この基礎生命科学Ⅱ:主に 1~2 年次対象、大学英語の基礎、上級生も可(大学初~中級、TOEIC 初~中級、前期基生科Ⅰの継続) DUO 語彙演習(TOEIC 対策にも有効)、VOA 和訳&英訳演習と個別的な文法解説、TOEICp2,p3&4 演習(任意受講の予定) 2. 実用科学英語基礎編:全年次対象(大学初~上級、TOEIC 初~中級) 学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説、TOEIC 対策:p5&6 コツ解説&演習と簡便な p2 演習 ※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 基礎生命科学Ⅰ:後期の基礎生命科学Ⅱの前半に相当 4. 実用科学英語応用編:主に 2~4 年次対象(大学中級、TOEIC 中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的な文法解説、英文法深掘り解説、TOEICp1-4 即効テク解説、p2~4 熟練スキル演習&解説				
【社会人聴講生】	可(要相談)	【科目等履修生】	可(要相談)	【交換留学生】	Possible(可)

【科目名】	現代日本文化入門 A	Introduction to Japanese Culture A			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	ファイファー マティアス				
【担当教員】	Matthias PFEIFER				
【授業目標】	To understand the characteristics and images of the Japanese society through works of art. 映画、文学、漫画を通して近現代日本社会を理解する				
【授業概要】	この授業は外国人留学生も日本人の学部生も履修できる。 The course is designed for: 1.For short term foreign students, foreign exchange students, foreign research students of all faculties. 2.All other university students (foreign students, Japanese students) who want to talk about Japanese culture in English. In order to promote Japanese culture even among people with insufficient knowledge of the Japanese language, English, the lingua franca of our times, is an effective tool to do so. Therefore, it is important that Japanese people can explain their own culture in English, and this lecture is designed to serve this purpose.				
【授業方法】	この講義は英語と日本語で行うので英語に自信のない人でも歓迎する。 This lecture is given in English with the support of English/Japanese PowerPoint slides. There also will be opportunities for the participants to engage in discussions about Japanese culture. Furthermore, a presentation at the end of the course is another chance to talk about topics of ones choice.				
【授業展開】	① Course guidance and introduction (講義案内と概念) ② The structure of the self: Natsume Sō seki and the birth of modern Japanese literature (自己の構造: 夏目漱石と現代日本文学の誕生) ③ Search for the lost beauty of the past: Nagai Kafū and the age of militarism (失われた美の探求: 軍国主義の時代における永井荷風) ④ The Axis of Evil: West and East in "The Daughter of the Samurai" (悪の枢軸:『新しき土』における西洋と東洋) ⑤ Post-war decadence: Sakaguchi Ango and the Japanese culture discourse (戦後の堕落: 坂口安吾と日本人論) ⑥ Generation gaps in films by Ō zu Yasujiro' s.(小津の映画: 経済成長の裏における庶民の生活) ⑦ PowerPoint Presentation(パワーポイントプレゼン)				
【履修条件】	None 特にない				
【評価方法】	Final Exam 100% 期末試験 100%				
【テキスト】					
【参考書】	The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University press 2009)				
【備考】	Contact・相談:pfeifer39@u-shizuoka-ken.ac.jp				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】	交換留学が履修できる授業です。 Exchange students are welcomed.

【科目名】	現代日本文化入門 B	Introduction to Japanese Culture B			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	ファイファー マティアス				
【担当教員】	Matthias PFEIFER				
【授業目標】	映画、文学、漫画を通して近現代日本社会を理解する To understand the characteristics and images of the Japanese society through works of art.				
【授業概要】	この授業は外国人留学生も日本人の学部生も履修できる。 The course is designed for: 1.For short term foreign students, foreign exchange students, foreign research students of all faculties. 2.All other university students (foreign students, Japanese students) who want to talk about Japanese culture in English. In order to promote Japanese culture even among people with insufficient knowledge of the Japanese language, English, the lingua franca of our times, is an effective tool to do so. Therefore, it is important that Japanese people can explain their own culture in English, and this lecture is designed to serve this purpose.				
【授業方法】	この講義は英語と日本語で行うので英語に自信のない人でも歓迎する。 This lecture is given in English with the support of English/Japanese PowerPoint slides. There also will be opportunities for the participants to engage in discussions about Japanese culture. Furthermore, a presentation at the end of the course is another chance to talk about topics of ones choice.				
【授業展開】	1. War and guilt: the comic-author Mizuki Shigeru between war-experience and utopia.(戦争責任: 水木しげるの戦記漫画) 2. Revolution now!: Terrorism and students movement seen by the movie director Wakamatsu Kōji. (社会革命の夢: 若松孝二のサブカルチャ映画) 3. Images of modern family: Kazoku game (1983)(現代家族の風刺化:『家族ゲーム』) 4. Women in modern society: Autobiographical comics from Uchida Shungicu. (女性差別: 漫画家内田春菊の戦い) 5. The rise of cultural nationalism: The Comic-essayist Kobayashi Yoshinori (現代社会の右傾化: 小林よしのりと『戦争論』) 6. A symbol of pride or shame?: The controversial Yasukuni Shrine (恥の象徴なのか、それとも誇るべき象徴なのか: 靖国神社の論争) 7. Japan seen from the outside: "Lost in Translation" and "The Last Samurai" (外からみた日本:『ロスト・イン・トランスレーション』と『ラストサムライ』) 8. Movie (映画上映)				
【履修条件】	None 特にない				
【評価方法】	Final Exam・期末試験 100%				
【テキスト】					
【参考書】	The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University press 2009)				
【備考】					
【社会人聴講生】		【科目等履修生】	交換留学が履修できる授業です。 Exchange students are welcomed.	【交換留学生】	

【科目名】	経営分析入門 A		Introduction to business analysis A		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	UENO Takefumi(上野 雄史)				
【担当教員】	UENO Takefumi(上野 雄史), 竹下 誠 二 郎 (TAKESHITA Seijiro), カウクルアムアン アムナー (KHAOKHRUEAMUANG Amnaj)				
【授業目標】	This course introduces the fundamental concepts of business and financial analysis and equips students with the ability to make meaningful financial decisions . The course consists of four integrated parts: •Business analysis •Financial statement In				
【授業概要】	This course is designed to prepare students to interpret and analyze business structure effectively. It is designed primarily for students who are interested in how companies operate.				
【授業方法】	Readings, case studies and other materials are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and problems. Attending every class is important and required.				
【授業展開】	1.Introduction to course:What is business and financial statement analysis? (Pro. Ueno) 2.Basic concept of business analysis(Pro. Ueno) 3. Efficiently and profitability analysis (Pro. Ueno) 4. Basic concept of management and governance(Pro. Takeshita) 5. Management and Governance:Comparison among Japan, Europe and US (Pro. Takeshita) 6. Strategy(Pro. Takeshita) 7. Fundamentals concepts of tourism and tea tourism (Pro. Khaokhrueamuang) 8. Review (Pro. Ueno)				
【履修条件】					
【評価方法】	Student performance will consist of class participation, assignments, a final case analysis project and presentation, and a final exam. These will be evaluated with the following weights: •Class participation 10% •Assignments 20% •Final case analy				
【テキスト】	Selected readings and articles distributed in class and/or posted online				
【参考書】					
【備考】					
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	経営分析入門 B		Introduction to business analysis B		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	UENO Takefumi(上野 雄史)				
【担当教員】	UENO Takefumi(上野 雄史), 竹下 誠 二 郎 (TAKESHITA Seijiro), カウクルアムアン アムナー (KHAOKHRUEAMUANG Amnaj)				
【授業目標】	This course introduces the fundamental concepts of business and financial analysis and equips students with the ability to make meaningful financial decisions . The course consists of four integrated parts: •Business analysis •Financial statement				
【授業概要】	This course is designed to prepare students to interpret and analyze business structure effectively. It is designed primarily for students who are interested in how companies operate.				
【授業方法】	Readings, case studies and other materials are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and problems. Attending every class is important and required.				
【授業展開】	Introduction to Business Analysis B 1. Segment analysis(Pro. Ueno) 2. Stock price Analysis(Pro. Ueno) 3.Case study1 (Pro. Ueno) 4. Sustainable Tourism (Pro.Khaokhrueamuang) 5. Case study 2 (Pro.Khaokhrueamuang) 6.Governance and Internationalization (Pro. Takeshita) 7. Case study3(Pro. Takeshita) 8. Review (Pro. Ueno)				
【履修条件】	In order to take this course, students must have taken course of Introduction to business analysis A.				
【評価方法】	Student performance will consist of class participation, assignments, a final case analysis project and presentation, and a final exam. These will be evaluated with the following weights: •Class participation 10% •Assignments 20% •Final case analy				
【テキスト】	Selected readings and articles distributed in class and/or posted online				
【参考書】					
【備考】	In order to take this course, students must have taken course of Introduction to business analysis A.				
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	英語で学ぶ日本語学 I A	Introduction to Japanese Linguistics I A			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	木曜 2 限		
【科目責任者】	*Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	This course is an introduction to Japanese linguistics. Students will explore how the Japanese language works, focusing on its sounds and word formation. By analyzing real examples, primarily from Japanese, they will develop a basic understanding of language structure and consider both the universality and diversity of languages.				
【授業概要】	This course is divided into two main parts. First, students will read about key topics in Japanese sounds (phonetics and phonology) and word formation (morphology) to understand key notions and real-world examples. Then, they will actively discuss these topics in class.				
【授業方法】	Students will write a summary for each reading assignment in advance and discuss specific data for analysis and generalization in class.				
【授業展開】	1. Introduction 2. Phonetics: Consonants 3. Phonetics: Vowels 4. Phonetics: Suprasegmental features 5. Phonological rules 6. Mora vs. Syllable 7. Prosody (Take-home exam)				
【履修条件】	This course will be taught in English. Before each class, students need to read an article in English. Attending the first class is very important, as key information will be explained then. この科目は英語で学ぶ授業ですが、英語力の向上を目指す受講生も歓迎します。				
【評価方法】	Class participation (50%), Assignments & Presentation (30%)、Take-Home Exam (20%)				
【テキスト】	Readings are provided in class.				
【参考書】	Tsujimura, N., (2014). An Introduction to Japanese Linguistics 3rd Edition. Blackwell.				
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学 I B		Introduction to Japanese Linguistics I B		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	木曜 2 限	
【科目責任者】	*Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	This course is an introduction to Japanese linguistics. Students will explore how the Japanese language works, focusing on its sounds and word formation. By analyzing real examples, primarily from Japanese, they will develop a basic understanding of language structure and consider both the universality and diversity of languages.				
【授業概要】	This course is divided into two main parts. First, students will read about key topics in Japanese sounds (phonetics and phonology) and word formation (morphology) to understand key notions and real-world examples. Then, they will actively discuss these topics in class.				
【授業方法】	Students will write a summary for each reading assignment in advance and discuss specific data for analysis and generalization in class.				
【授業展開】	1. Morphology – Parts of speech 2. Morphology – Word formation 3. Issues in Japanese morphology 1: Transitive and intransitive verb pairs 4. Issues in Japanese morphology 2: Nominalization 5. Issues in Japanese morphology 3: Compounding 6. Acquisition issues in morphology 7. Acquisition issues in morpho-phonology 8. Review (Take-home exam)				
【履修条件】	This course will be taught in English. Before each class, students need to read an article in English. Attending the first class is very important, as key information will be explained then. この科目は英語で学ぶ授業ですが、英語力の向上を目指す受講生も歓迎します。 前期前半の科目からの続きとなるため、可能であれば「英語で学ぶ日本語学 IA」からの受講することをお勧めします。				
【評価方法】	Class participation (50%), assignments & short presentations (30%), Take-home exam (20%)				
【テキスト】	A reading list will be provided in class.				
【参考書】	Tsujimura, N., (2014). An Introduction to Japanese Linguistics 3rd Edition. Blackwell.				
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学ⅡA	Introduction to Japanese Linguistics ⅡA			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	In this course, we will focus on syntax, morphology, and semantics in Japanese. Students will be encouraged to acquire basic knowledge of Japanese linguistics and understand how to do linguistic research. This course is helpful for students who want to be				
【授業概要】	We will discuss several main issues in Japanese syntax, morphology, and semantics. Interesting phenomena will be explored from Japanese-and-English comparative perspectives.				
【授業方法】	集中講義(対面授業) パワーポイントの授業資料を用いながら、日本語の興味深い現象を英語と対照させながら考察して行く。				
【授業展開】	1. Syntax (3 weeks) Word Order Japanese Case-Marking System GA-NO Conversion 2. Syntax-Semantics (3 weeks) Argument Structure Scrambling Relative Clauses 3. Review and Summary				
【履修条件】	Students are required to attend every class and participate in class activities.				
【評価方法】	Class participation & summary report (40%) and Final Exam (60%)				
【テキスト】	Reading materials will be provided in class.				
【参考書】	Introduction to Japanese Linguistics Third Edition (Tsujimura, Blackwell) Handbook of Japanese Syntax (De Gruyter Mouton, 2018)				
【備考】	毎時間、講義の内容について質疑応答を行い、要点を整理します(英語・日本語)。 まとめ試験 1 回(In-class, 授業資料持ち込み可)(日本語・英語)				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学ⅡB	Introduction to Japanese Linguistics ⅡB			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	Noriko Yoshimura, Ph.D.				
【授業目標】	In this course, we will focus on discourse-pragmatics, language change, and language variation. Interesting phenomena in Japanese will be explored from Japanese-and-English comparative perspectives. This course will be helpful for those students who want				
【授業概要】	集中講義(対面授業) パワーポイント資料を用いながら、日本語の興味深い現象を英語と対照させながら考察して行く。				
【授業方法】	Students are required to participate in class discussion. (毎講義、授業内容について質疑応答を実施し、要点についてまとめ、内容の理解を目指す。)(英語・日本語)				
【授業展開】	1. Syntax-Semantics Interface (2 weeks) Passives-2 types Passives in Infinitives 2. Pragmatics (2 weeks) Tense & Aspect Structural Focus 3. Language Change and Dialectal Variations (2 weeks) Historical Changes-Old Japanese & Middle Japanese Synchronic Changes-Interesting Dialectal Phenomena 4. Review and Summar				
【履修条件】	Students are required to submit a summary report in English or Japanese and pass a final exam.				
【評価方法】	Class discussion & summary report (40%) and a final exam (60%) (授業資料持ち込み可)				
【テキスト】	Materials will be provided in class.				
【参考書】	An Introduction to Japanese Linguistics (Tsujiura, N. Blackwell, 2014). Handbook of Japanese Syntax (De Gruyter Mouton, 2017 年)				
【備考】	授業は原則として対面授業となります。				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 I A		Introduction to Language Learning and Acquisition I A		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	This course introduces undergraduate students to the field of foreign/second language learning and acquisition. To help students understand main issues in second language acquisition (SLA), we will discuss theoretical principles and empirical findings in				
【授業概要】	We explore the following questions: (1) What is Grammar –Modularity and Interface (2) How second language (L2) is different from first language (L1) (2) What roles L1 plays in SLA –Critical Period Hypothesis and Generative Grammar (3) What factors are responsible for Japanese-speaking learners' difficulties in acquiring L2 English (4) What is the nature of L1 transfer. We discuss the following topics: WH-questions, pied-piping versus preposition stranding, reflexive binding, and bound variable binding. Students will be encouraged to apply their SLA knowledge to the practical aspects of the teaching of English or Japanese as a foreign language.				
【授業方法】	集中講義(対面授業) 毎時間、講義内容について質疑応答・議論の時間を設ける(日本語・英語)。				
【授業展開】	1. Introduction 2. Modularity of Grammar, interface theory, critical period hypothesis (Chap. 1) 3. How L2 acquisition is different from L1 acquisition (Chap. 1) 3. Morphological inflections: 3rd person singular –s vs. plural –s vs. past –ed (Chap. 2) 4. Wh-movement: Easy or difficult to understand? (Chap.3) 5. Pied-piping and Preposition Stranding: Which is more difficult for Japanese learners of English? (Chap.3) 6. How “kare” is different from he: Who is “he”? (Chap.4) 7. Personal pronouns in narratives 8. Review & Exam				
【履修条件】	This course will be conducted in English.				
【評価方法】	Class participation (40%), a short report (10%), and final exam (50%)				
【テキスト】	第二言語習得研究への誘いー理論から実証へ(吉村紀子・中山峰治著、くろしお出版、2018 年)				
【参考書】	Handbook of Japanese Psycholinguistics (De Gruyter Mouton, 2017 年) 「英語の教え方」(くろしお出版、2025 年)				
【備考】	授業はパワーポイント資料を用いて、アクティブラーニングを実施する。 (授業の前に教科書の該当章を予習しておくことが重要である。) 資料内容やデータを注意深く考察し、論理的に、簡潔にまとめることを学習する。				
【社会人聴講生】	Welcome.	【科目等履修生】	Welcome.	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 I B	Introduction to Language Learning and Acquisition I B			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	This course introduces students to several main issues in the field of second (or foreign) language acquisition (SLA). We will discuss theoretical issues and empirical findings in recent SLA studies. This course aims to offer students a good chance to ref				
【授業概要】	We explore the following questions: (1) How L2 is different from L1—Modularity of Grammar and Interface Theory (2) What roles L1 plays in SLA (3) What factors are responsible for L1 transfer.				
【授業方法】	集中講義（対面授業） Lectures will be provided in English. (毎講義、授業内容について質疑応答・ディスカッションの時間を設けます。)(日本語・英語)				
【授業展開】	We will focus on the following issues in the field of second language acquisition (SLA): 1. Introduction—Modularity of Grammar, Historical Background of SLA 2. Control and Tough Constructions—PRO subject (Chap. 6) 3. NP—Movement and Raising Constructions (Chap. 6) 4. Seem Constructions 5. Passives 6. Relative Clauses 1 (Structures & Issues) 7. Tense & Aspect (Chap.7) 8. Answering Strategies (Chap.10)				
【履修条件】	This course will be conducted in English. The assigned textbook will be helpful. (授業の前に教科書の該当章を予習してください。)				
【評価方法】	Class Participation & Presentations (40%) and Final Exam (60%)				
【テキスト】	『第二言語習得研究への誘い—理論から実証へ』(吉村・中山著、くろしお出版、2018 年)				
【参考書】	Handbook of Japanese Psycholinguistics (De Gruyter Mouton, 2015 年) 『英語の教え方』(くろしお出版、2025 年)				
【備考】	講義はパワーポイント資料を用いて実施する。 クラスでの質問・コメントを評価する。 将来、英語あるいは日本語の教師になりたい学生にとって興味深い内容で有益な学習となる。				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 II A		Introduction to Language Learning andAcquisition II A		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	木曜 2 限	
【科目責任者】	*Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	1. Students can explain basic concepts of second language acquisition to others clearly and concisely. 2. Students can critically read and analyze English journal articles on experimental studies of second language acquisition.				
【授業概要】	This course is designed to introduce the study of second language acquisition. We will explore both the timing and methods by which learners of a second or foreign language acquire the linguistic components of the target grammar.				
【授業方法】	Each class consists of a lecture covering the following topics.				
【授業展開】	1. Introduction: A general view of L2 acquisition (1 week) 2. Aspect (3 weeks) •Form-before-Meaning Hypothesis •Telicity •Feature Assembly Hypothesis 3. Prosody (3 weeks) •Focus marking •Prosodic Boundaries •Prepositions and Articles 4. Topic-based presentation (1 week)				
【履修条件】	This course is ideal for students interested in language learning and the process of language acquisition. The course is conducted in English. この科目は英語で学ぶ授業ですが、英語力の向上を目指す受講生も歓迎します。				
【評価方法】	Class participation (50%), quizzes and short presentations (30%), take-home exam (20%)				
【テキスト】	TBD				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 II B		Introduction to Language Learning andAcquisition II B		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	木曜 2 限	
【科目責任者】	*Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	1. Students can explain basic concepts of second language acquisition to others clearly and concisely. 2. Students can critically read and analyze English journal articles on experimental studies of second language acquisition.				
【授業概要】	This course is designed to introduce the study of second language acquisition. We will explore both the timing and methods by which learners of a second or foreign language acquire the linguistic components of the target grammar.				
【授業方法】	Each class consists of a lecture covering the following topics.				
【授業展開】	1. Pronouns in the discourse (3 weeks) •Overt and covert pronouns •Pronouns in L1 •Pronouns in L2 2. Answering strategies (2 weeks) •Types and characteristics •L1 English •L2 English 3. Prepositions (2 weeks) •Lexical and syntactic properties of prepositions •Prepositions in L2 4. Review & short presentation (1 week) (Takehome exam)				
【履修条件】	This course is ideal for students interested in language learning and the process of language acquisition. The course is conducted in English. この科目は英語で学ぶ授業ですが、英語力の向上を目指す受講生も歓迎します。 後期前半の科目からの続きとなるため、可能であれば「言語の学習・習得 IIA」からの受講をお勧めします。				
【評価方法】	Class participation (50%), quizzes and short presentations (30%), take-home exam (20%)				
【テキスト】	TBD				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor’s previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students’ English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々		Health and Longevity Support in Shizuoka: Experts and Efforts in the Prefecture		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	*森本達也				
【担当教員】	*森本達也、富安真理、*新井英一、黒川洵子、*東野定律、井上和幸、*伊藤純子、刀坂泰史、*前野真由美、*木村綾、砂川陽一、三崎健太郎、*浅原久恵、川上由香、清水聡史、児玉昌美、*特別講師				
【授業目標】	現在日本では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。静岡県は、全国トップクラスの健康長寿県と言われており、そのような地域での実際の行政や様々な専門職の役割や活動について学び、さらには地域で人々が連携していくための考え方を学ぶ。				
【授業概要】	静岡県内の健康長寿を推進する地域包括ケアの概念を学び、それに基づき運営される各種の組織とその活動を理解するとともに、それを担う専門職とその役割、そして各職種の取り組みを紹介し、自らの健康づくりと、さらには地域の健康づくりになにかが貢献できるかを考える。				
【授業方法】	講義や課題学習など学生が参加できる方法を併用して行う。				
【授業展開】	1 ガイダンス 2 地域包括ケアシステムと静岡県内の健康づくりの概要 3 健康長寿を支える専門職 1・・・医師 4 健康長寿を支える専門職 2・・・看護師 5 健康長寿を支える専門職 3・・・薬剤師 6 健康長寿を支える専門職 4・・・保健師・助産師 7 健康長寿を支える専門職 5・・・理学療法士 8 健康長寿を支える専門職 6・・・社会福祉士 9 健康長寿を支える専門職 7・・・歯科衛生士 10 健康長寿を支える専門職 8・・・行政の役割 11 健康長寿を支える専門職 9・・・作業療法士 12 健康長寿を支える専門職 10・・・外国人への支援 13 健康長寿を支える専門職 11・・・ボランティアの役割 14 健康長寿を支える専門職 12・・・管理栄養士 15 健康長寿を支える専門職 13・・・介護支援専門員				
【履修条件】					
【評価方法】	ミニレポート・授業への参加度(56%)および筆記試験・レポートなど(44%)により評価します。よって総合的に評価する。				
【テキスト】	必要に応じて資料を配布する。参考書は授業の中で紹介する。				
【参考書】					
【備考】	特別講師の都合で順番を変更することがあります。 実務に携わっている特別講師が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な活動や考え方を講義する。 基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。 全講義回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定に必須である。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	静岡の防災と医療		Disaster Prevention and Medical Care in Shizuoka		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	*森本達也				
【担当教員】	*森本達也、谷澤康玄、砂川陽一、黒川洵子、刀坂泰史、清水聡史、児玉昌美、*特別講師				
【授業目標】	東日本大震災や熊本地震では、津波の影響や土砂崩れ等で人々は甚大な被害を受けた。静岡県においても南海トラフ地震等が予想されており、対策が急務である。 医療体制、及び避難場所の準備、食料支援の確保、PTSD のケア、ボランティアの組織、防災派遣医療チームの連携などのすべてを包括的に学修することで、専門職として、地域に住む個人として、学生として、自ら行動できるよう、知識及び防災活動に関する理解を深める。				
【授業概要】	静岡県内の防災と医療を推進する組織とその活動を理解するとともに、それを支える専門職とその役割、さらには取り組みを紹介し、自らの防災を考え、さらには地域の防災と医療になにが貢献できるかを考える。				
【授業方法】	講義に加えて、実演を交えるなど、学生が参加できる方法を併用して行います。 講義室での対面講義を基本としますが、講師陣の勤務先の指針に応じて、双方向を担保したオンラインで講義を行う場合があります。I				
【授業展開】	1 静岡の自然と人・・・静岡県立大学 元学長 2 地震予知とリスクとしての考え方・・・静岡県立大学 グローバル地域センター 特任准教授 3 巨大地震と防災力アップ・・・静岡県地震防災アドバイザー 4 災害に備える栄養と食事・・・静岡県立大学 食品栄養科学部 教授 5 トリアージ・・・静岡県立総合病院 看護師 6 災害時の病院等のロジスティクス・・・静岡県立こども病院 DMAT 隊員(業務調整員) 7 災害時の ICT 活用・・・静岡県立大学 経営情報学部 教授 8 災害医療の基本原則と多様性・・・浜松医科大学 教授(統括 DMAT) 9 静岡県の災害医療体制・・・静岡県職員 10 市民活動、応急処置・・・静岡県立大学医務室 看護師 11 広域搬送・・・コミュニティホスピタル甲賀病院 看護師(DMAT 隊員) 12 地域防災力・・・NPO 法人 Knot 理事長 13 害時のこころのケア・・・静岡大学 教育学部 教授 14 災害医療総論・・・静岡県立総合病院 災害医療センター長(統括 DMAT) 15 まとめ 講師陣の都合により、順番が変更する場合があります。				
【履修条件】					
【評価方法】	講義毎のミニレポート及び授業への参加度(56%)、筆記試験・レポート(44%)により、総合的に評価します。 出席・ミニレポート提出はユニバーサルパスポートを介して行います。				
【テキスト】	講師陣に応じて、講義資料の電子ファイルを配布します。				
【参考書】					
【備考】	実務に携わっている特別講師が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な活動や考え方を講義します。 特別講師の都合で順番を変更することがあります。 定期試験受験資格は出席が全授業回数の 2/3 以上とします。 遅刻2回で1回欠席扱いとします。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	静岡地域食材学 A	Local Food Materials A		
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	三好規之			
【担当教員】	三好規之、谷晃、*静岡県庁経済産業部の職員ほか			
【授業目標】	静岡県内で生産されている特徴ある食材に関して広範に学ぶ。			
【授業概要】	静岡県は茶のみならず柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇る。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高い。このような背景のもと、静岡県立大学の学生には学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身に付けて欲しい。そこで、本科目では、静岡県内で生産される複数の食材について、歴史、生産、加工、成分の化学、生理機能などに亘る広範な項目をそれぞれの専門家が解説する。A では、おもに静岡県の農業、畜産業および水産業について、それぞれに特色ある食材を取り上げる。			
【授業方法】	本学教員と静岡県職員によるオムニバス形式の講義で、配付プリントとスライドを使って行う。			
【授業展開】	1. 初回ガイダンス(講義の進め方と成績評価法の説明) 2. 静岡県の食に関する生態系 3. 静岡県の食料生産 4. 静岡県の農作物 5. 静岡県の畜産物 6. 静岡県の水産物 7. 静岡県の食文化 ※一部の講義を外部講師に依頼するため、講義の順番が変わる場合もあり。			
【履修条件】				
【評価方法】	出席状況とレポートを総合して評価する。			
【テキスト】	必要に応じて講義担当者が紹介する。			
【参考書】	必要に応じて講義担当者が紹介する。			
【備考】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	静岡地域食材学 B	Local Food Materials B			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	江口智美				
【担当教員】	市川陽子、江口智美、下山田真、増田修一、*静岡県工業技術研究所の研究員(特別講師)ほか				
【授業目標】	静岡県内で生産されている特徴ある食材に関して広範に学ぶ。				
【授業概要】	静岡県は茶のみならず柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇る。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高い。このような背景のもと、静岡県立大学の学生には学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身に付けて欲しい。そこで、本科目では、静岡県内で生産される複数の食材について、歴史、生産、加工、成分の化学、生理機能などに亘る広範な項目をそれぞれの専門家が解説する。B では、おもに静岡県の優れた食品加工技術や機能性食品、未利用資源の活用などについて取り上げる。				
【授業方法】	対面授業。 本学教員と県内の研究所・企業・大学の講師によるオムニバス形式で、配付資料やスライドを使ってレクチャー形式の講義を行う。				
【授業展開】	1. オリエンテーション、静岡県の米料理・加工品 2. 静岡県の発酵食品(大豆を中心に) 3. 静岡県の缶詰産業(歴史で振り返る地域の活性化) 4. 静岡県の未利用資源①(鹿肉) 5. 静岡県の機能性食品(わさびほか) 6. 静岡県の水産加工品(かつお節、はんぺん) 7. 静岡県の未利用資源②(魚類) ※一部の講義を外部講師に依頼するため、講義の順番が変わる場合がある。				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	出席状況とレポートを総合して評価する。 出席は、原則として、授業回数の 3 分の 2 以上(5 回以上)を必要とする。 レポートは、講義内容に関する 200～300 字程度のミニレポートを毎回課す。				
【テキスト】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【参考書】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【備考】	*特別講師の静岡県工業技術研究所の研究員、県内食品製造業の開発担当経験者、県内大学教員が、静岡県の特色ある加工食品の特徴や製造技術、流通や販売等について解説する。 初回授業日は、後期の 8 回目(2025 年 11 月 20 日)。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	茶学入門	Introduction to Tea Science			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	*中村 順行				
【担当教員】	*中村 順行 他				
【授業目標】	静岡に立地する本学学生の教養として、茶に関する広範な知識を学ぶ				
【授業概要】	静岡県は全国有数の茶葉、飲料、加工食品の生産県であり、本学を含めた複数の大学や国公立の試験研究機関、民間企業において茶関連の食品、医薬品、化成品の研究が活発に行われている。したがって本学の学部生や大学院生はそれらを就職先として考えることも多い。また、静岡県においても「茶の都」づくりの推進や本学内にも茶学総合研究センターの設置など、茶を Keyword とした取組も多い。このような背景のもと、学生には、学部を問わず茶に関する広範な知識と教養を身につけることが望ましい。そこで、当科目は茶についての歴史、文化、経済、生産、加工、味、香り、生理機能、茶の多用途利用・商品化など広範な項目をそれぞれの専門家に解説して頂き、知識を深める				
【授業方法】	プリントやプロジェクターを使った対面式講義				
【授業展開】	1. ガイダンス:講義の進め方、成績評価方法、茶学に関する概説等 2.3. 茶の歴史、文化:茶の起源、飲用方法、茶にまつわる因習等の文化的、歴史的な面についての概説 4.5. 茶の種類、生産、加工、飲用方法:多種多様な茶種が栽培、加工されており、それに関する最先端技術の紹介、各茶種の特性を活かした、茶の淹れ方、飲用方法について科学的な概説 6.7.8.9. 茶の機能:茶を特徴づける成分について、その特徴、機能、効能等を化学的、生理的に概説 10.11.12. 茶に関わる商品開発、マーケティング:茶の多彩な商品開発への展開、消費者へ届くマーケティング戦略、茶畑の景観を生かしたグリーンティーズム等 13.14.15. 茶の静岡県、日本、世界へ向けた施策及び、次世代への展望: 静岡県の茶の都づくり、世界へ向けた日本茶の輸出についての取り組み、茶の特性を活かした、次世代への展開について概説、総括				
【履修条件】					
【評価方法】	原則的に、授業への取り組み姿勢及びレポート・小テストなどにより評価する				
【テキスト】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【参考書】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【備考】	講師陣として、茶関連研究の第一人者をゲストスピーカーとして招きつつ、幅広く茶学の初歩部分全般を講義する				
【社会人聴講生】	社会人聴講生は 30 名まで	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	ムセイオン静岡－MUSEUM と文化 A	Mouseion-Museum and Culture A
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】 火曜 4 限
【科目責任者】	立田洋司(たつた ようじ)	
【担当教員】	立田洋司 ※ほかに特別講師(例:ふじのくに地球環境史ミュージアムから)の招聘も考えてはいるが未定。	
【授業目標】	◇この科目は、いわゆる地域学や郷土史学などとは全く異なる。便宜上「しずおか学」に分類されているが、『Museum と文化』は、言い換えれば「人類史における文化的足跡について考える」講義である。 ◇諸君の学びの場の基盤となる静岡県立大学は、優れた文化施設(県立美術館、県立中央図書館、舞台芸術センター、ふじのくに地球環境史ミュージアム)などと近接している。本講義は、この恵まれた文化環境を生かすことを視野に入れ、諸君に幅広い教養と生きた知識を身につけてもらうことを主旨としている。 ◇またこの科目は、諸君が今後、Nippon(日本)と「University of Shizuoka＝静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負と、そのための国際教養の涵養を目指している。社会に出たあと、静岡県立大学を卒業したことを誇りに思えるような人間になってもらいたい。 ◇「世界の5大(10 大)Museum」や「日本の3大博物館」、また「非常に特色ある Museum」などを紹介し、文化的国際教養をはじめ、今後の諸君の教養構築を補佐する。 ◇とくにヨーロッパの文化や欧米の MUSEUM に興味ある学生や、外国留学を考えている学生、またこれから国際舞台での活動を目指す学生には、この講義において「universal education(国際教養)」の本質(基礎)を身に付けてもらいたい。世界と日本とを合せて考察(比較文化的に)するので外国人留学生も大歓迎。	
【授業概要】	◇本講義では、世界の Museum を人類史的な視点から比較文化論的手法を交えて捉える。 ◇前半はとりあえず、人類の文化財の収蔵庫である美術館、博物館、さらには文化財の宝庫としての寺院・聖堂などから、最重要と思われる幾つかを取り上げて解説。 ◇基本的に受験勉強のような細かな文字面上の暗記的知識は不問・不要。リラックスして脳を柔軟に働かせたうえで、文化の「質」や歴史的バックグラウンドの差異などに対する感覚的な把握を趣旨とする。 ◇講義内容は、立田の現地調査(field-work)と実体験とに基づく研究による。 ※ちなみにフィールドワークの目指すところのひとつは、その地その時の人間の思索と行動を「場」として捉えること。卑近な言い方をすれば、「私という研究者と当時の彼らとを同時代的に捉え、彼らの喜怒哀楽、世界観・人生観などを、同じ人間としてシンクレタイズさせて感じる」ことである。 ◇諸君には、想像を逞しくして五感を拓いてもらい、文物(作品)がつくられた当時の社会精神風土や「個」としての芸術家・学者などを感じ取ってもらいたい。具体的な作品や文物はここでは逐一挙げられないが、この講義の要点の一つは「文物・作品が語るもの」を自ら感じ取ること(エンパシー: empathy)である。 ◇そのためプレゼンテーションには画像を多く取り入れ、視覚を中心に五感を鼓舞することに注力する。場合によっては、音楽的な内容に触れることもある。	
【授業方法】	◇基本的に、独自のプレゼンテーションによる講義。 ◇ネットなどで調べれば済むようなことは、原則的に講義しない。内容については、高度な大学レベルを保証する。 ※話すことが多く講義量がかなり多くなるので、時間が足りない場合はユニパの「授業資料」に掲載することもありうる。 ◇受講生にはユニパの『授業 Q&A 回答』欄を活用してもらいたい。そのうえで、諸君からの感想や質問を講義にフィードバックすることを考えている。 ◇状況が許せば、Museum の特別展などを、Museum の学芸員などの解説つきで実施。 ※課題などに関しても、単なる辞書的知識の羅列は無用で、書物やネットで調べたことも、そのまま書き写すようなことをしても自身のためにはならない。一旦自分の頭脳と心で受け止めることが肝要。ただし、思い込みや外的認識については今後の訓練により漸次修正していく必要はある。あくまで現在進行形の自分自身の五感の解放と、それによる洞察力や想像力の発揚を期待する。	
【授業展開】	前半 A は、以下の講義を予定。 ①&②なぜ人間は「Museum」をつくってきたのか？ 特に世界的に超有名な Museum について国際教養の観点から取り上げる(※たとえば、『ルーブルの至宝』とは？)	

	③④ヨーロッパの美術館の中で、スペインは何故雰囲気が違うのか？ ⑤ 世界の知識人が選ぶ日本の特色ある Museum や寺社仏閣、庭園など ⑥フィレンツェ(Firenze)とヴェネツィア(Venezia)の違いをどのように捉えるか？ ⑦ その他、知っておくと役に立つ知識 ※時間的余裕や状況に拠るがフィレンツェ(Firenze)、美術館見学なども考えている。				
【履修条件】	なし。ただし A,B ともに受講することが望ましい。				
【評価方法】	課題(試験またはレポート)での評価。当然ながら出席状況も勘案される。 ※課題は、入試問題のような知識(調べれば分かるような事項)を問うものではなく、知識の正誤を問うものでもない。基本的には、この講義を受けて諸君が感じ考えたことを、自分自身の文で書き綴ってもらいたいと思っている。				
【テキスト】	使用しない。				
【参考書】	使用しない。必要に応じて、講義内で紹介する。				
【備考】	◇見学等を実施する場合、静岡県立美術館の特別展(平常展は無料)、ふじのくに地球環境史ミュージアムの入場料(学生料金)は自己負担となる。 ◇また、この科目の性格上(いわゆる座学だけの講義ではない)、美術館などの見学(土・日・祝日などへの振り替え)や、自己見学(見学レポート提出)になる可能性もあるので、あらかじめ認識しておくこと。				
【社会人聴講生】	原則聴講可だが、有事の場合は大学側の方針に従うことになる。	【科目等履修生】	原則可だが、有事の場合は大学側の方針に従うことになる。	【交換留学生】	

【科目名】	ムセイオン静岡－MUSEUM と文化 B	Museion-Museum and Culture B
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】 火曜 4 限
【科目責任者】	立田洋司(たつた ようじ)	
【担当教員】	立田洋司 ※ほかに特別講師を招聘する可能性もあるが未定。	
【授業目標】	◇この科目は、いわゆる地域学や郷土史学などとは全く異なる。便宜上「しずおか学」に分類されているが、『Museum と文化』は、言い換えれば「人類史における文化的足跡について考える」講義である。 ◇諸君の学びの場の基盤となる静岡県立大学は、優れた文化施設(県立美術館、県立中央図書館、舞台芸術センター、ふじのくに地球環境史ミュージアム)などと近接している。本講義は、この恵まれた文化環境を生かすことを視野に入れ、諸君に幅広い教養と生きた知識を身につけてもらうことを主旨としている。 ◇またこの科目は、諸君が今後、Nippon(日本)と「University of Shizuoka＝静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負と、そのための国際教養の涵養を目指している。社会に出たあと、静岡県立大学を卒業したことを誇りに思えるような人間になってもらいたい。 ◇今回はとくに、ヨーロッパ近現代の原点であるルネッサンスを振り返り、その特質について言及する。 ◇とくにヨーロッパ文化に興味ある学生や、外国留学を考えている学生、またこれから国際舞台での活動を目指す学生には、この講義において「universal education(国際教養)」の本質(基礎)を身に付けてもらいたい。世界と日本とを合せて考察(比較文化的に)するので外国人留学生も大歓迎。	
【授業概要】	◇基本的に、オリジナル・プレゼンテーションによる講義。画像をできるだけ多く取り入れ、視覚を中心に五感を鼓舞することに注力する。場合によっては、音楽的な内容に触れることもある。 ※講義量がかかなり多くなることが予想されるので、時間が足りない場合はユニパの「授業資料」に掲載することもありうる。 ◇講義の基本は、立田の現地調査(field-work)とそれに基づく研究による。 ※自身のフィールドワークでは、その地その時代の人間の思索と行動を「場」として捉え、彼らの喜怒哀楽、世界観・人生観などを、同じ人間として同時代的にシンクレタイズさせて感じる」ことが基本的姿勢であった。 ◇したがって、本講義では受講生に受験勉強のような細かな文字面上の知識は強要せず、文化の「質」や歴史のバックグラウンドなどを感覚的に把握してもらうことが主旨とする。 ※後半 B の講義では、とくにヨーロッパ文化を理解するための根幹について、そのいくつか取り上げて解説する予定。	
【授業方法】	◇基本的に、独自のプレゼンテーションによる講義。 ◇ネットなどで調べれば済むようなことは、原則的に講義しない。内容については、高度な大学レベルを保証する。 ※話すことが多く講義量がかかなり多くなるので、時間が足りない場合はユニパの「授業資料」に掲載する k ともある。 ◇ユニパの『授業 Q&A 回答』欄を積極的に活用してもらいたい。その上で、諸君からの感想や質問を講義にフィードバックしたいと考えている。 ◇状況が許せば、Museum の特別展などを、学芸員などの解説つきで実施。 ※試験やレポートについては、細かい文字面的知識やその正誤(○×)は基本的に問わない。あくまで諸君自身の五感の解放とそれによる洞察力や想像力の発揚を期待する。	
【授業展開】	B では、以下の講義を予定。 ①② 諸君は、「ルネッサンスの都」と呼ばれる都市の名を幾つ知っているか？(※これを知っただけで、イタリアのみならず、西洋文化を或る程度は見通せる。)また、それらの都市に建つ、特徴的で世界的にも重要な美術館(museo)についても抜粋解説。 * 時間が許せば、「ルネッサンスを掘れば古代エトルリアが出る」という話も。 ③ ほとんどの日本人が知らない、レオナルド・ダ・ヴィンチ以前の「巨人」と、その遺産。 ④⑤ レオナルド・ダ・ヴィンチ; 謎の人物像と残された作品(※場合によっては	

	⑥ 世界で唯一無二の Museum＝大塚国際美術館（鳴門市） ⑦ その他、TPO に応じた講義を行う可能性もある。 ※時間的余裕や状況に拠るが、美術館見学なども考えている。				
【履修条件】	なし。できれば前半 A も履修することが望ましい。				
【評価方法】	評価は課題（試験またはレポート）と授業への取り組み状況、出席状況による。 ※課題は、細かな知識そのものは問わないし、その正誤を問うものではない。基本的には、この講義から諸君が感じ学んだことを、自分自身の文でエッセイを書くように記してもらえば、と考えている。				
【テキスト】	とくにテキストは使わない。必要があれば、資料をユニパで配信する。				
【参考書】	特になし。参考文献などについては講義中で紹介する。				
【備考】	◇この科目の性格上（いわゆる「座学」ではない）。そのため、もし美術館見学などを実施する場合は、土・日・祝日などへの振り替えや自己見学（個別見学）も想定されるので、あらかじめ認識しておくこと。				
【社会人聴講生】	聴講可だが、状況によっては、大学の方針に従う場合がある。	【科目等履修生】	可だが、状況によっては、大学の方針に従う場合がある。	【交換留学生】	

【科目名】	ムセイオン静岡ー世界の文化遺産 A	Mouseion-Cultural Heritage in the world A	
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	水曜 2 限
【科目責任者】	立田洋司(たつた ようじ)		
【担当教員】	立田洋司 ※特別講師(未定)を招聘する可能性もある。		
【授業目標】	◇この科目は、便宜上「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学ではない。「世界の文化遺産」と銘打ってあるとおり、文字通り貴重な地球上の文化遺産から人類の文化的足跡を追跡し、ひいては諸君の世界観・人生観が広深化することに寄与することを期待している。 ◇さらに、諸君が今後、Nippon(日本)と「University of Shizuoka＝静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負や国際教養の涵養を目指すものでもある。 ＊ ＊ 諸君に心がけてもらいたいのは、何よりもまず、暗記的学習「cram-memorization」とステレオタイプの認識からの脱却である。そのためにまず、無理に覚えようとはせず、五感・直感の鍛錬を第一に心がけてもらいたい。		
【授業概要】	◇単なる「ユネスコの世界文化遺産」の解説ではなく、文化や歴史の深奥に触れる。 ◇「世界遺産検定」などにも無論役立つが、もっと深い人間学的な問題、たとえば「人間は何故こういうものを創ってきたのか」「そのバックボーンは何だろうか」というようなことを思索する契機になれば、と考えている。 ◇基本的に辞書の教科書的な知識からは距離をおき、固有名詞や語彙を覚えることも強要しない。 ◇ネットでは調べられない、あるいは調べても肝腎なことはよく分からないようなことを重点的に講義。 ◇何よりも諸君には、五感を拓いて感性を鍛え、柔軟な思考能力を養ってもらいたい。 ◇大学で世界文化遺産を学ぶ意義、および国際教養としての世界文化遺産に対する知識を共に考えてもらいたい。		
【授業方法】	本授業は、独自に作成したプレゼンテーションによる。方針としては、受講生諸君が柔軟に対応・思索できるように、以下のことを心がける； ◇無理に文字面(もじづら)を覚えようとする必要が無い講義 ◇対象物(文化財)の意味やその捉え方を感覚的に把握できるよう、画像を多用したプレゼンテーション。 ◇立田が実際に現地調査・フィールドワークなどで見聞し、長年研究してきたものを中心に、実体験を交えて講義する。 ◇出来るだけ学際的な見地、すなわち文化史一般・芸術学・歴史学・美術史学などを含む総合的見地から講義する。 ◇受講生諸君の「五感の開放」や「直感」、「感性的反応」を重視する。 ◇文字・用語に偏った教科書的な知識を強要しない。また、正誤(○×)を問うような課題は出さない。		
【授業展開】	◇予定としては、一応以下のような内容を考えている。 ①オリエンテーション&或るエピソード(幾つかの話から選択して話す予定) ②スケールの大きな時空感覚を身に付けよう！→「現在・近過去・近未来への執着から離れて悠久の時空へ」 ③20 歳代のアレクサンドロス3世(大王)は、人間文化に何をもたらしたのか？(※コスモポリタニズム時代の文化遺産) ④仏教と古代ギリシアには接点があった？→「ガンダーラ」という稀有な文化遺産。 ⑤黙示録と末法思想が残したもの(※言わば、現在ではなく未来に希望を託した時代の文化遺産)を並べてみると何が見えてくるだろうか？→カッパドキア(Cappadocia)の世界遺産紹介。 ⑥西洋キリスト教世界を感覚的に理解するための話＝「黒い聖母」。キリスト教文化の根幹とその文化遺産。 ⑦西ヨーロッパで最も古いキリスト教文化遺産とビザンティン世界(時間が許せば、日本文化との比較も通して) ※その他、コンテンポラリーなテーマに触れることも。 ※理解促進や内容改良のために変更もある。ただし、全体として講義する内容は、「世界の重要な文化遺産」であることに変わりはない。		
【履修条件】	とくに無し。敢えて言えば、「国際教養」の構築や「固定概念からの脱却」に関心のある者に聴いてもらいたい。		
【評価方法】	課題と授業への取り組み状況、出席状況による。 ※課題は試験またはレポート提出とするが、いずれの場合も教科書的な知識や正解を問うものではなく、受講生諸君の感性から捉えた授業の感想を自分の文章で書いてもらう。		
【テキスト】	テキスト用の書物は使用しない。すべてオリジナルの講義資料による。		

【参考書】	必要に応じて、講義の中で紹介する。				
【備考】	場合により、また時間的に可能であれば、小講堂における視聴覚を交えた講義も考えている(未定)。				
【社会人聴講生】	聴講可 ※ただし、有事の場 合は大学の方針に 拠る。	【科目等履修生】	聴講可 ※ただし、有事の場 合は大学の方針に拠 る。	【交換留学生】	聴講可

【科目名】	ムセイオン静岡－世界の文化遺産 B	Mouseion－Cultural Heritage in the world B
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】 水曜 2 限
【科目責任者】	立田洋司(たつた ようじ)	
【担当教員】	立田洋司 ※特別講師招聘の可能性あり。	
【授業目標】	◇この科目は、便宜上「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学ではない。「世界の文化遺産」と銘打ってあるとおり、文字通り貴重な地球上の文化遺産から人類の文化的足跡を追究し、ひいては諸君の世界観や人生観の深化を目標としている。 ◇さらに、諸君が今後、Nippon(日本)と「University of Shizuoka＝静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負と国際教養の涵養を目指すものでもある。 諸君に心がけてもらいたいのは、何よりもまず、暗記的学習「cram-memorization」とステレオタイプの認識からの脱却である。そのためにまず、無理に覚えようとはせず、五感・直感の鍛錬を第一に心がけてもらいたい。	
【授業概要】	◇単に「ユネスコの世界文化遺産」を知るためではなく、文化の本質や歴史の深奥に触れる。 ◇「世界遺産検定」には無論役立つが、検定試験問題の正誤を超えた人類史的・人間学的な問題を考える。たとえば、「文化遺産の歴史的・地誌的背景」、「polyheism(仏教やその他の多神教)と monotheism(キリスト教など)における文化的資質の差異」、「なぜローマとギリシアでは文化の質がこれほど違うのか」というような問題についてである。 ◇基本的にステレオタイプの学習からは距離をおき、vivid な捉え方を示唆する。 ◇それに関連して、固有名詞や語彙を受験時代のように覚えることは強要しない。 ◇ネットでは調べられない、あるいは調べても肝腎な意味の把握には至らないようなことについて重点的に講義。 ◇何よりもこれからの諸君には、できるだけ五感を拓き同時に感性を鍛え、柔軟な思考能力を磨いてもらいたいと考えている。	
【授業方法】	☆本授業は、独自に作成したプレゼンテーションによる。基本的方針としては、受講生諸君が柔軟に対応・思索できるように、以下のことを心がける； ◇無理に文字面(もじづら)を覚えようとする必要が無い講義 ◇対象物(文化財)の意味やその捉え方を感覚的に把握できるよう、画像を多用したプレゼンテーション。 ◇立田が実際に現地調査などで見て研究してきたものを中心に、実体験を交えて語る。 ◇出来るだけ学際的な見地、すなわち文化史一般・芸術学・歴史学・美術史学などを含む総合的な見地から講義する。 ◇受講生諸君の「五感の開放」や「直感」、「感性的反応」を重視する。 ◇教科書的な知識は問わないし、正誤(○×)を問うような課題は出さない。	
【授業展開】	① オリエンテーション&立田の実体験を基にしたエピソード ②,③ スペインは何故多くの魅力を持っているのか？(スペイン文化を知るための序章) ④ 日本人はほとんど知らない！ → イタリアが最も大事にしている文化遺産とは？ ⑤ 日本文化の世界的卓越性；奈良や京都はフィレンツェ(Firenze)などのルネサンス都市よりずっと古いという事実。 ⑥ 古代とキリスト教世界は、なぜ文化的資質がこれほど違うのか？(世界文化遺産から考える) ⑦ 文明の十字路・文化遺産の宝庫＝トルコ(アナトリア)；30 年ほど前から日本人に人気の出たトルコ観光。だが、実際は想像以上に凄い！ ※時間があれば、カッパドキア(世界複合遺産)やサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路(ヨーロッパ最大規模の世界文化遺産)に関する各論的な話や、マルタやサルデーニャ、アルメニアやジョージアなどから、実体験を交えて語る。	
【履修条件】	なし。敢えて言えば、「国際教養」や「異文化」に関心のある者に聴いてもらいたい。	
【評価方法】	課題と授業への取り組み状況、出席状況による。 ※課題は試験またはレポート提出とするが、いずれの場合も教科書的な知識や正解を問うものではなく、受講生諸君の感性から捉えた授業の感想を自分の文章で書いてもらう。	
【テキスト】	とくに無し。オリジナル講義資料による講義。	

【参考書】	必要に応じて提示する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	聴講可 ※ただし、有事の場 合は大学の方針に 拠る。	【科目等履修生】	聴講可 ※ただし、有 事の場合は大学の方 針に拠る。	【交換留学生】	可